

教学博士



みなもと 太郎

教学博士

目 次

第 1 章	色心不二	3
第 2 章	因果とは	46
第 3 章	三世の生命	65
第 4 章	生死不二	96
第 5 章	有情と非情	121
第 6 章	成仏とは	153
第 7 章	十界論	166
終 章	仏の生命	234

第 1 章

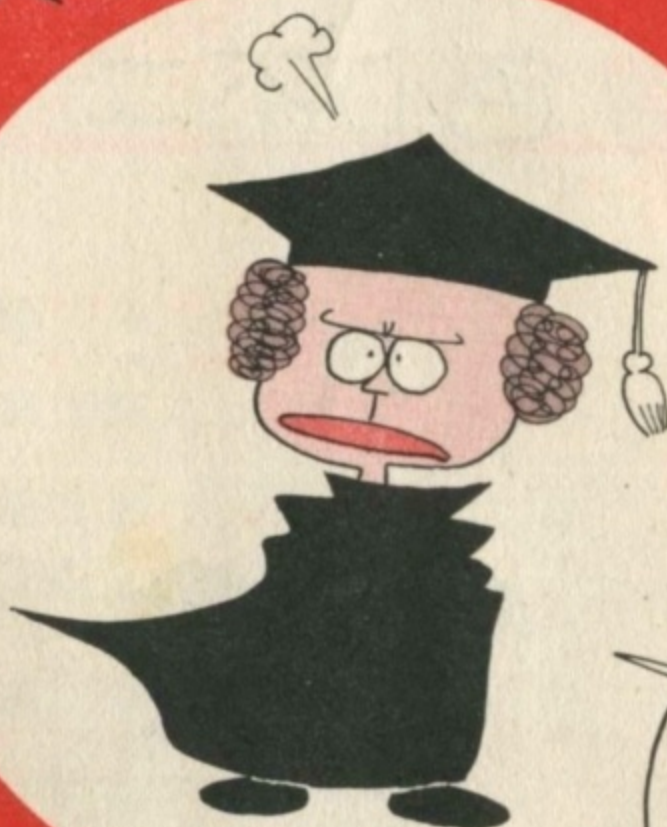
色心不二



えー、私が
キョウガク博士で
あります

狂学博士じゃ
ないっ

共学博士
でも
ないの

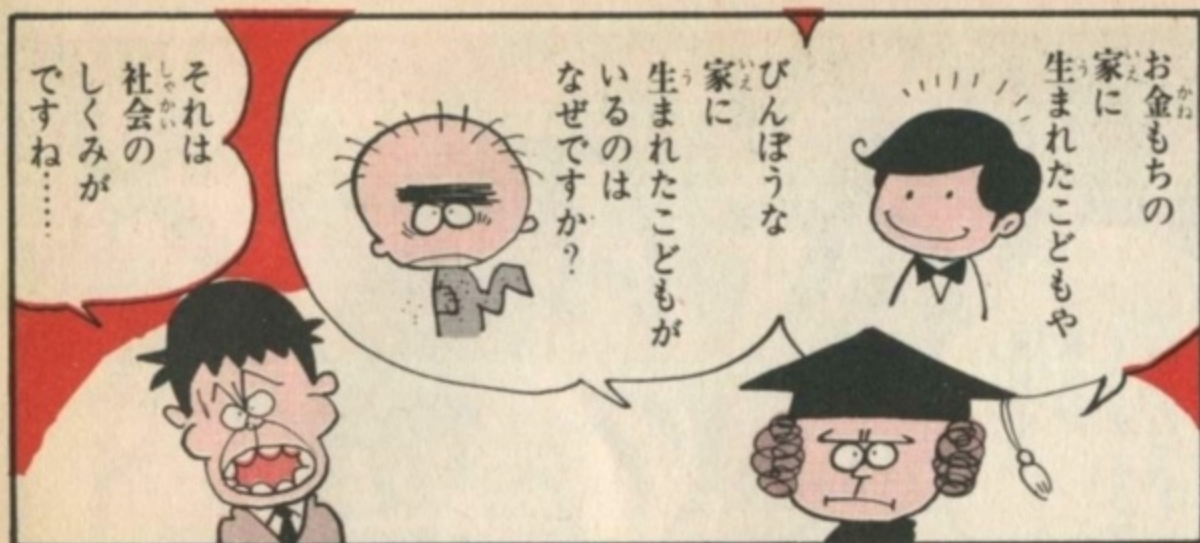


驚愕博士
じゃないよっ
おどろいて
どうすんの

私は
みなさんと
いっしょに
教学を
勉強
するので
あります
じゃ
さっそく
はじめるよ







ドカーン

世界中で
戦争が
くりかえされて
いるのです

わあっ



あんたそれ
ほんきで
しんじてるん
ですか!!

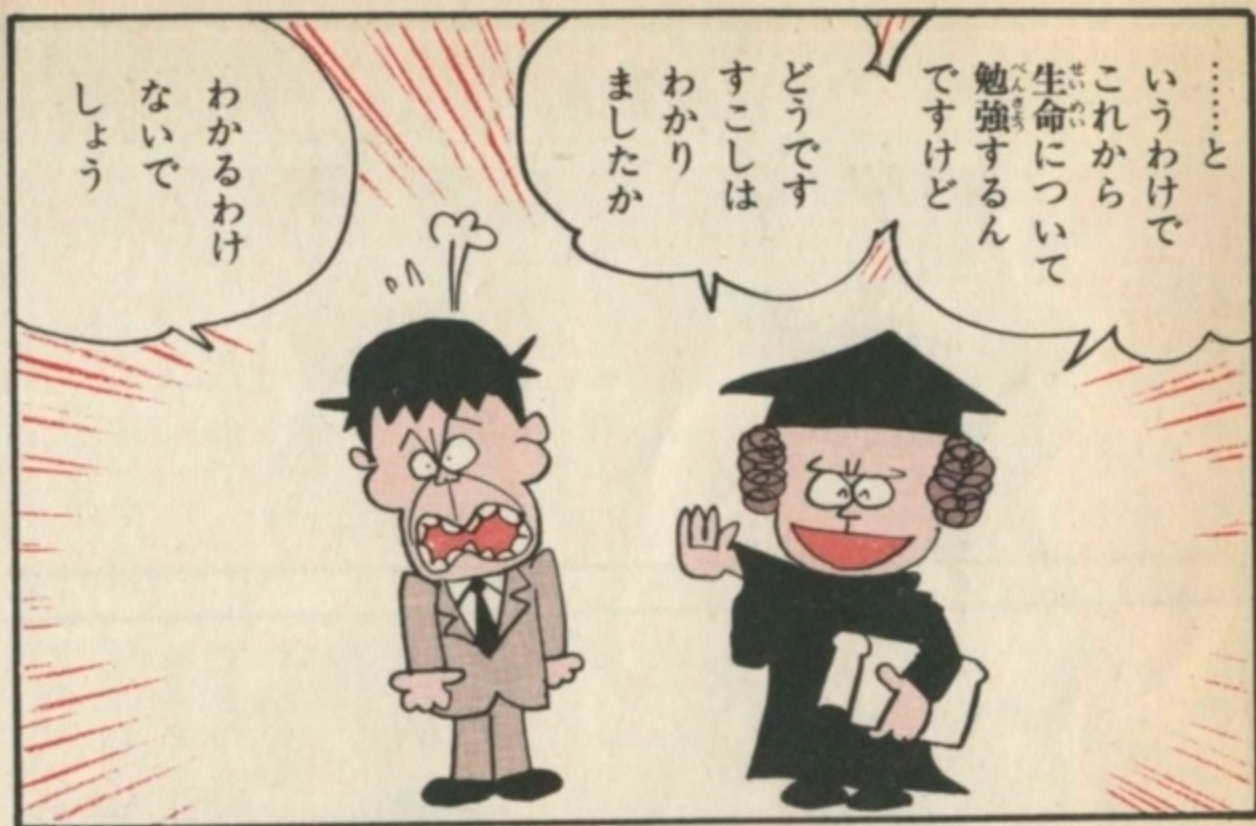
いや
ただ
なんとなく

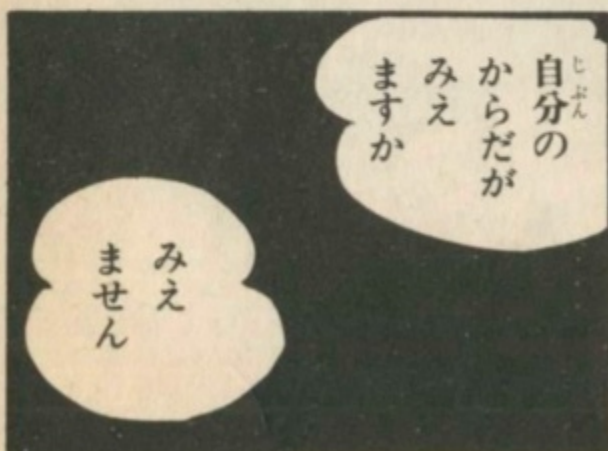


死んで
いった
人たちの
生命は
どこへ
いったん
ですかね...
お空へ
のぼって
いったん
でしょう









じゃー
あんた
死んじやつ
たん
です
ね

生きて
ますよ!!

ほう
なぜ
わかるの?

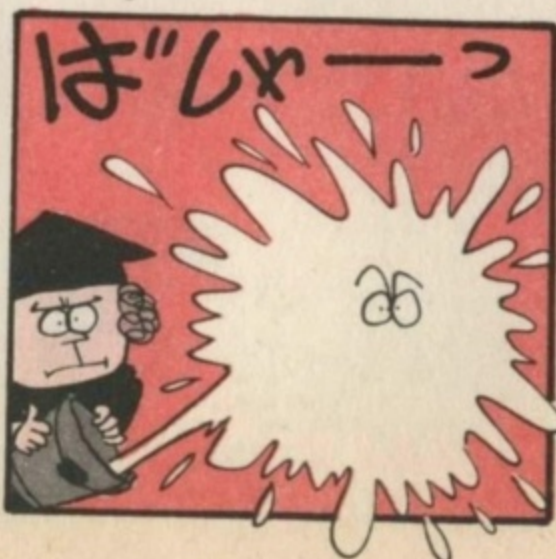
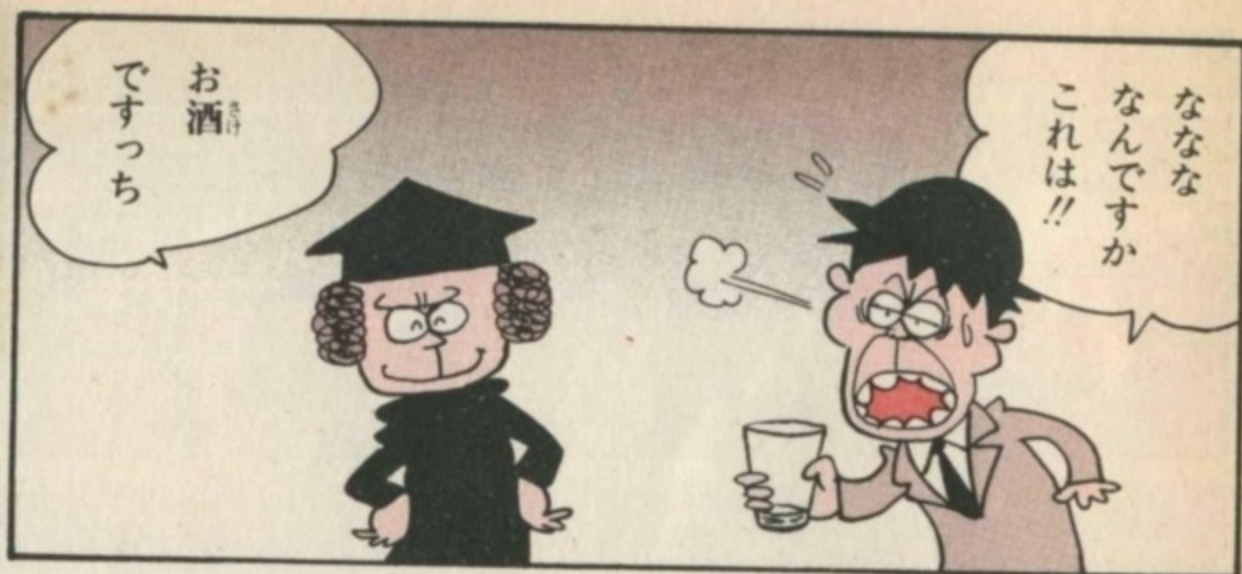
かんが
考える
ことが
できる
からです
心こころが
あるから
ですよ!

わかり
ました
目を
あけて

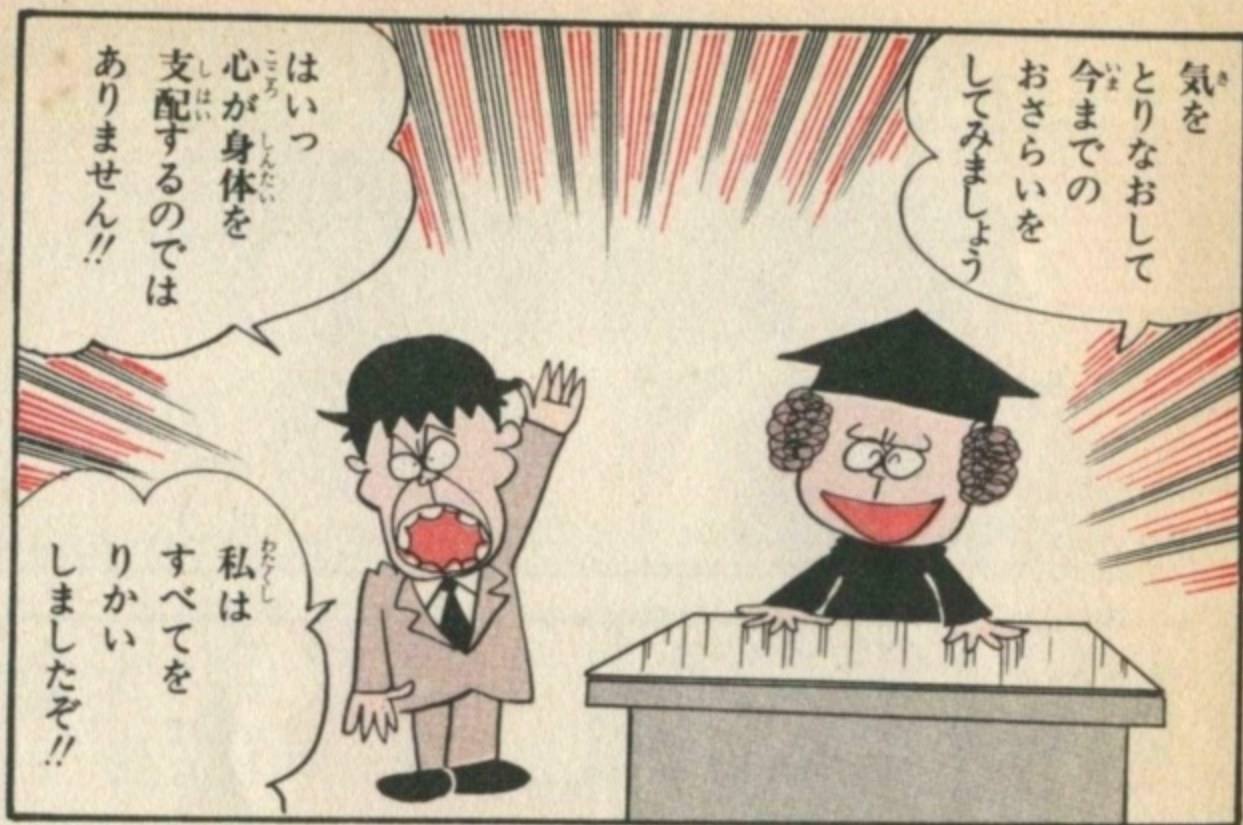
はいっ

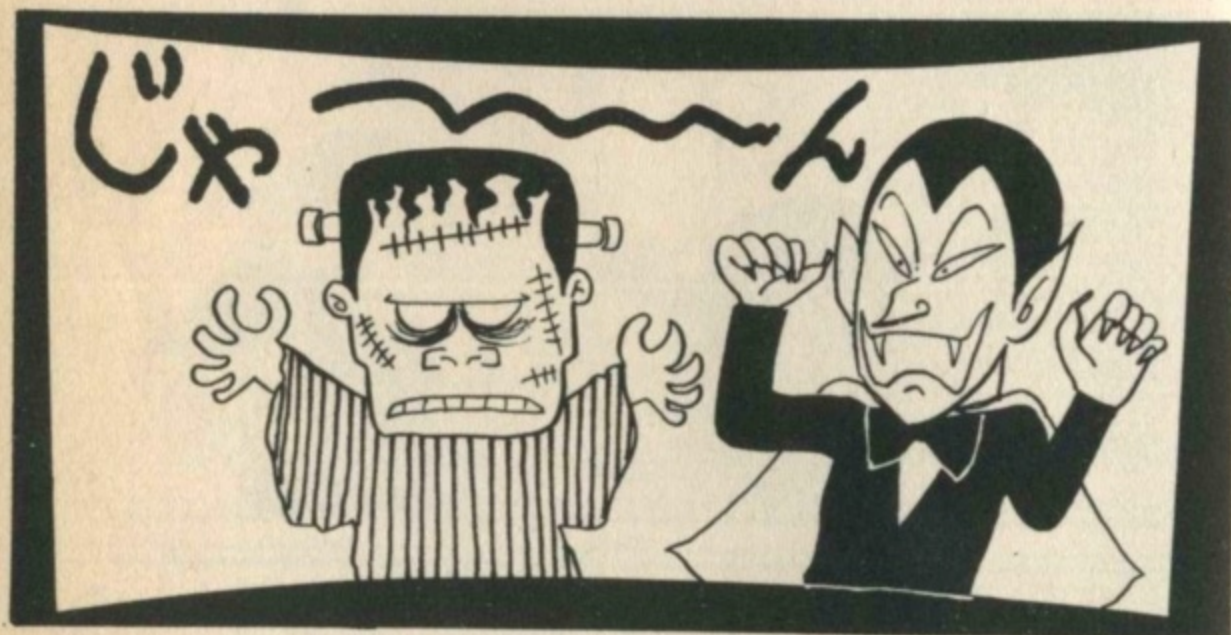
あー
ほっと
した

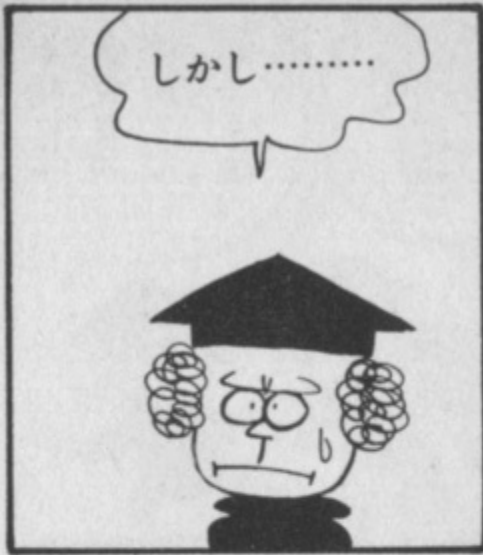


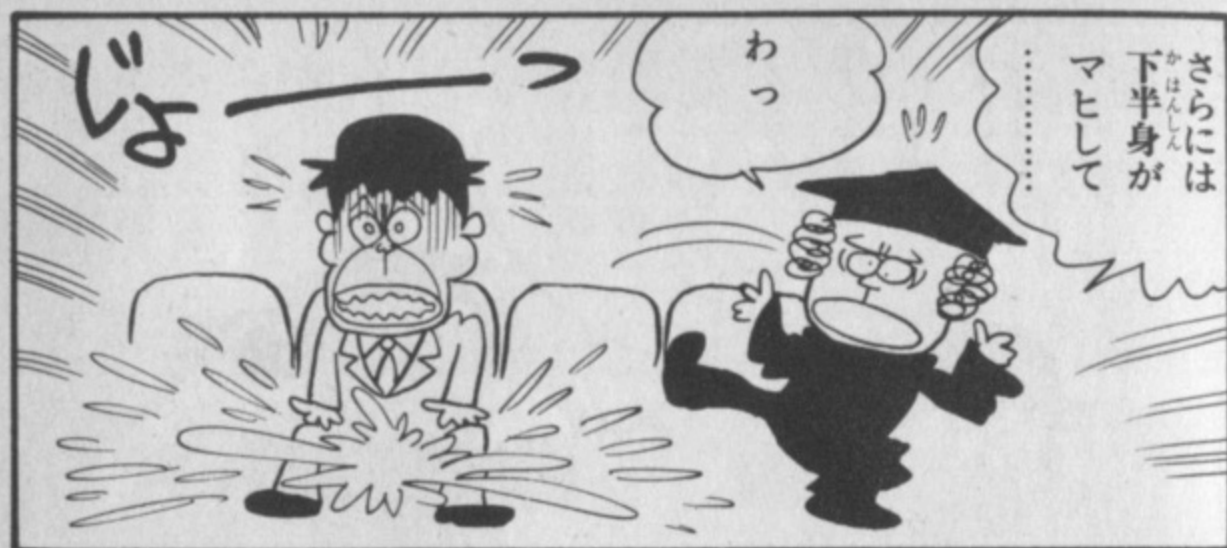


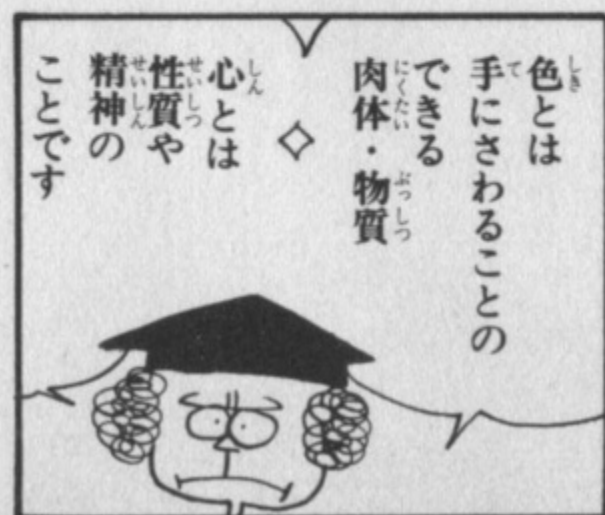


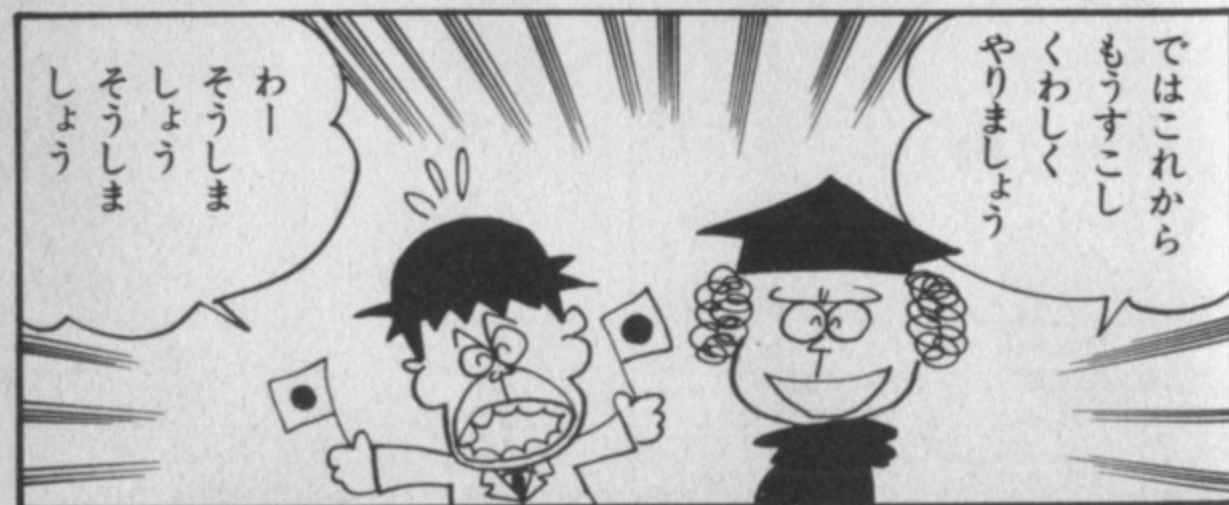
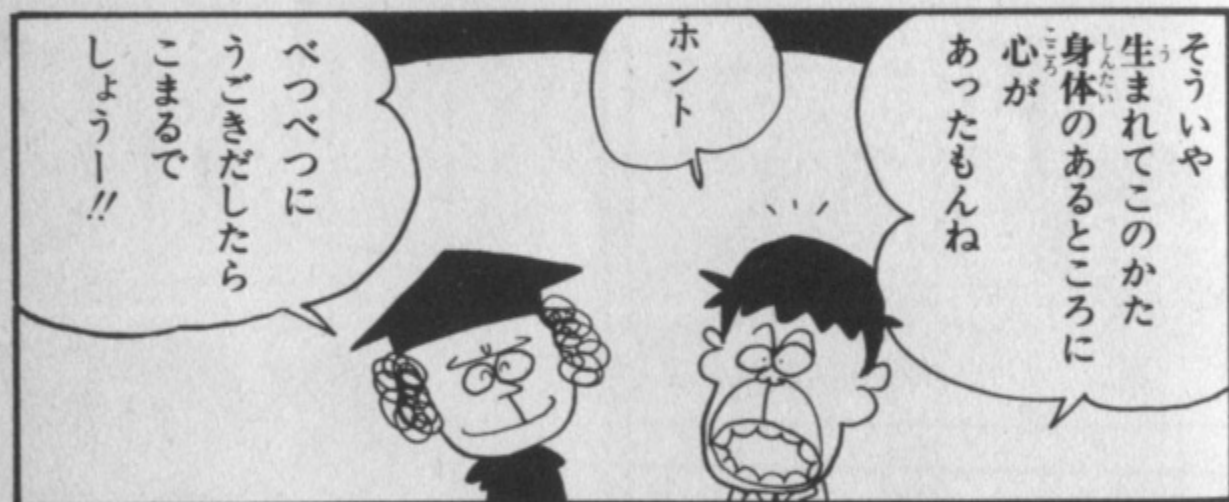














第1章 色心不二









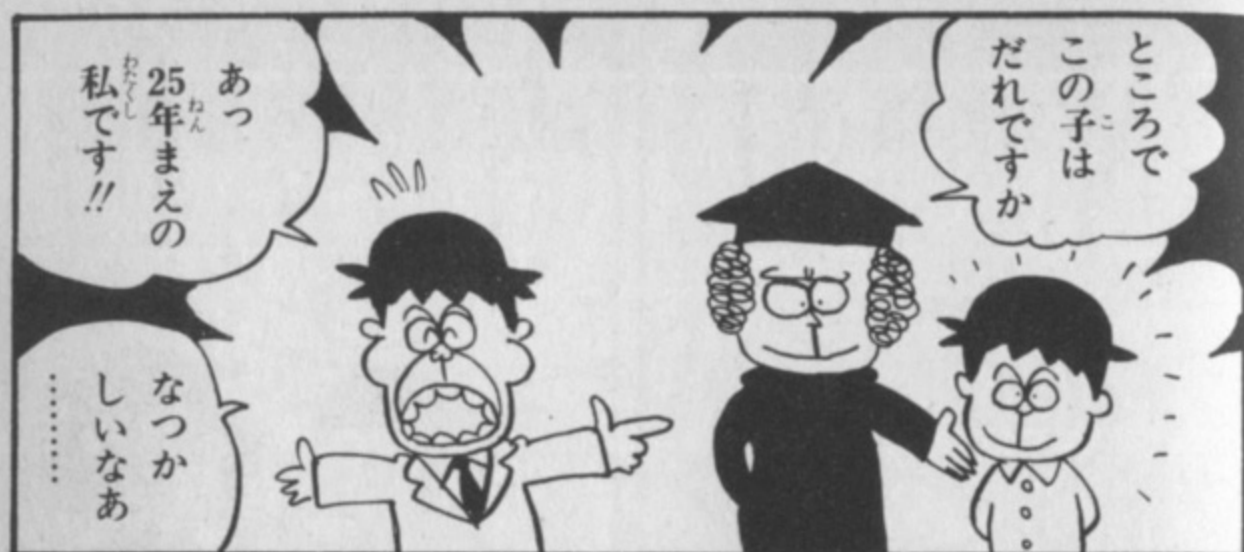




第1章 色心不二





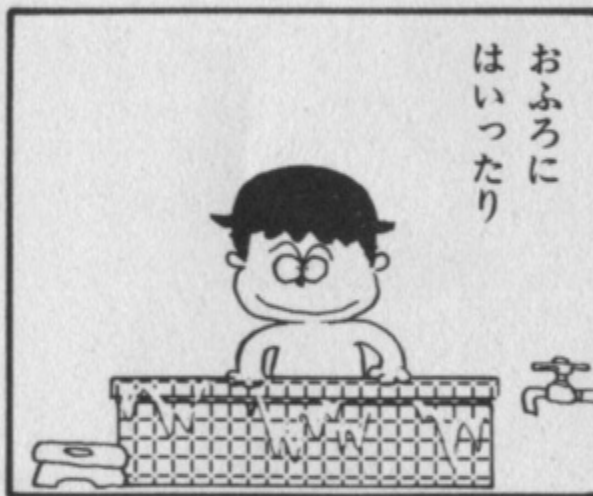




あなたが
35年^{かん}まえに
うまれてから...



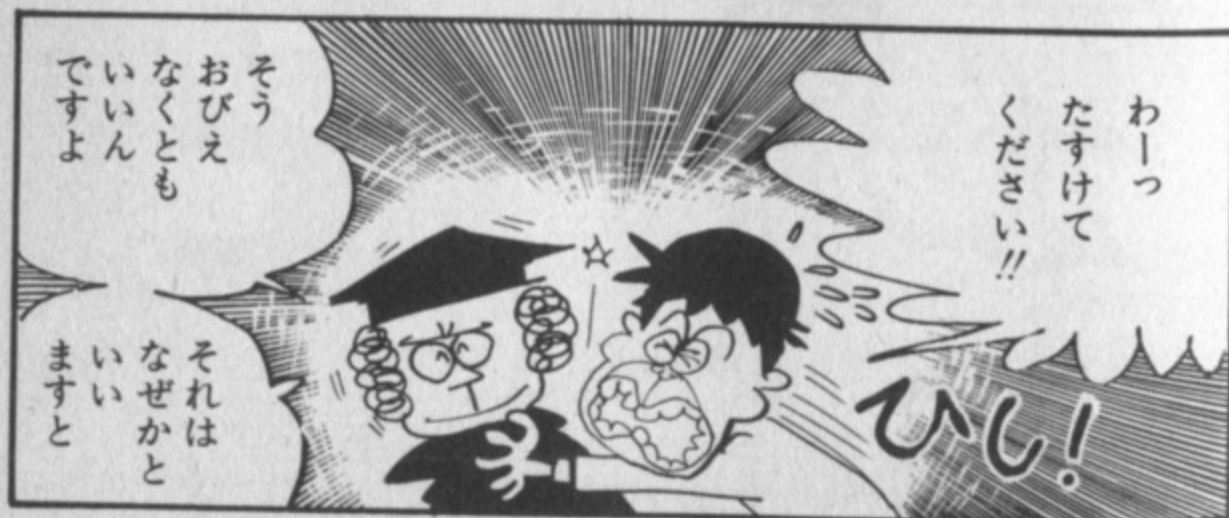
ところが
げん^かだい
科学^{がく}では
な^{まい}かみは
毎日^{まいにち}
かわって
いくんだと
いうことが
わかってい
るのすよ

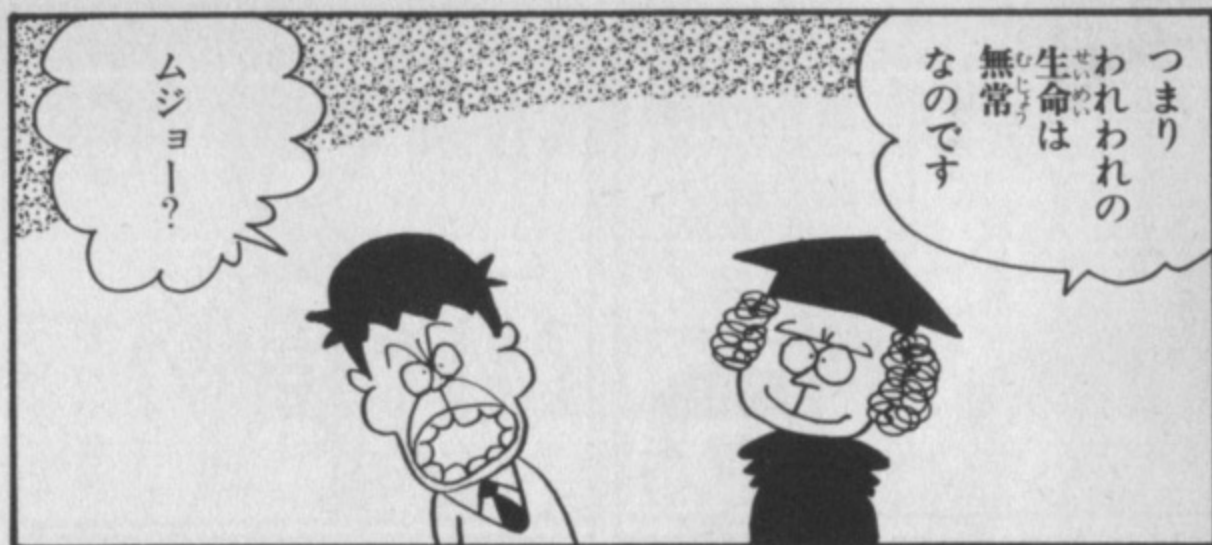


トイレに
はいったり
して....

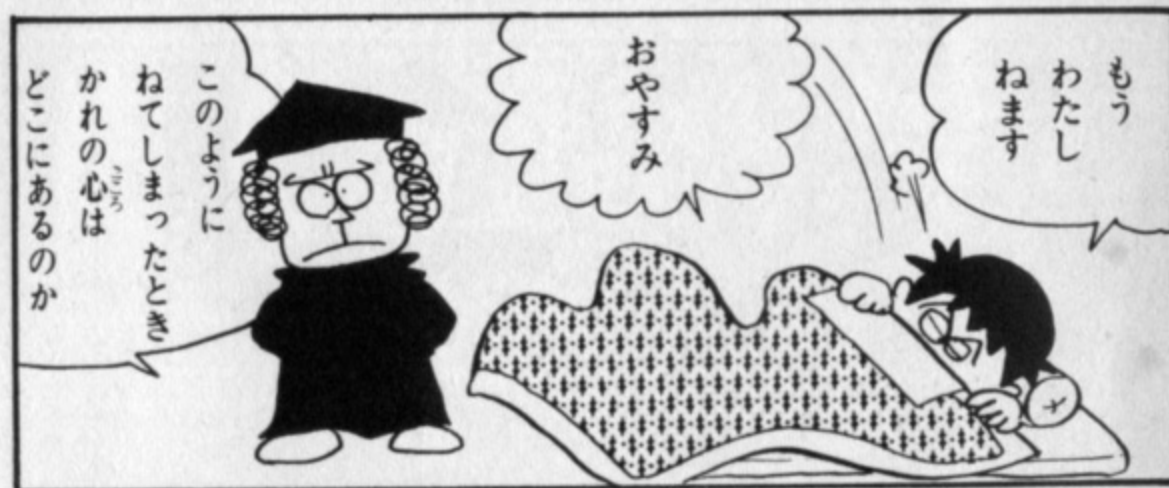
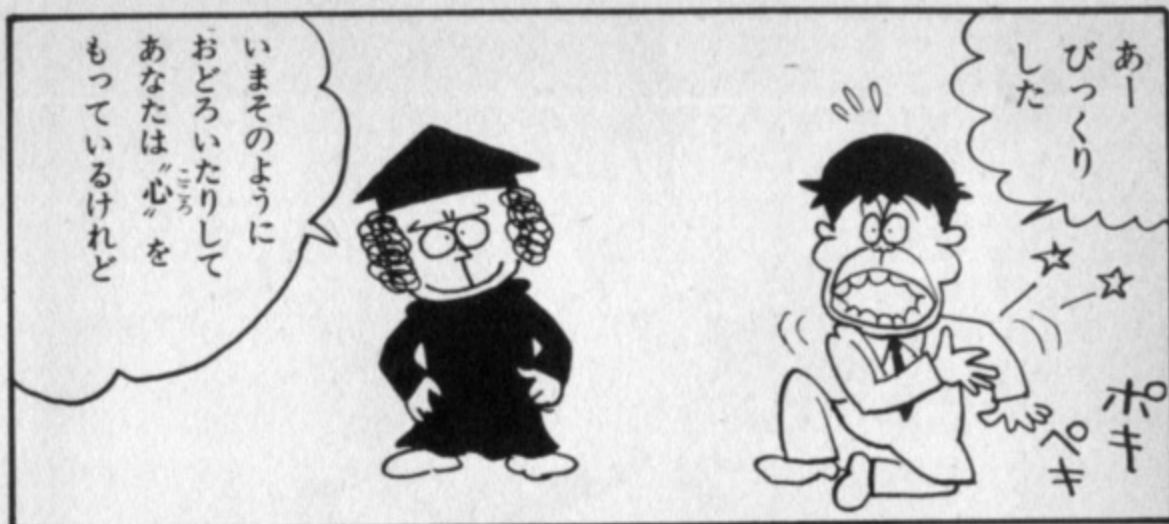


夜^よねたり



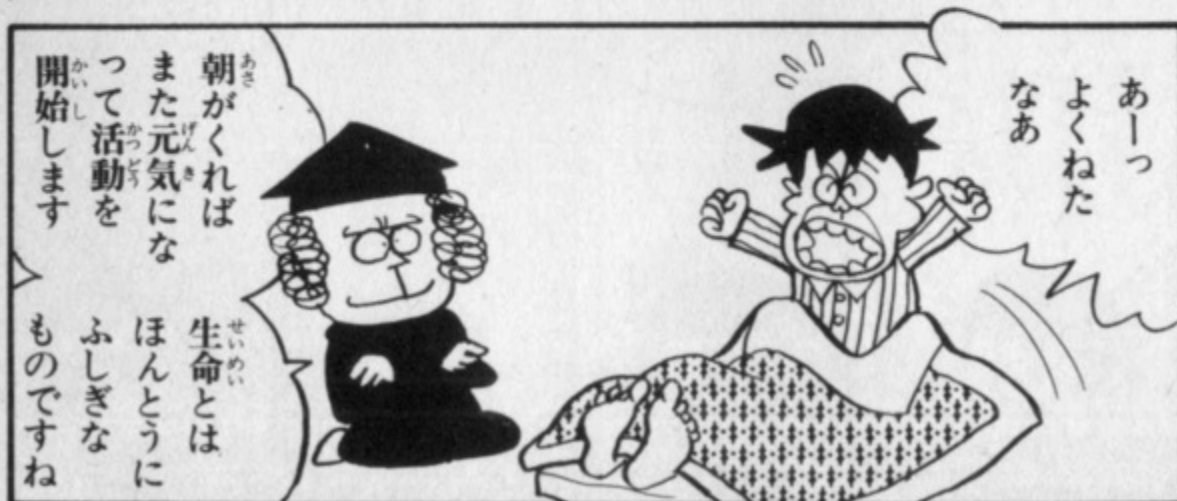




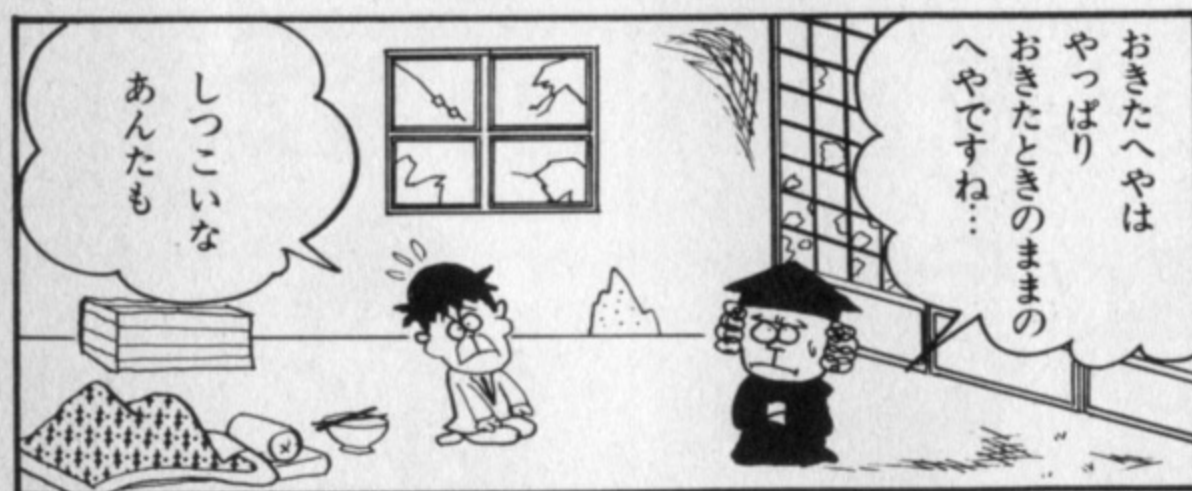


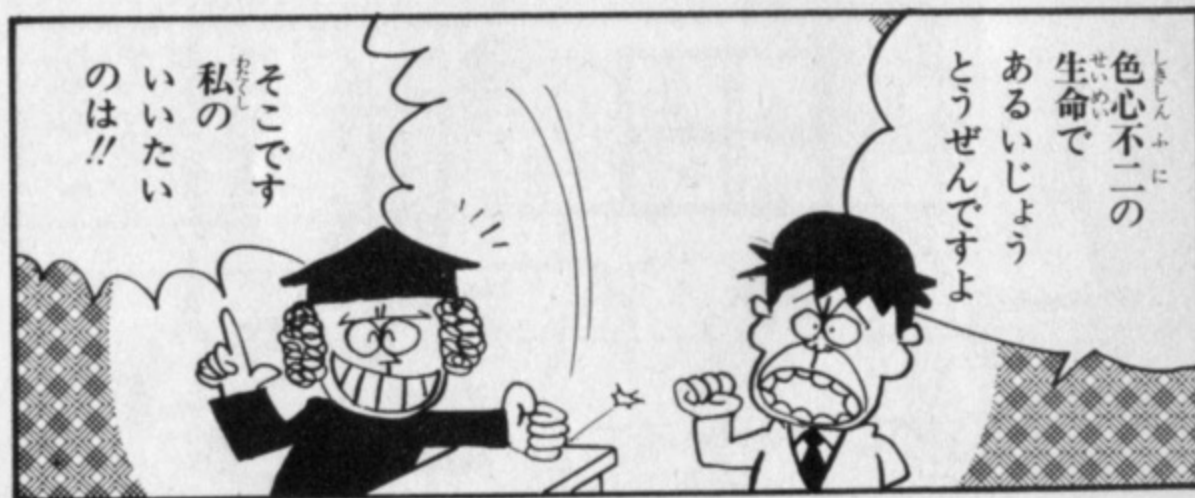






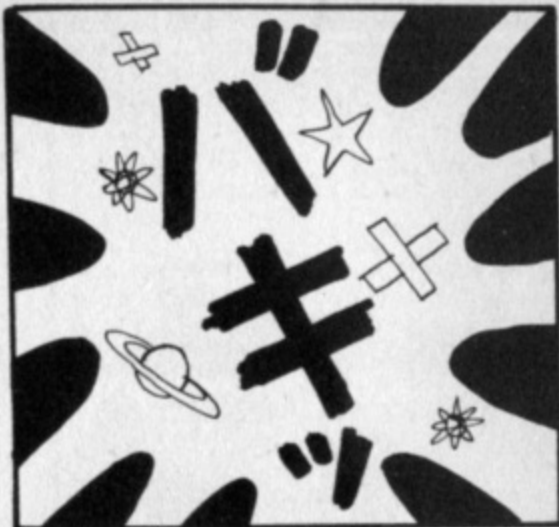
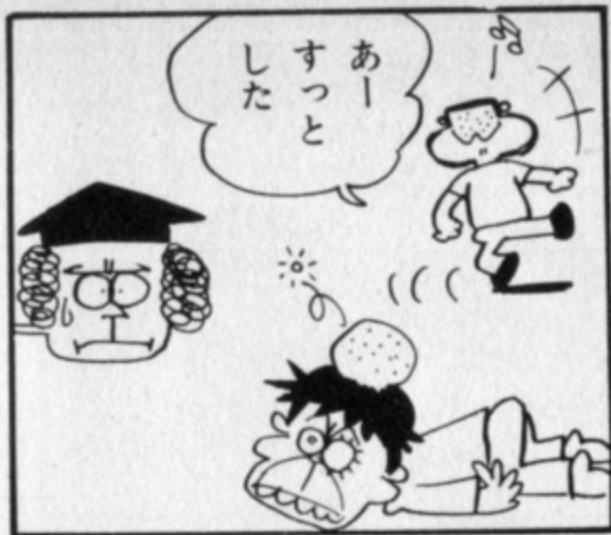


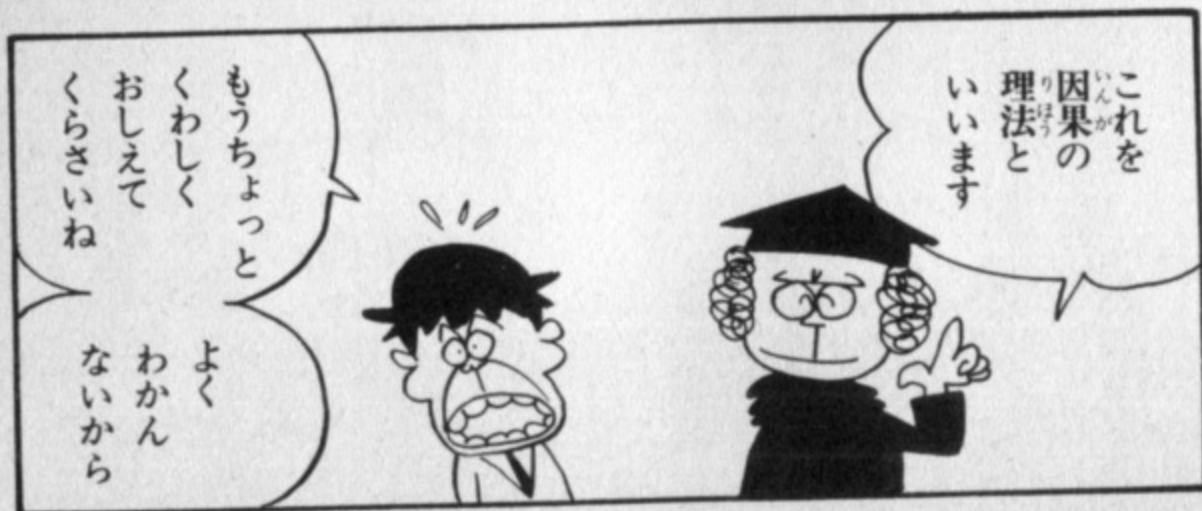




第1章 色心不二

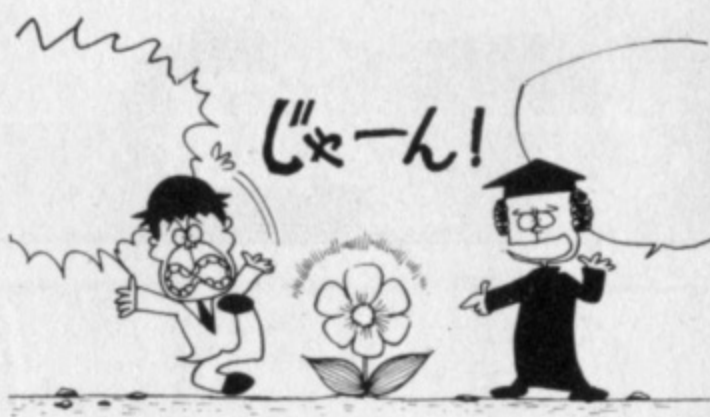






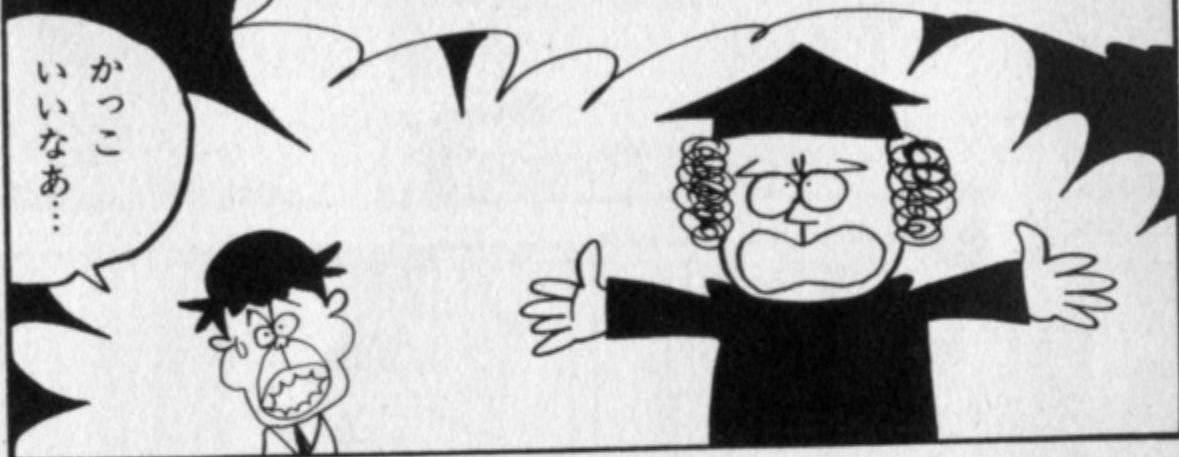
第2章

因果とは





真の
 仏教とは
 科学的な
 ものであり
 科学は
 仏法を
 しようめいし
 仏法はつねに
 科学を
 リードしつつけ
 また科学への
 指針で
 なければ
 ならないので
 あります!!

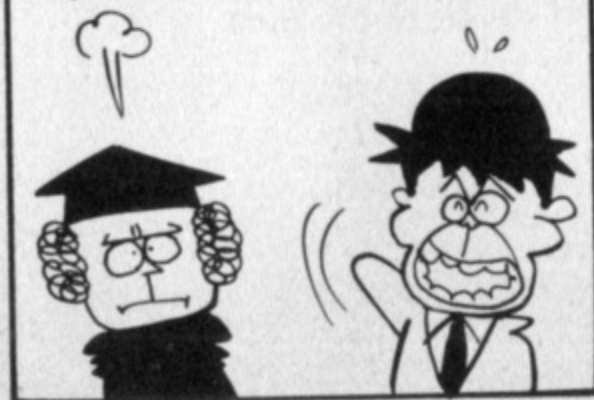


ですから
 真実の仏教は
 生命とはなにかと
 いうことを
 把握しており
 また人類を絶対的な
 しあわせへとみちびく
 力をはつき
 できるのです

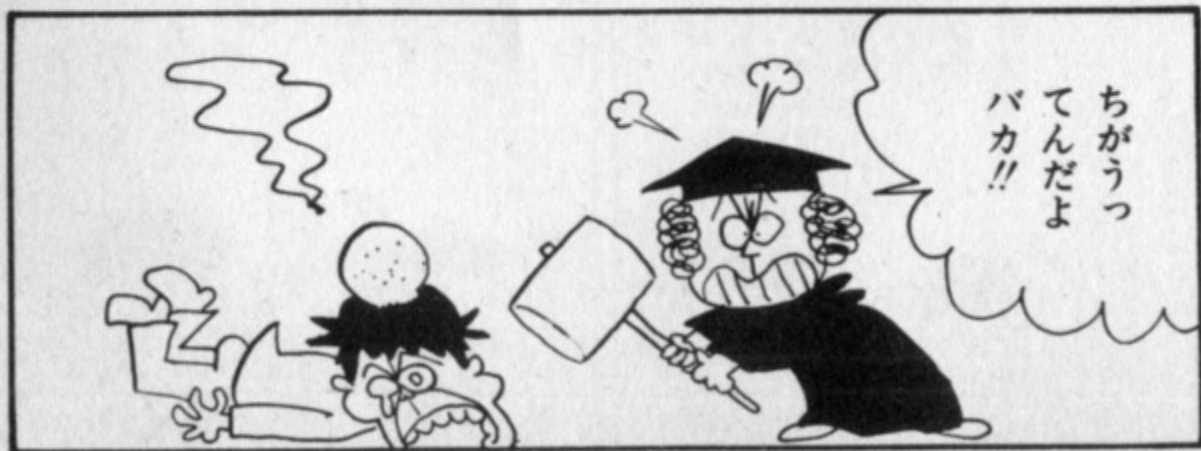
なるほど

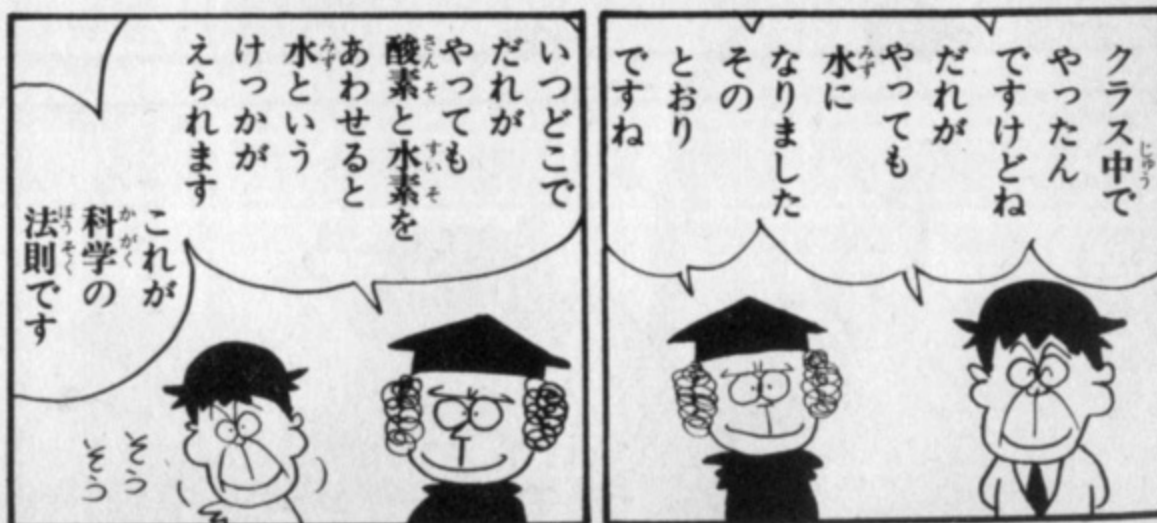
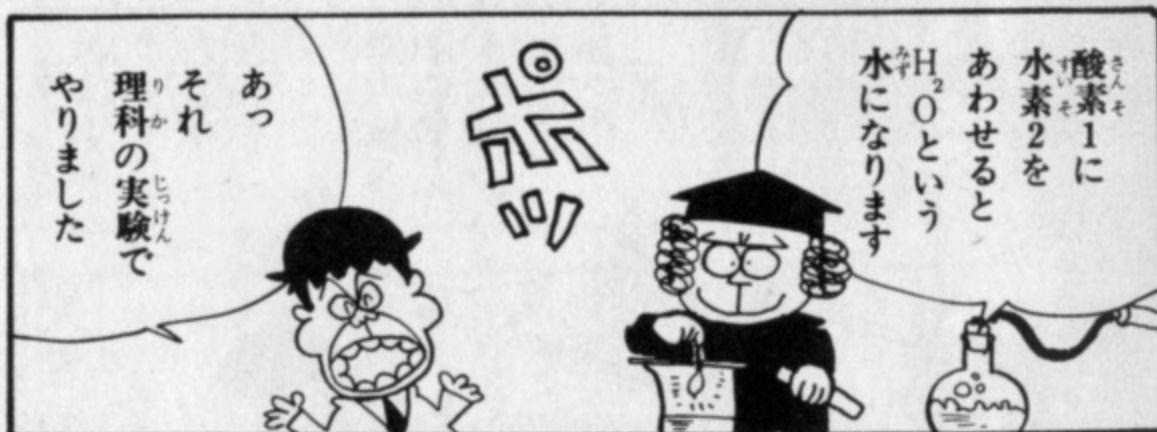
私はまた
 死んだ人に
 ひつような
 ものかと
 おもってました

なんのために
 科学の勉強を
 してるんですか!!

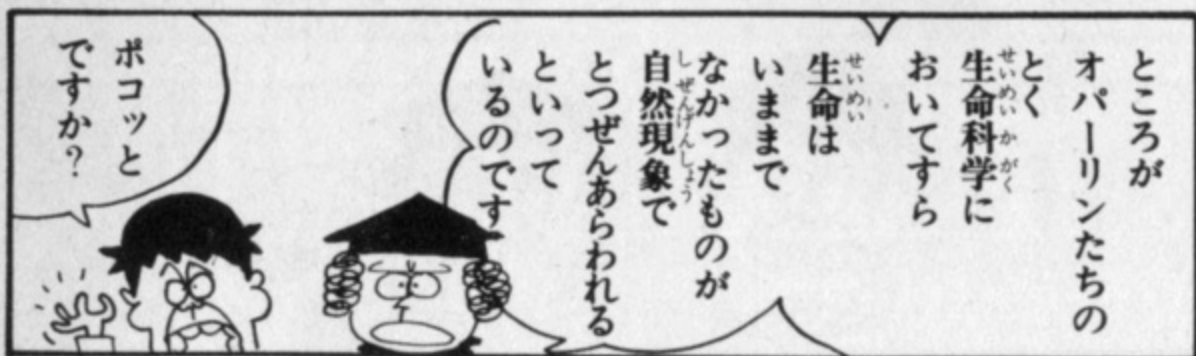
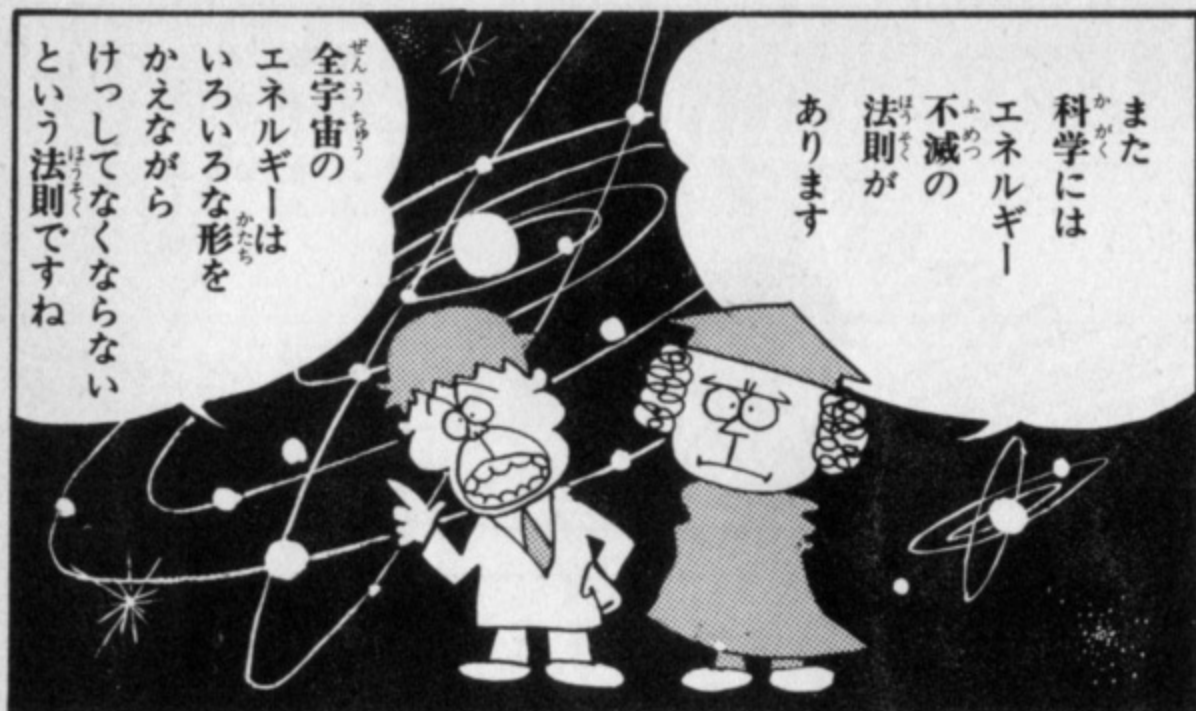


第2章 因果とは

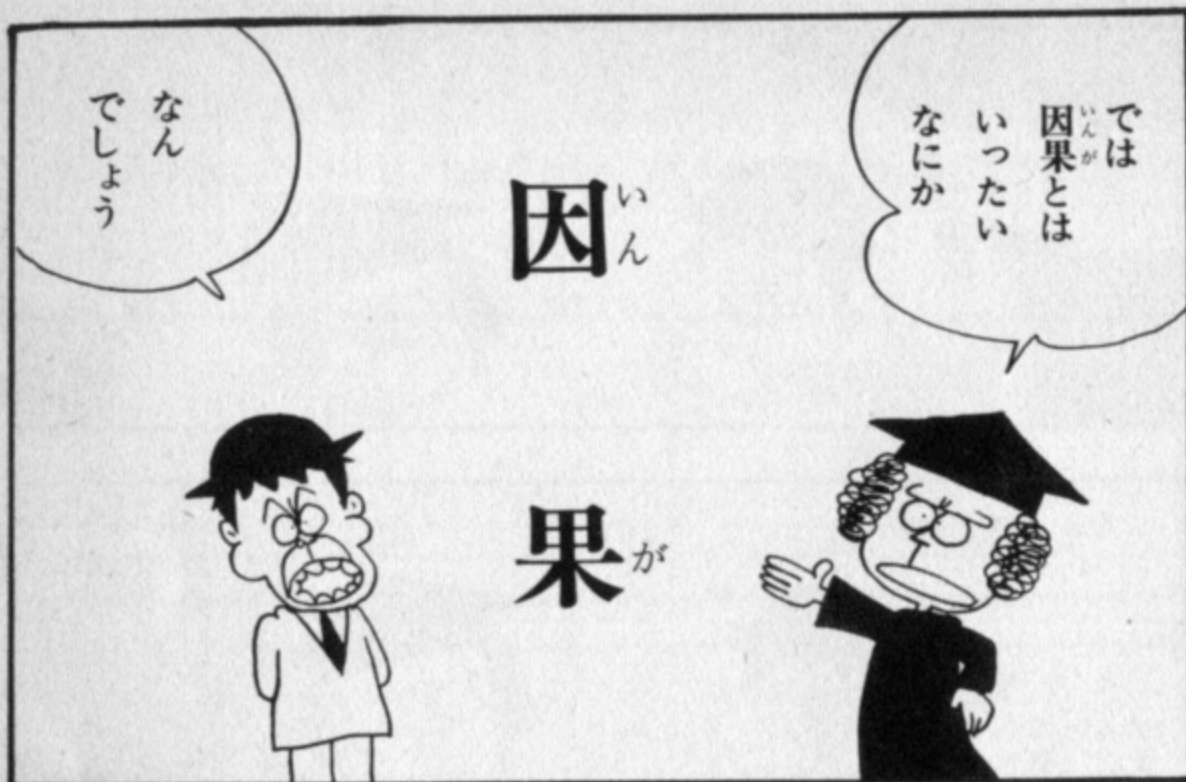


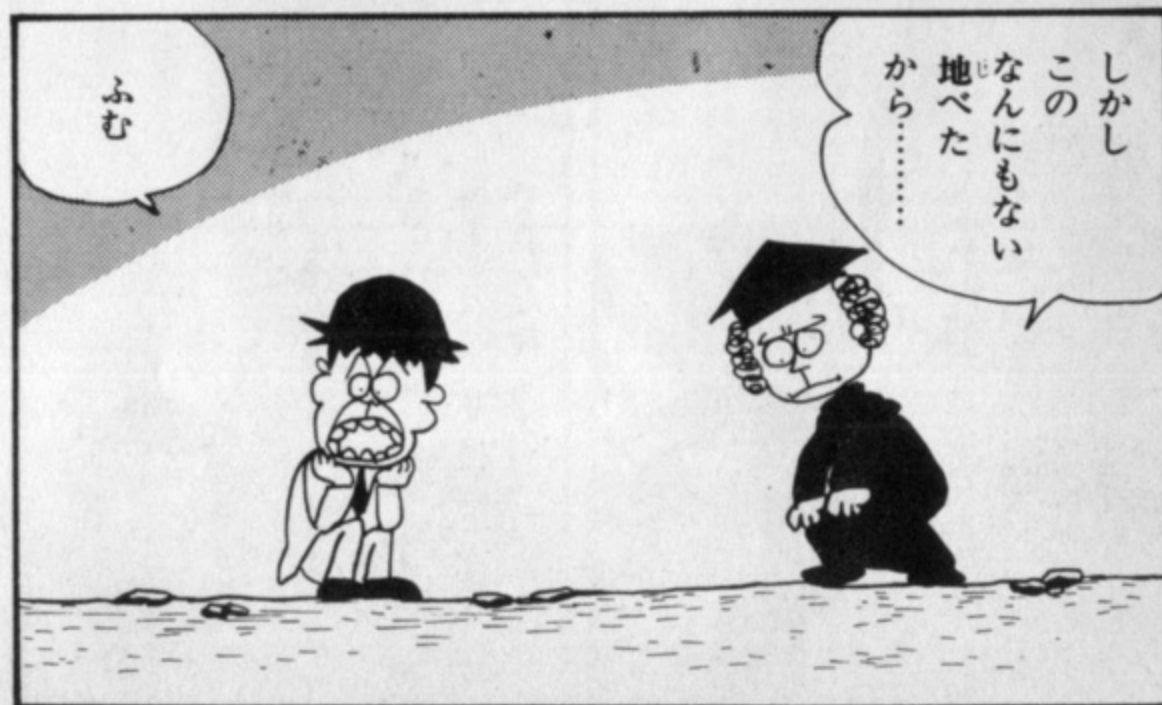
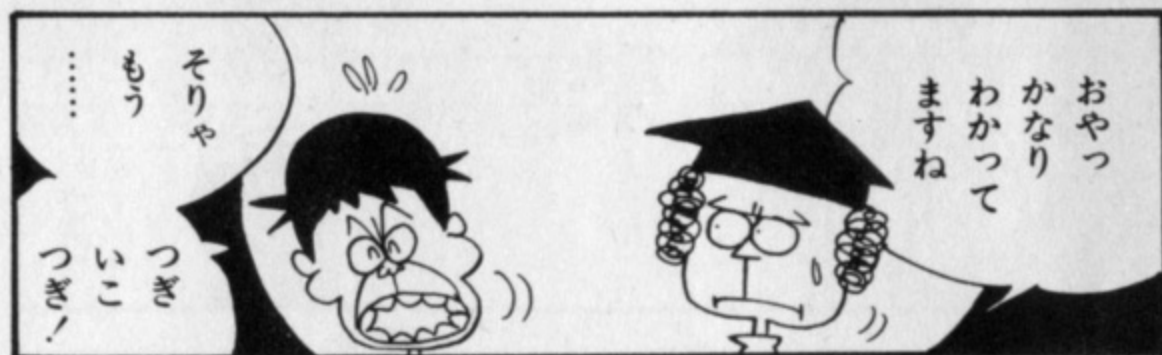
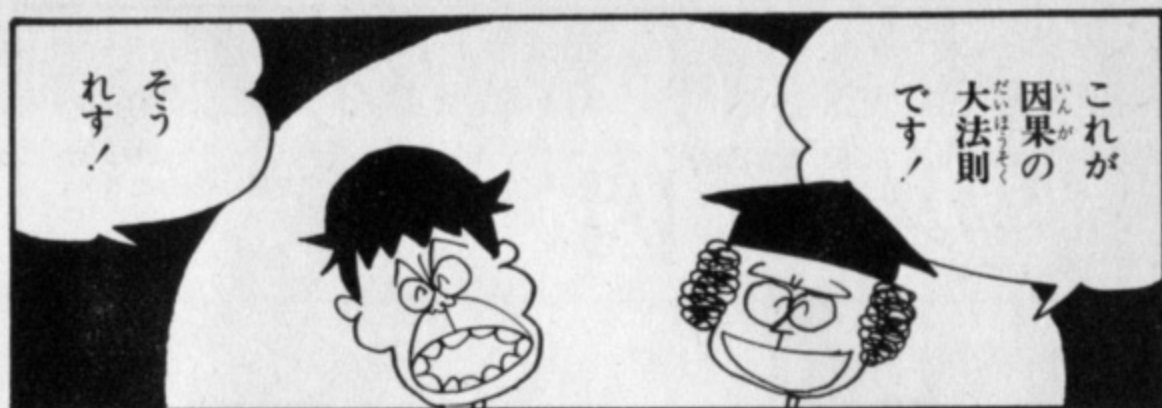


第2章 因果とは







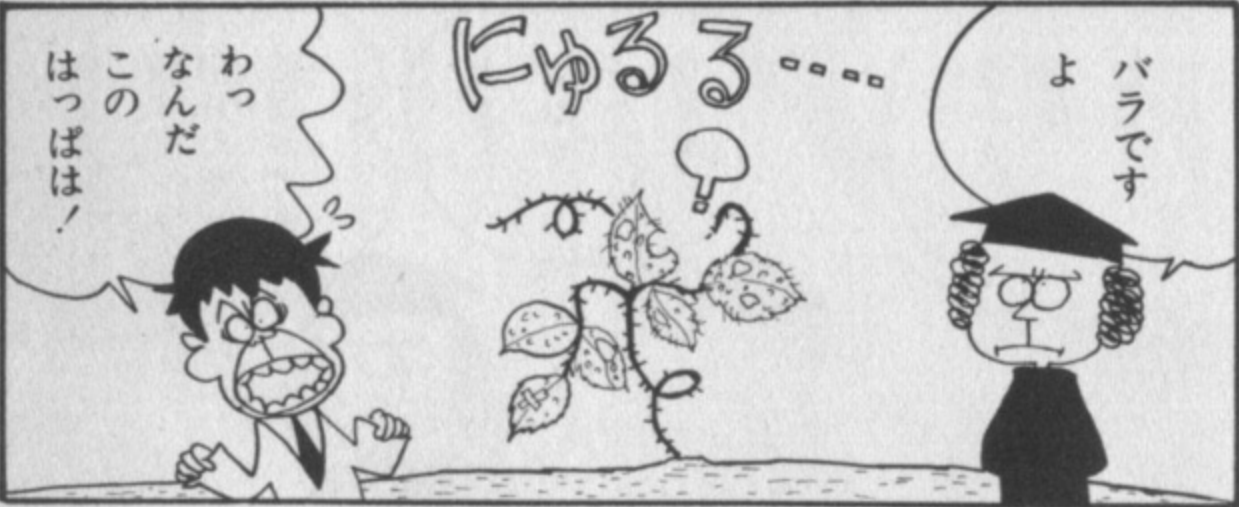
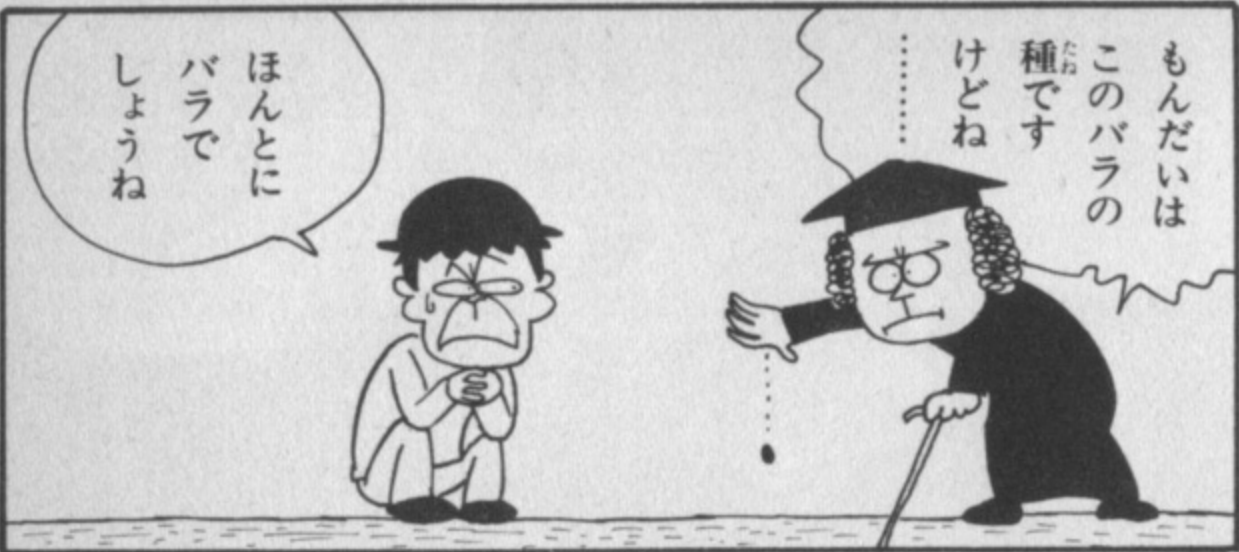


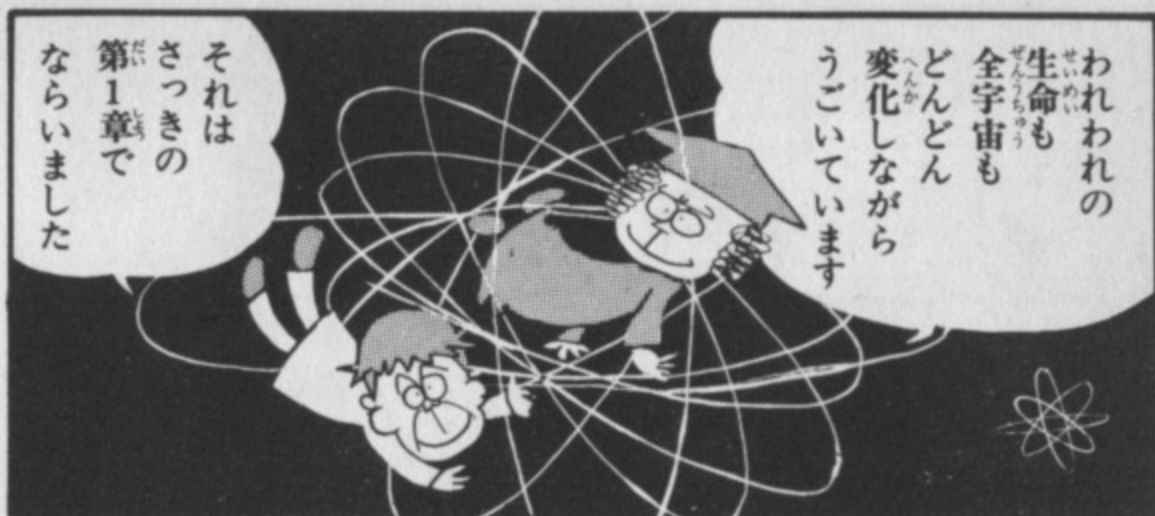
第2章 因果とは



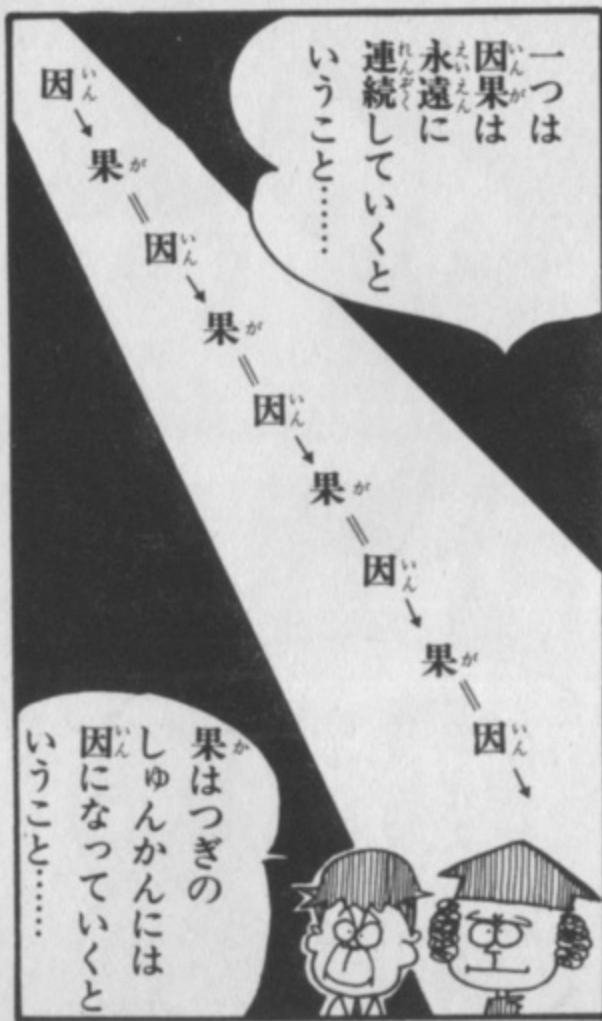


第2章 因果とは





第2章 因果とは

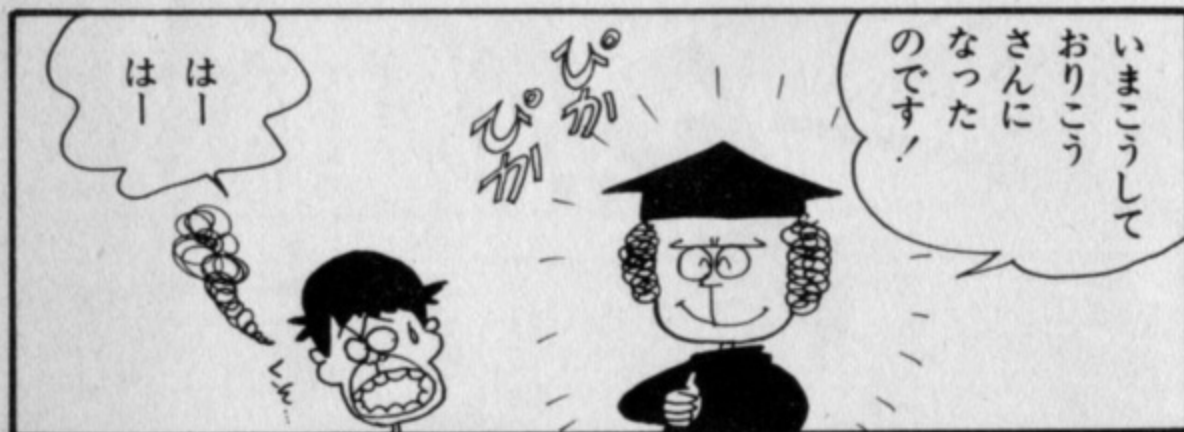


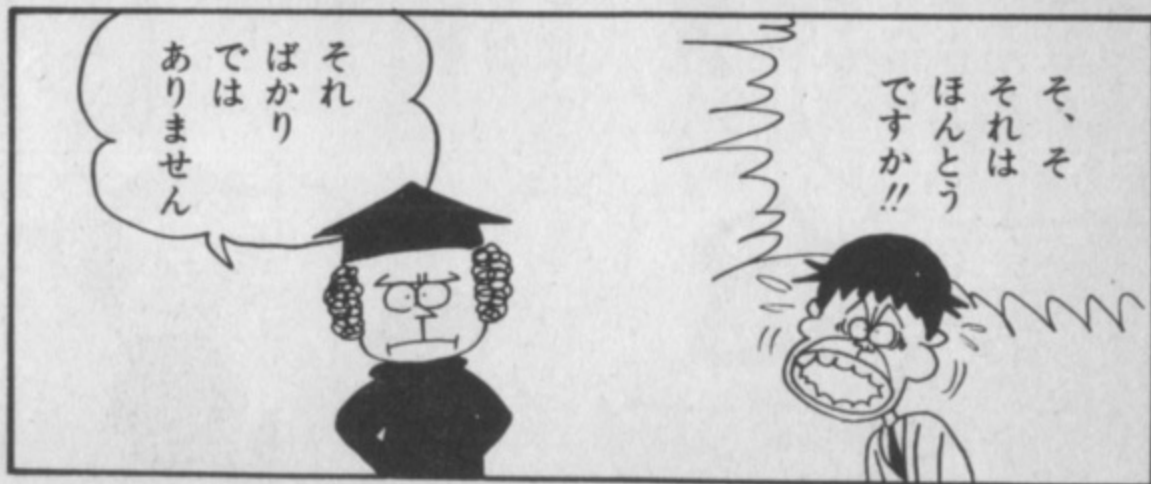


とうぜんの
ことですが
この因果の
理法は
自然現象だけに
かぎられて
いるのでは
ありません

われわれ人間の
色心つまり
精神と肉体の
すべてに
あてはまってくる
大原理なのです

第2章 因果とは





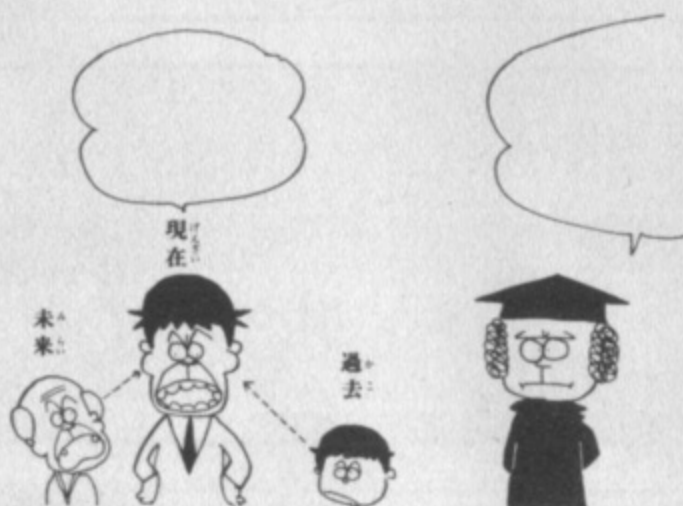
第2章 因果とは

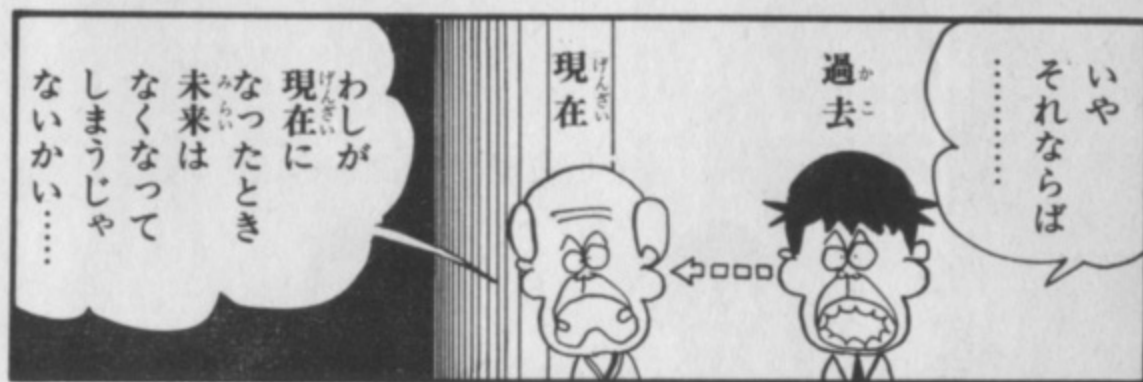
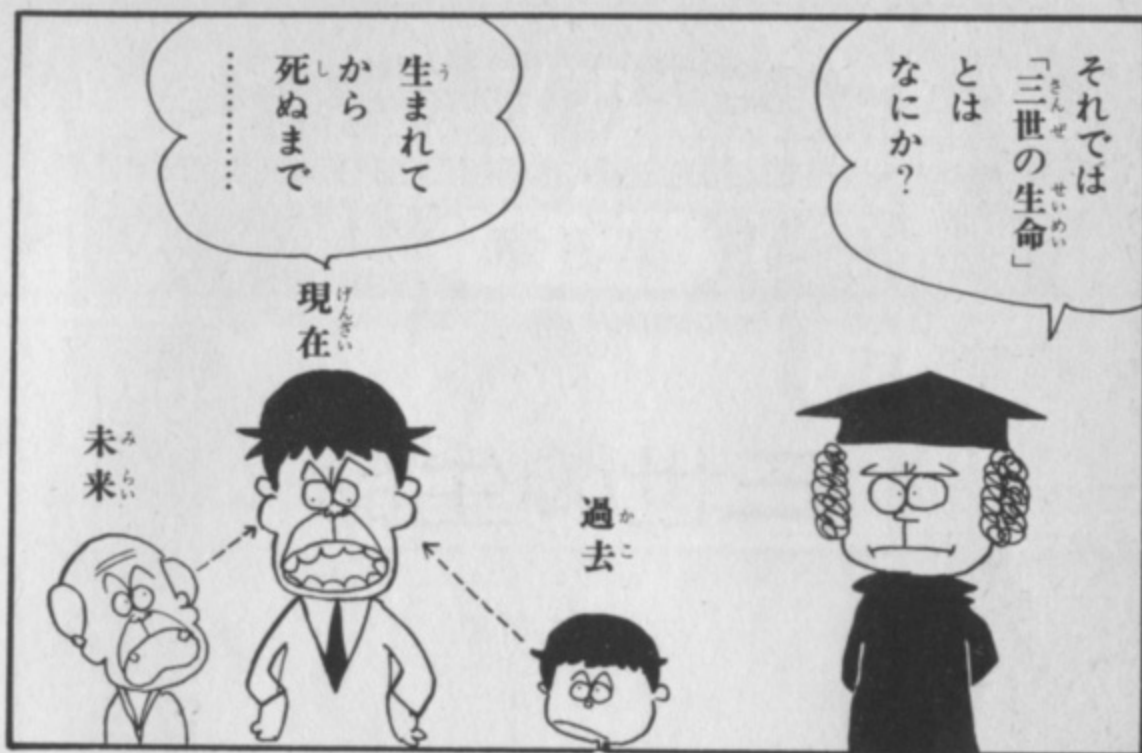




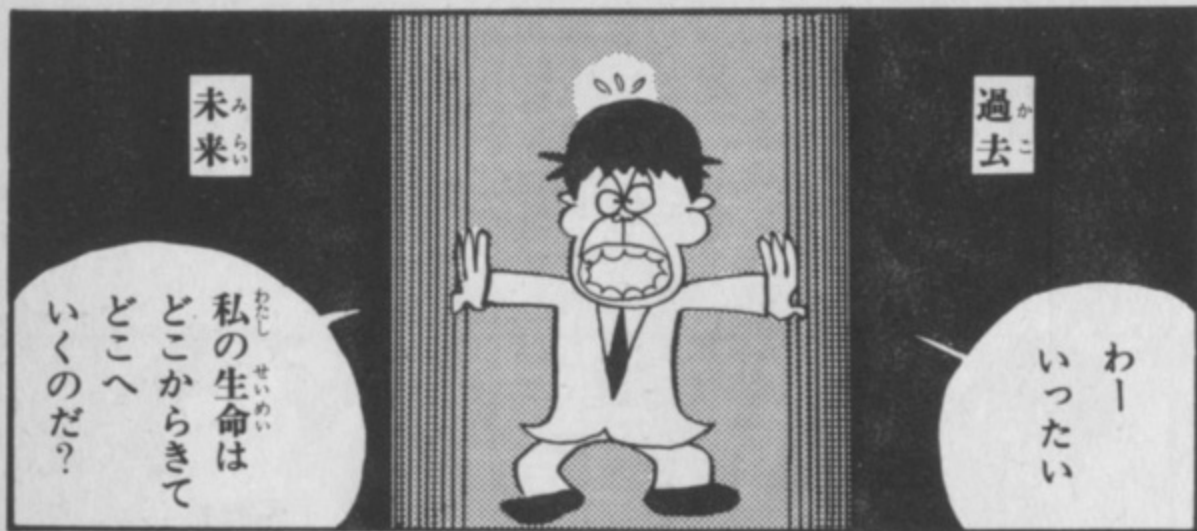
第3章

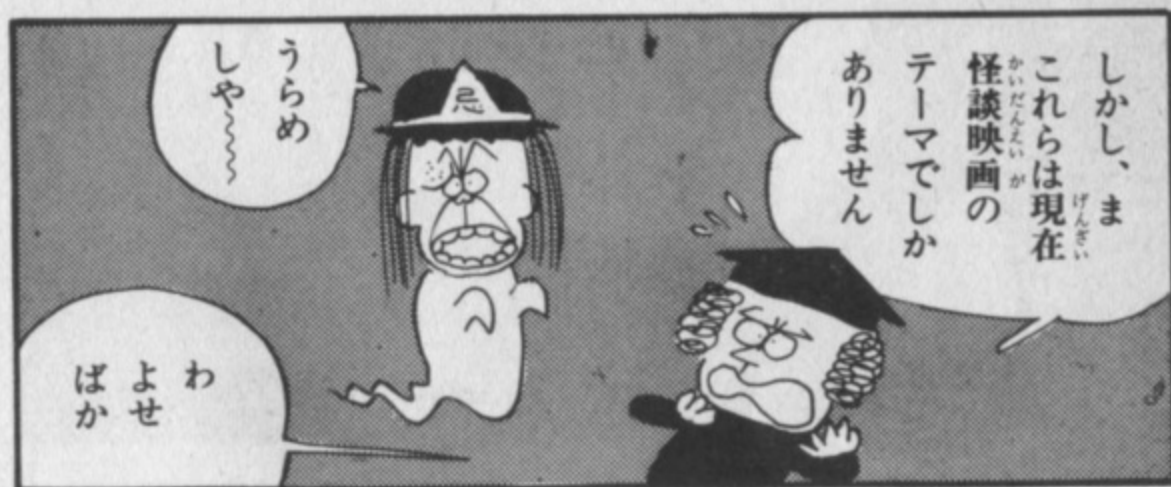
三世の生命





第3章 三世の生命









第3章 三世の生命



はなしを
ぐーっと
過去に
もどします

地球が誕生したのは
約四十億年まえと
いわれています

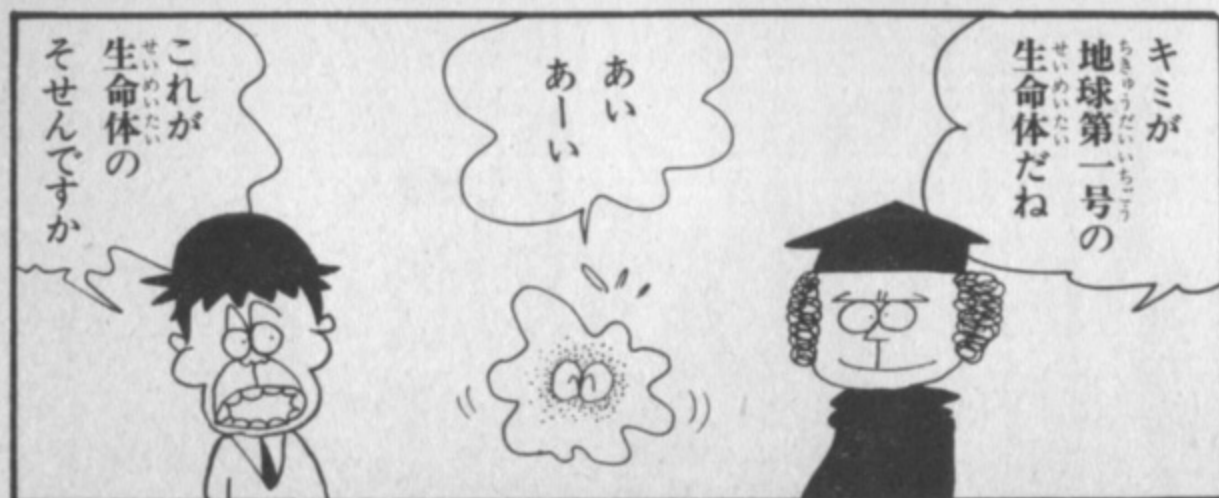
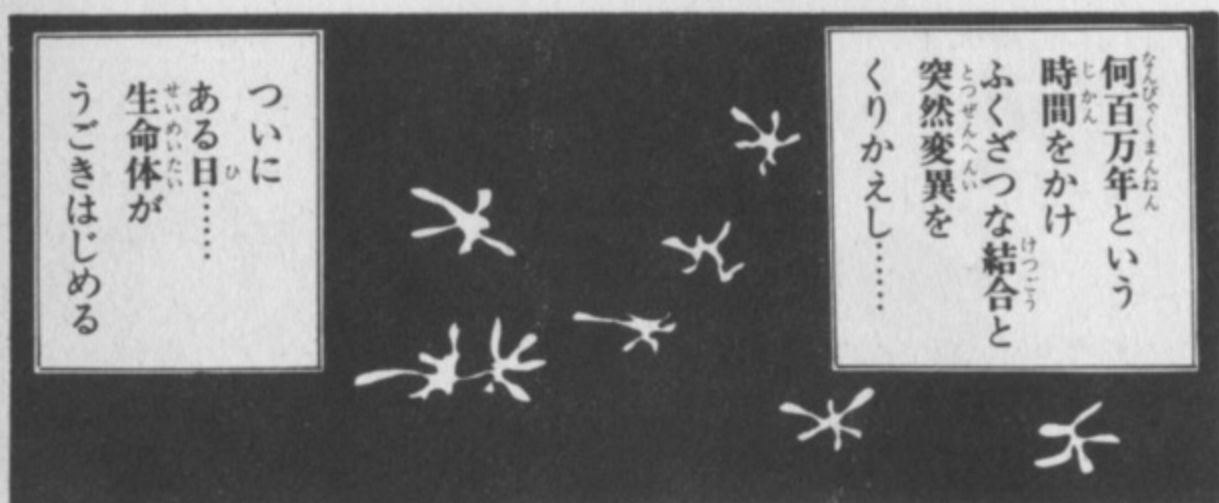
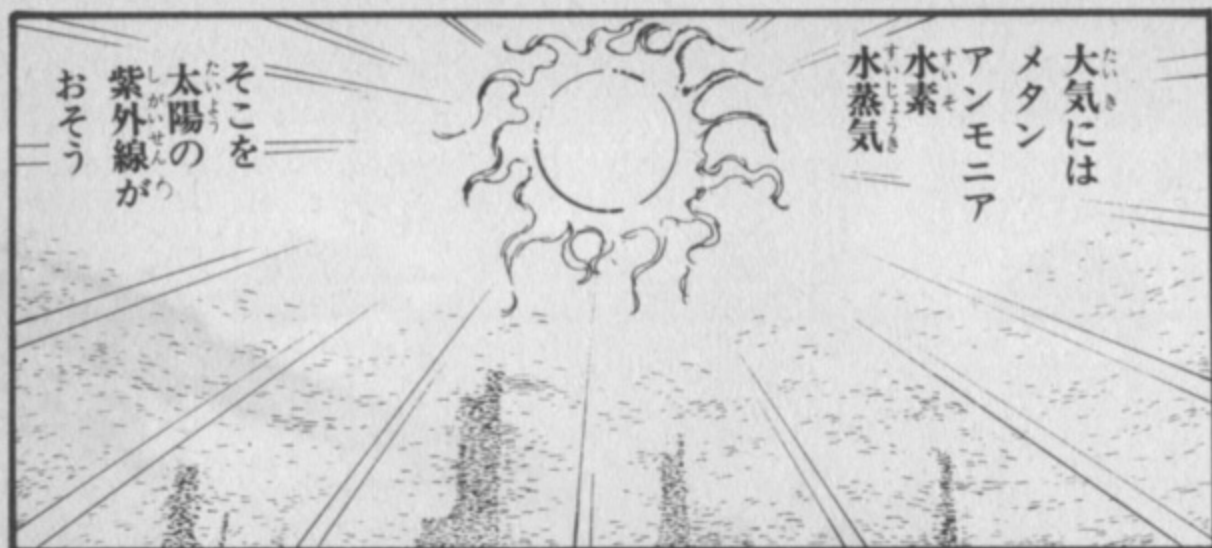
ひえてかたまり
生命体の
発生すべき
条件のそろうのが

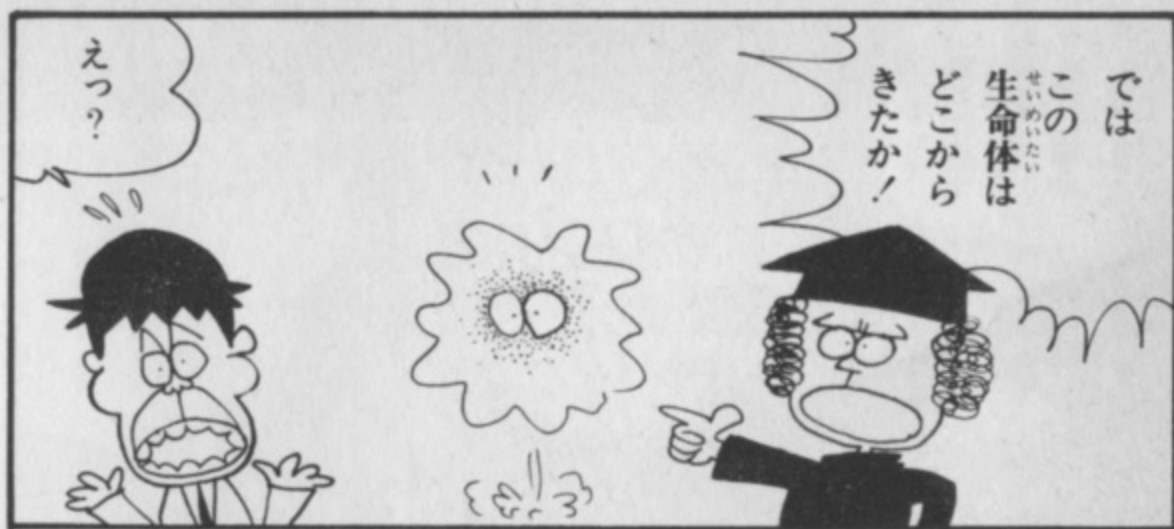
地球上に
あるのはただ
岩石と水

そして
大気

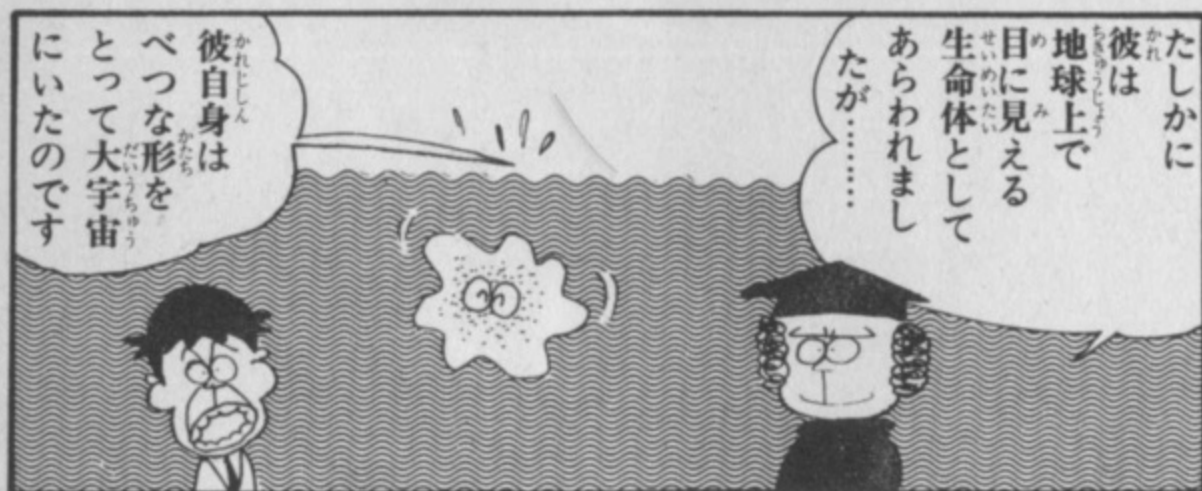
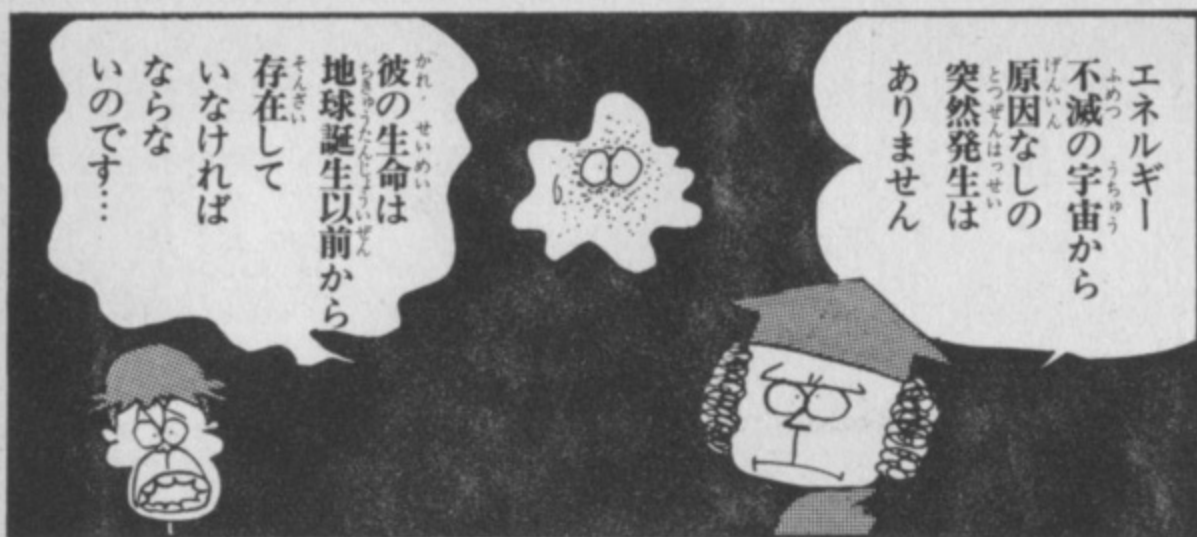
約三十億
年まえ…

第3章 三世の生命



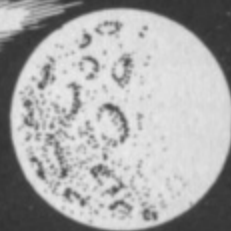
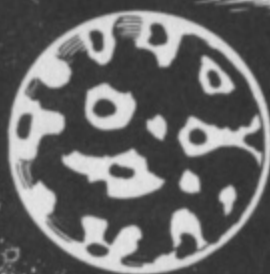
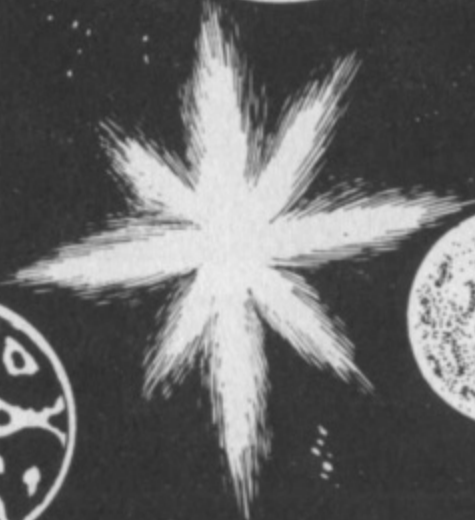


第3章 三世の生命



私たちは
過去数千億年の昔
どこかの星の上で
くらしていて

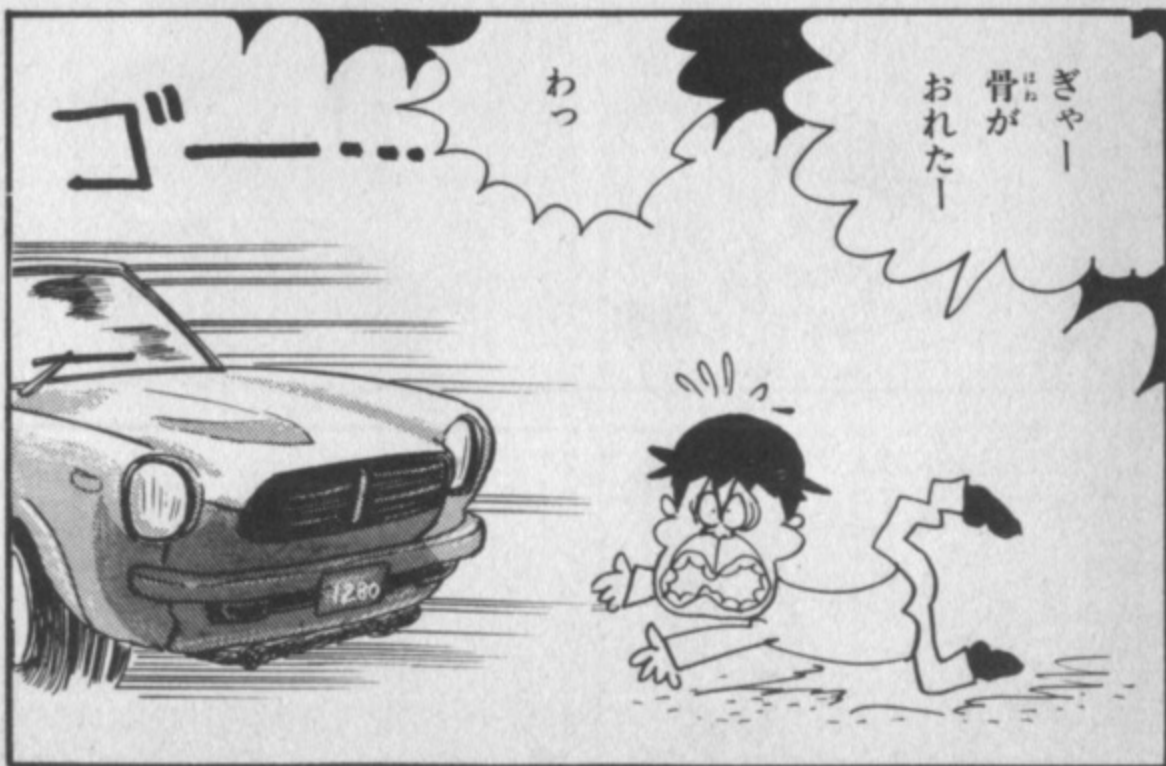
そして
現在
おなじような
すがたを
して……



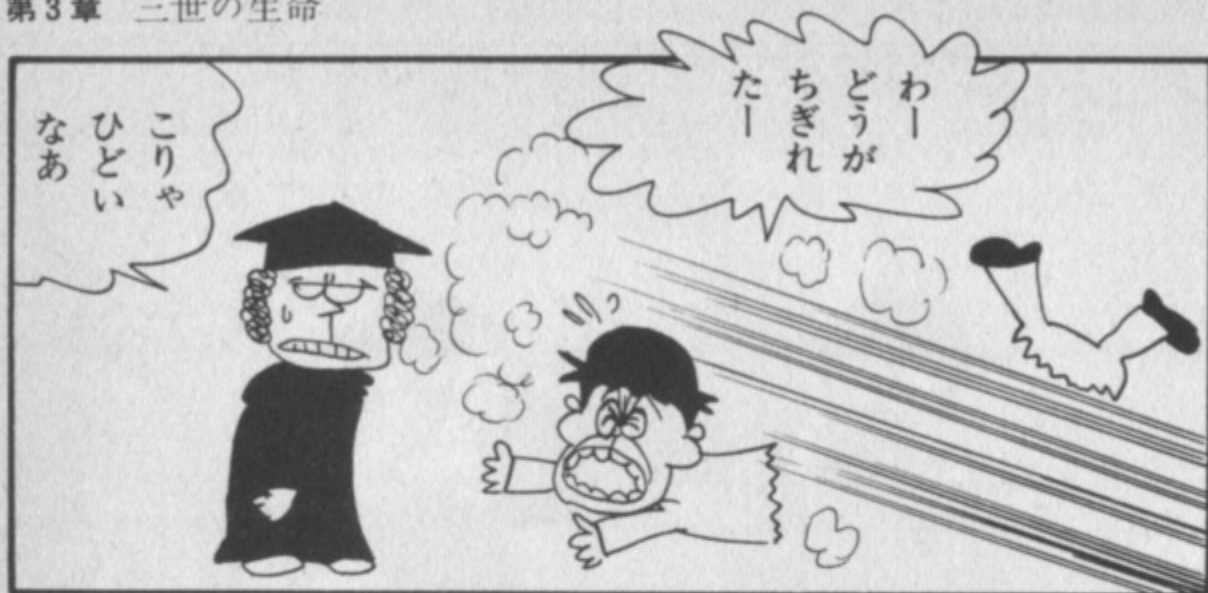






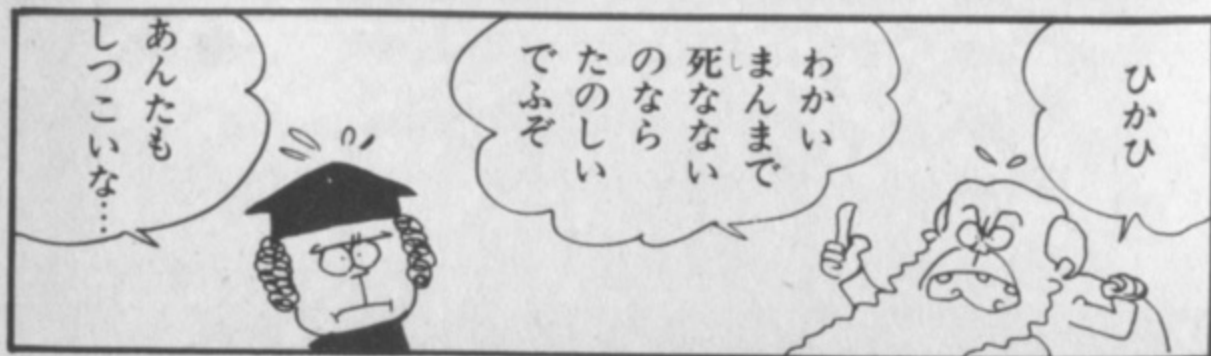
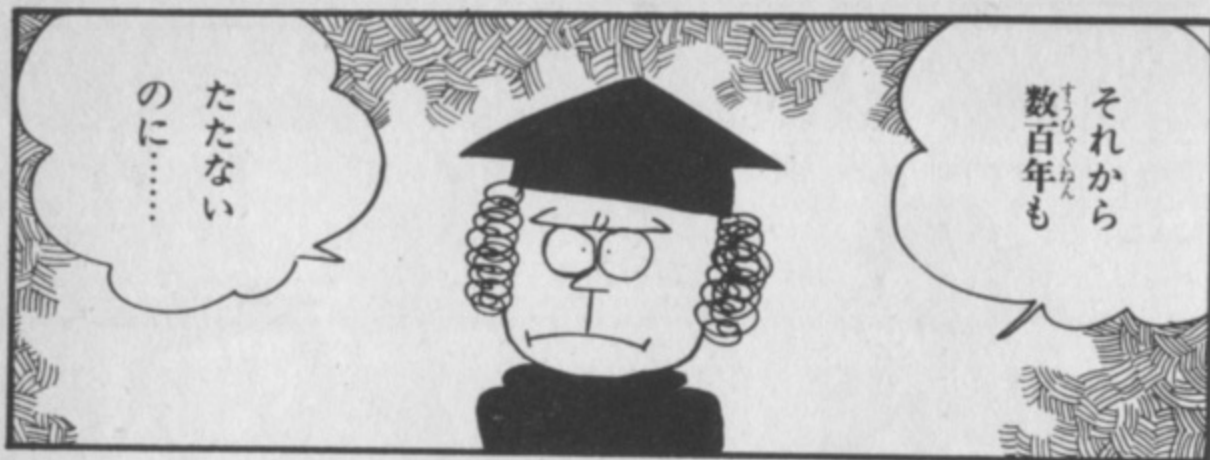


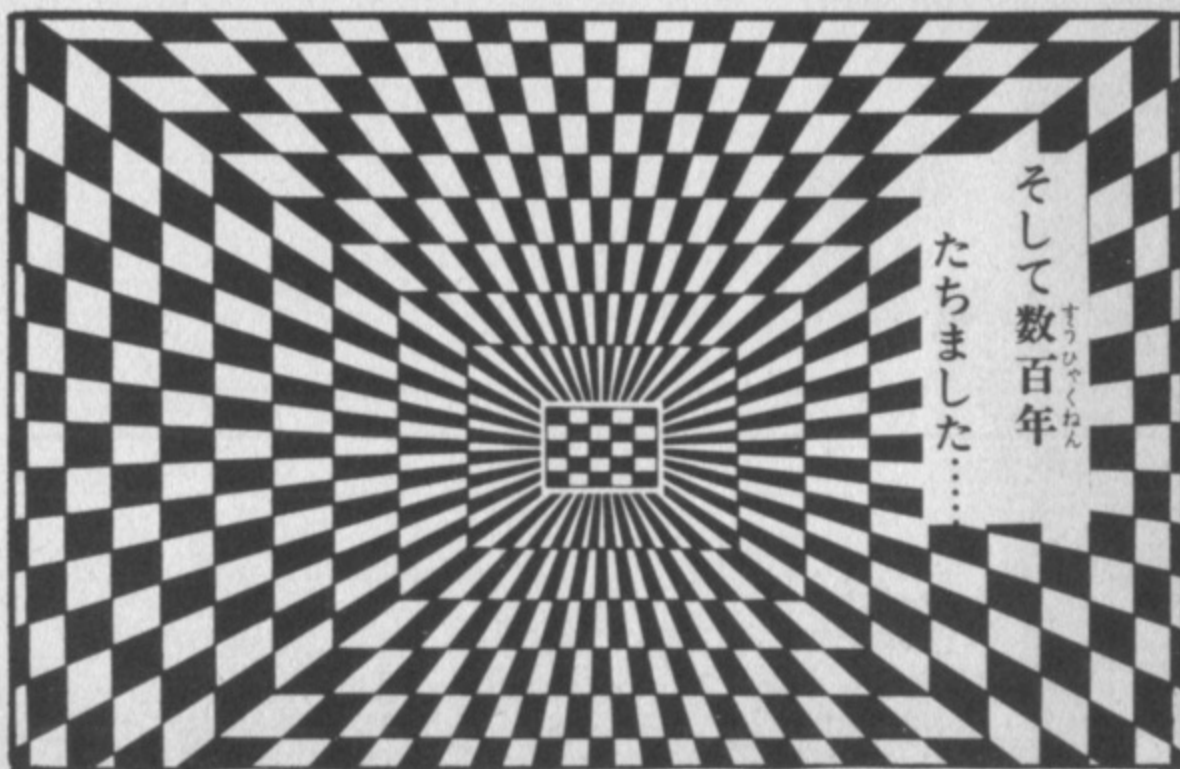
第3章 三世の生命



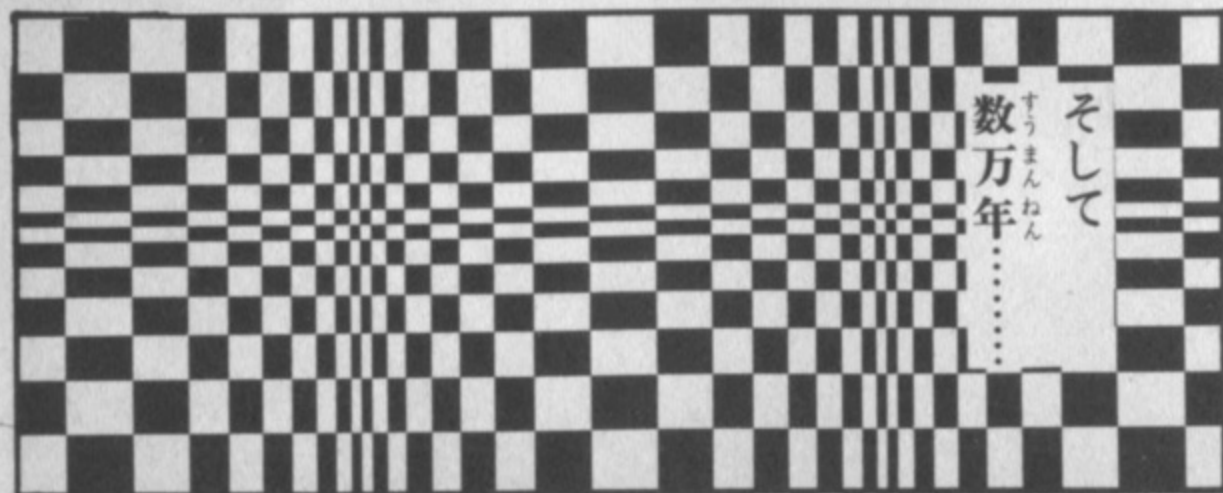


第3章 三世の生命



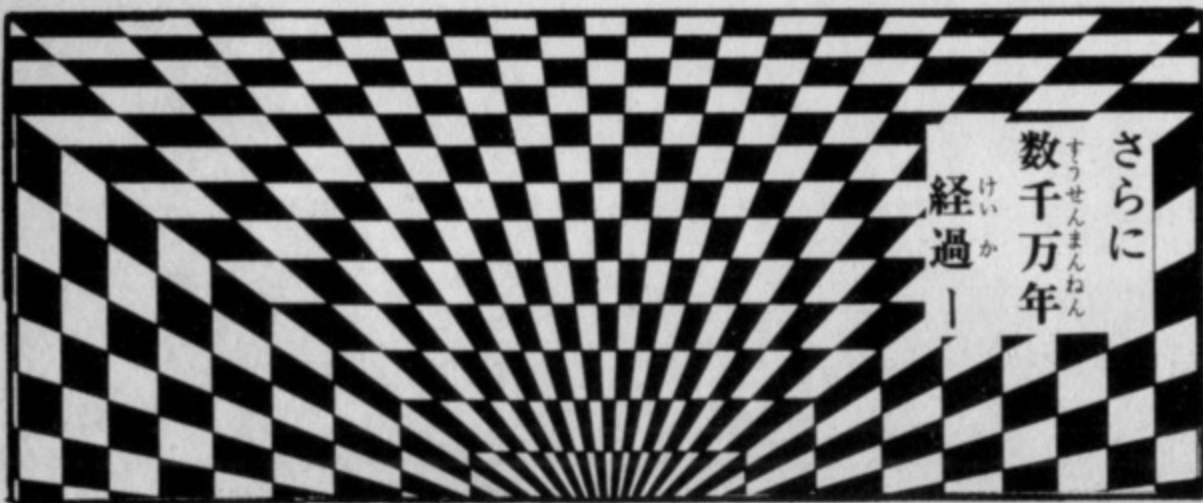


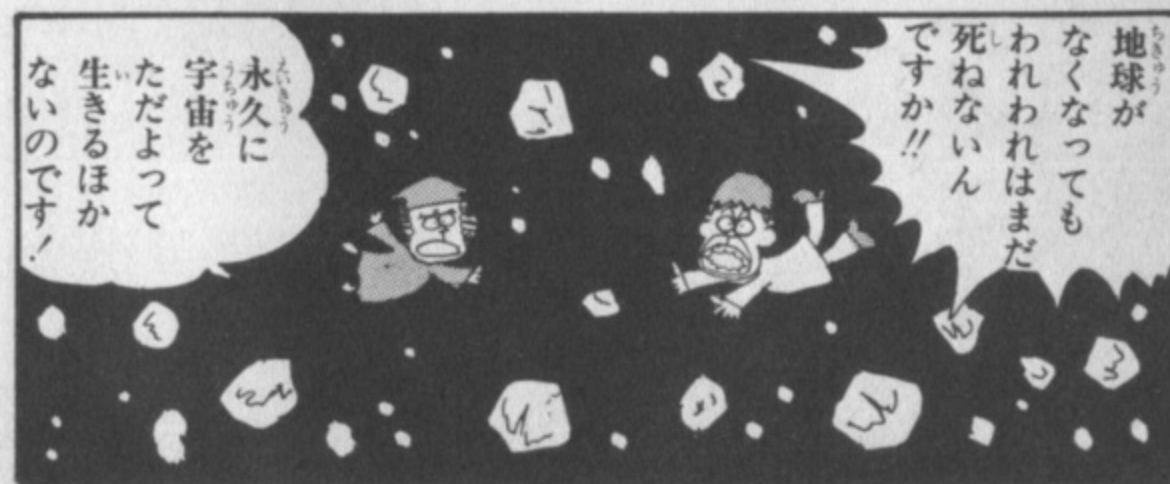
第3章 三世の生命



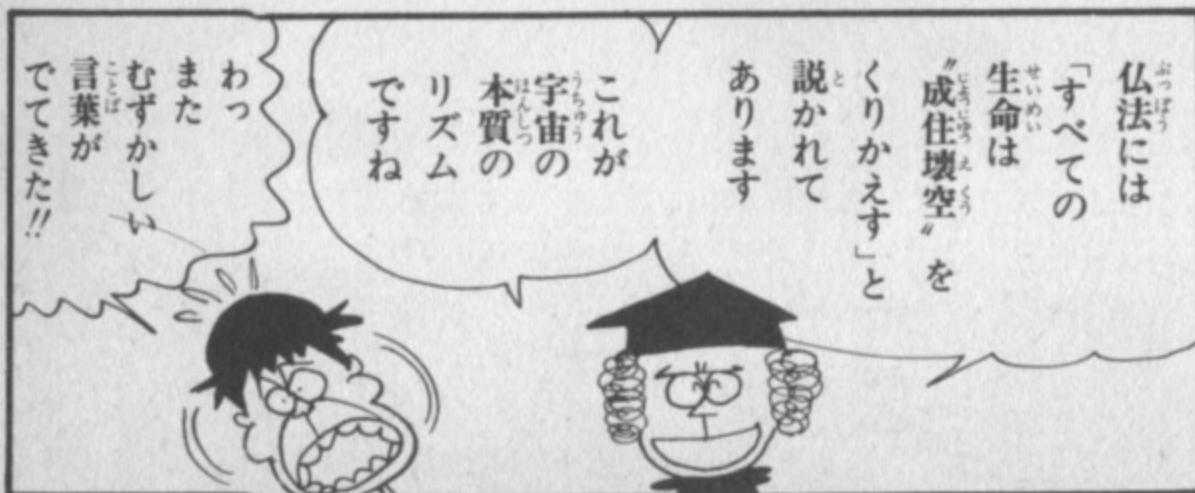
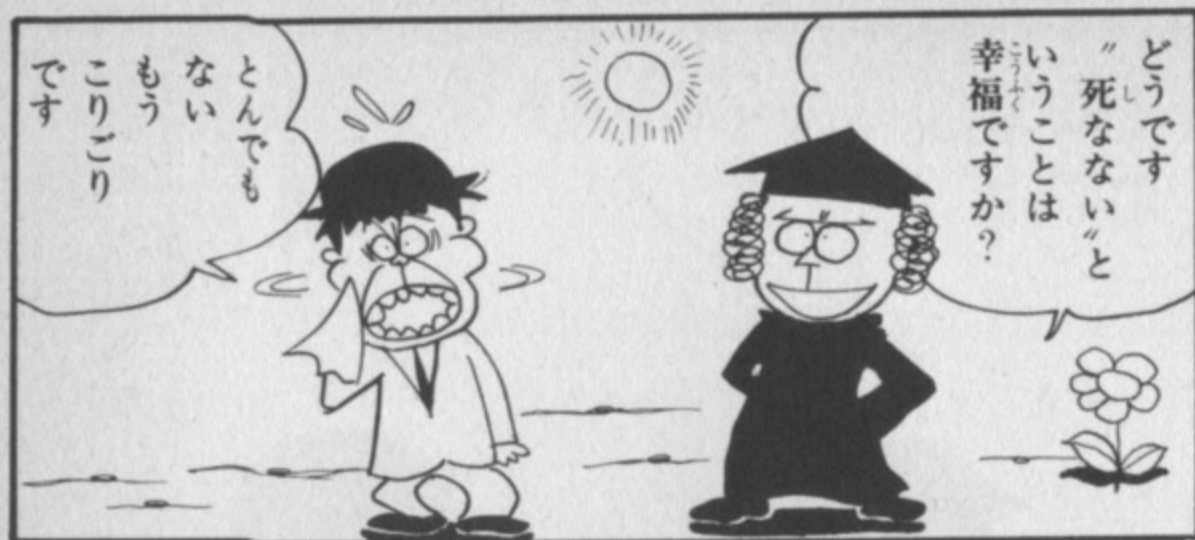


第3章 三世の生命





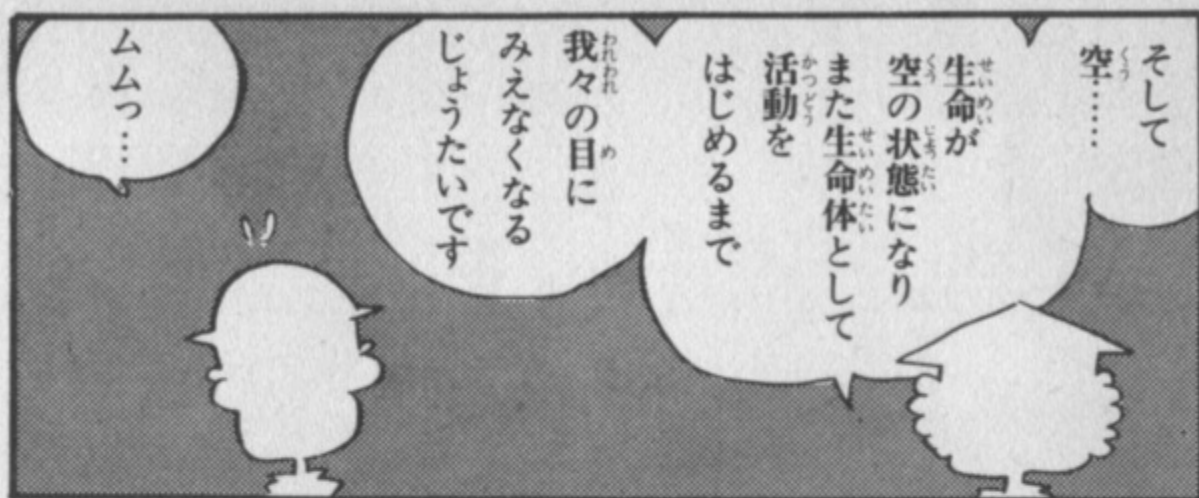
第3章 三世の生命





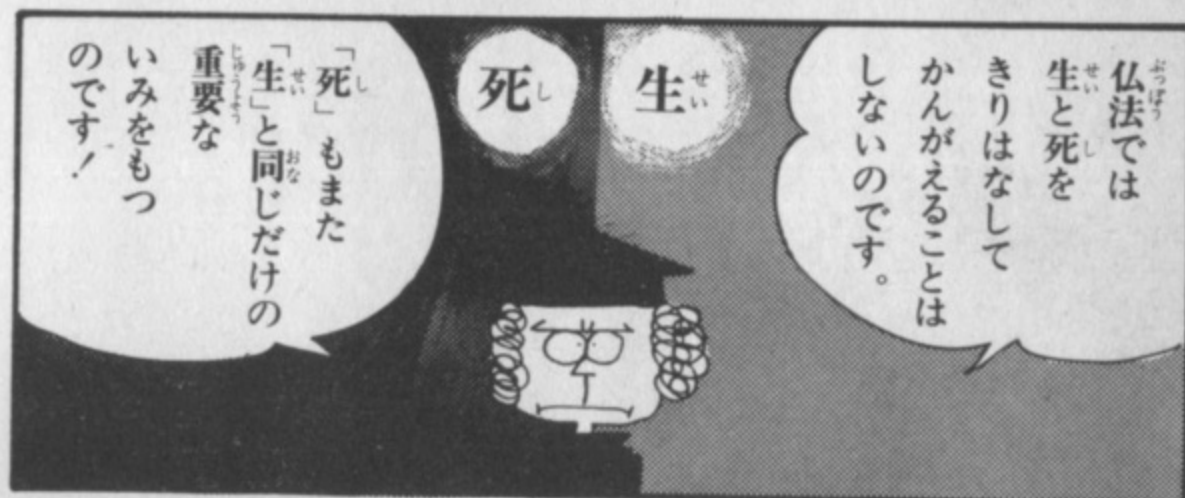
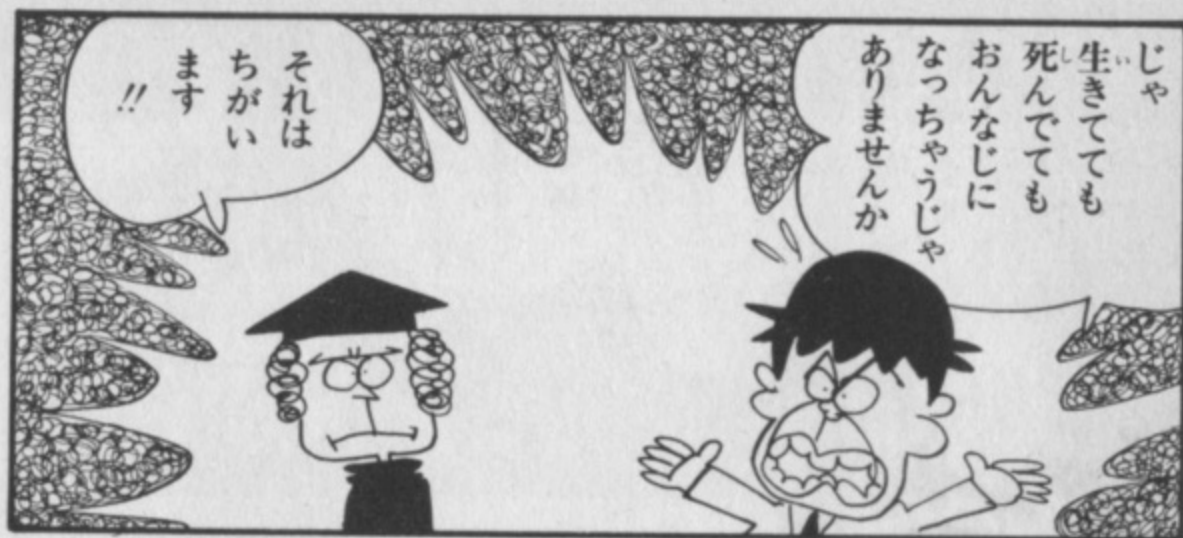
第3章 三世の生命



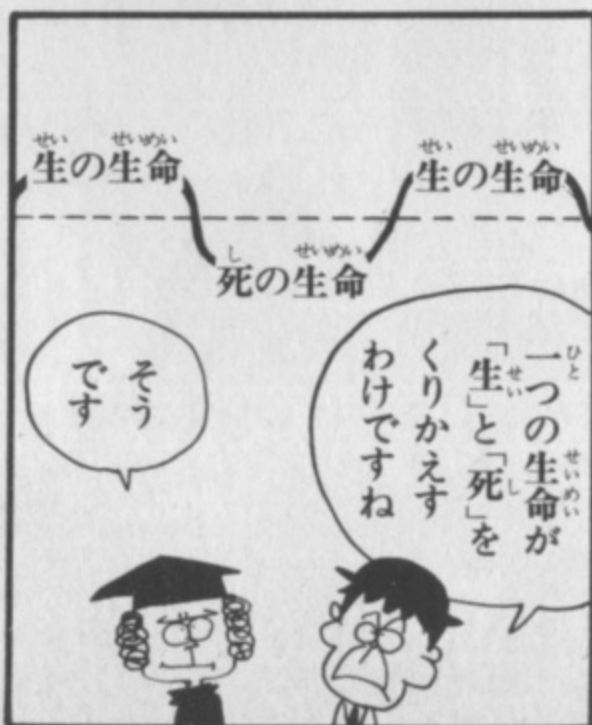


第3章 三世の生命



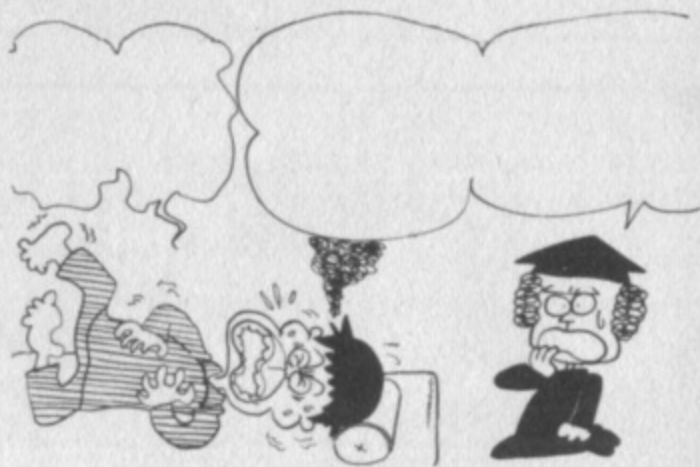


第3章 三世の生命

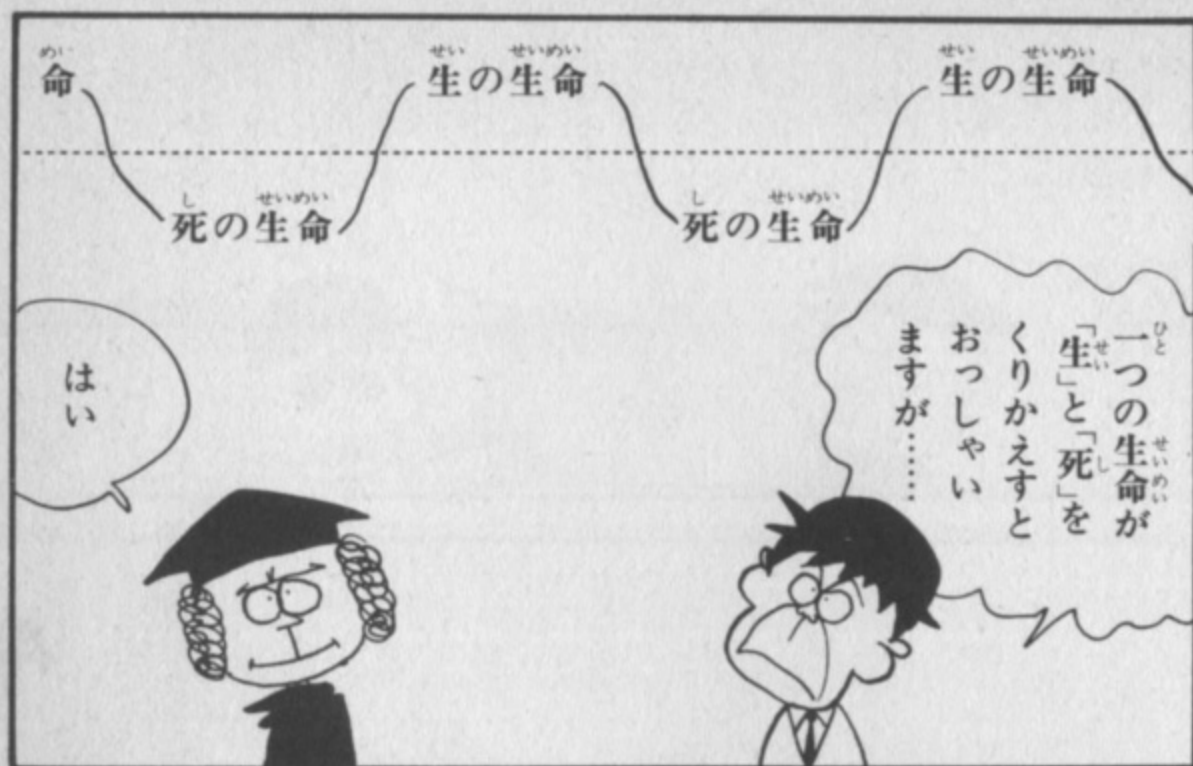


第 4 章

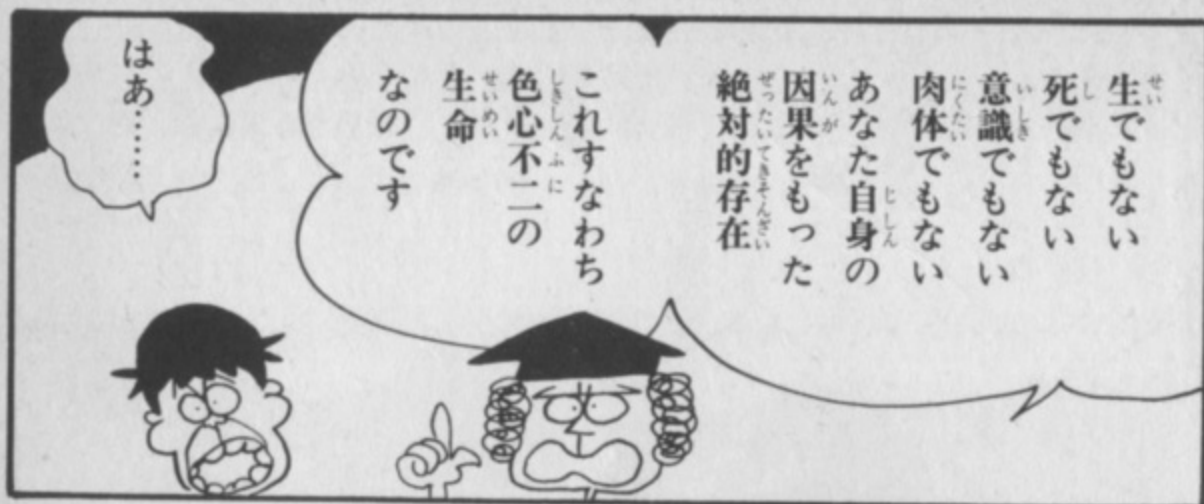
生死不二



第4章 生死不二





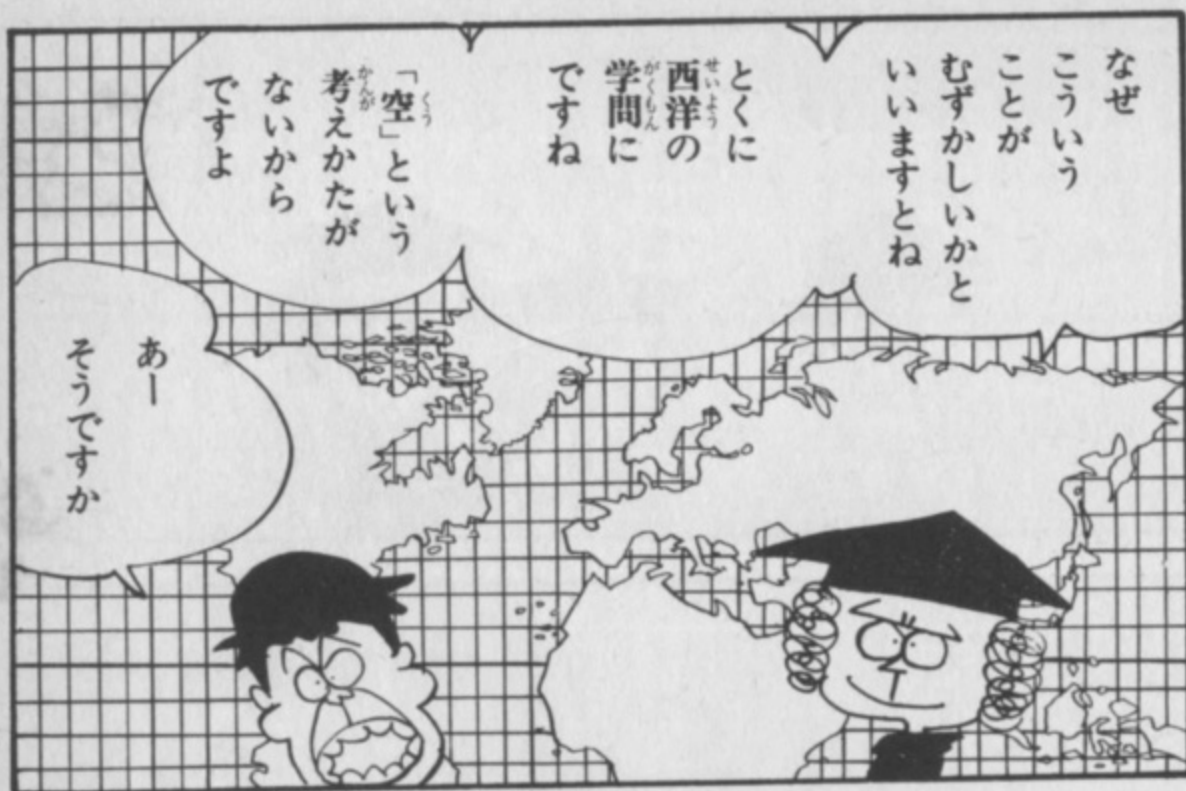


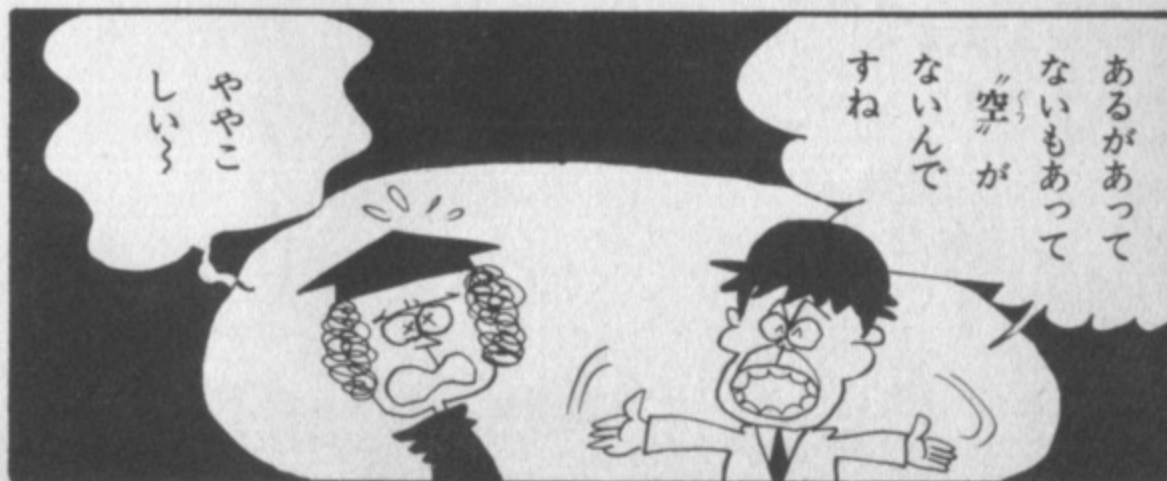






第4章 生死不二

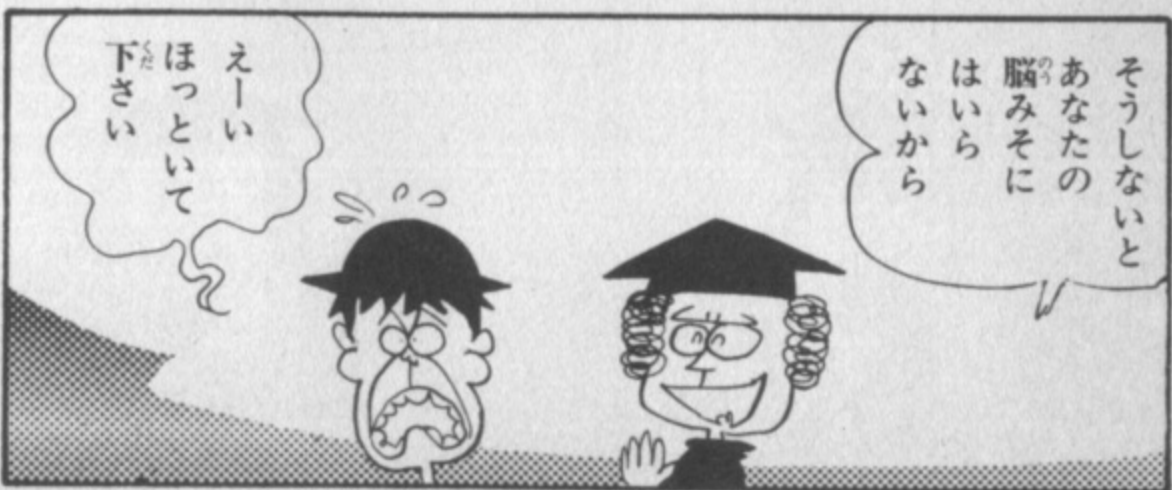
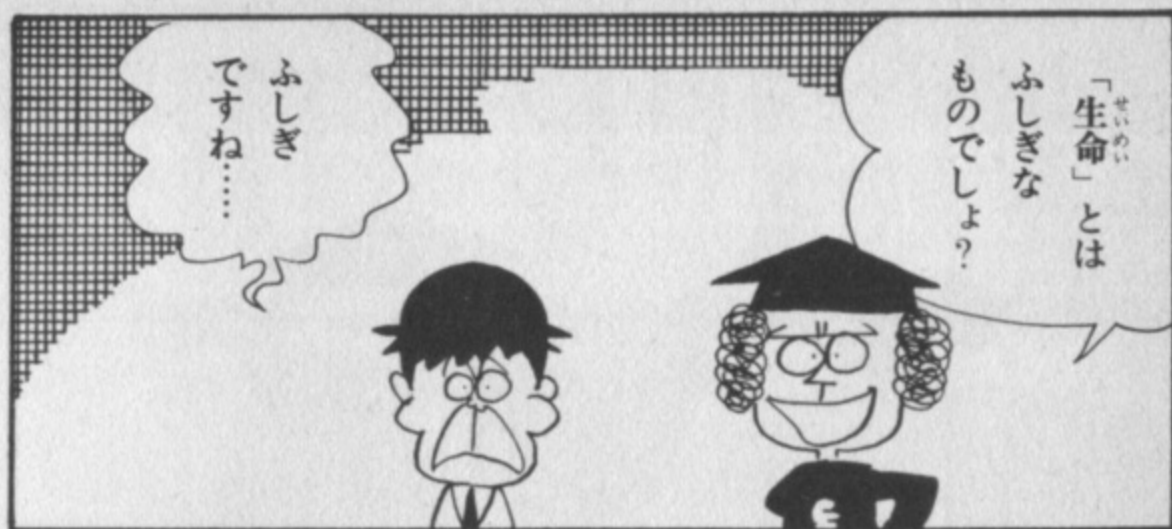




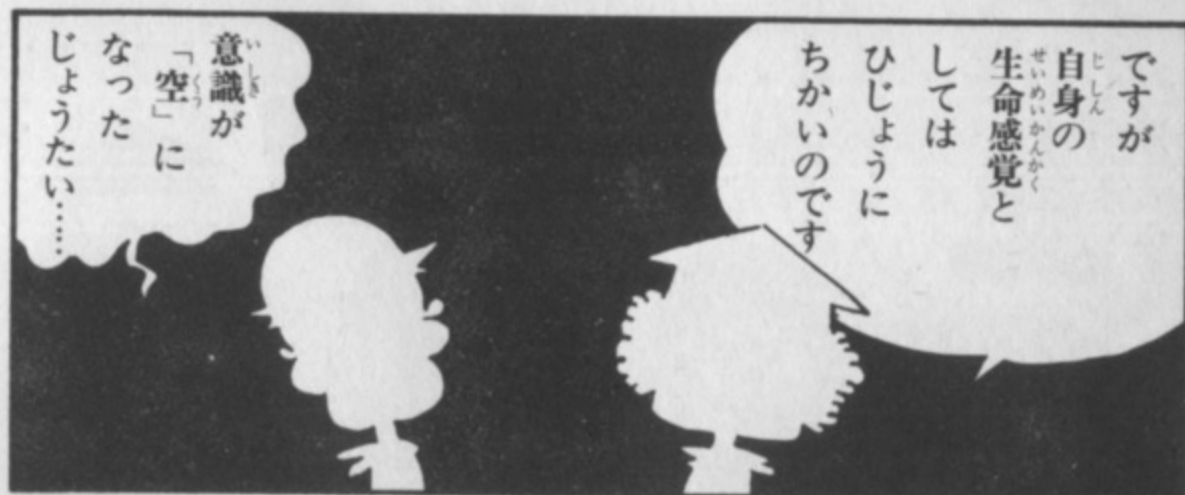


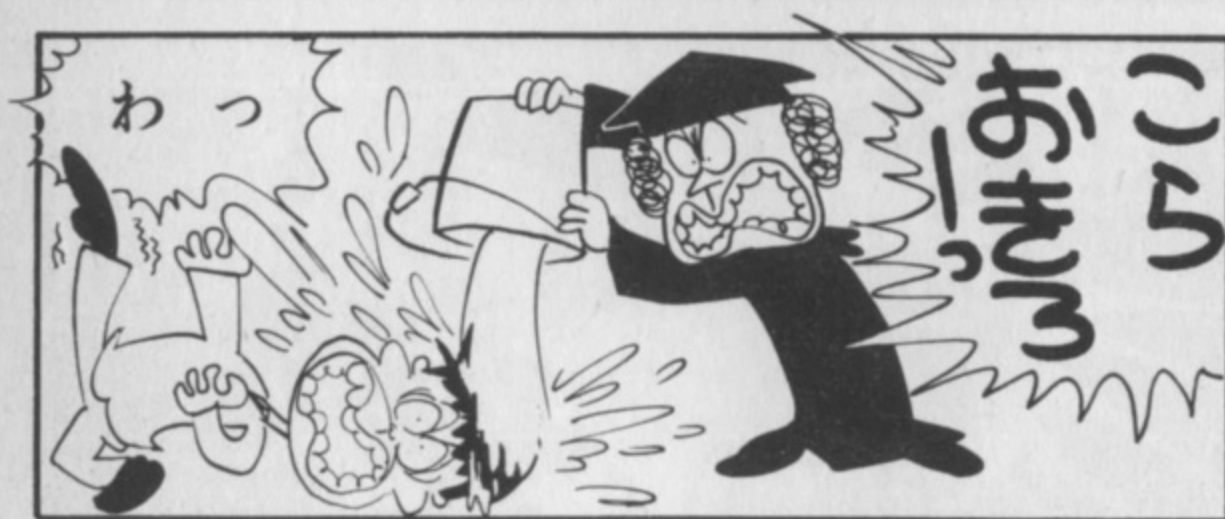
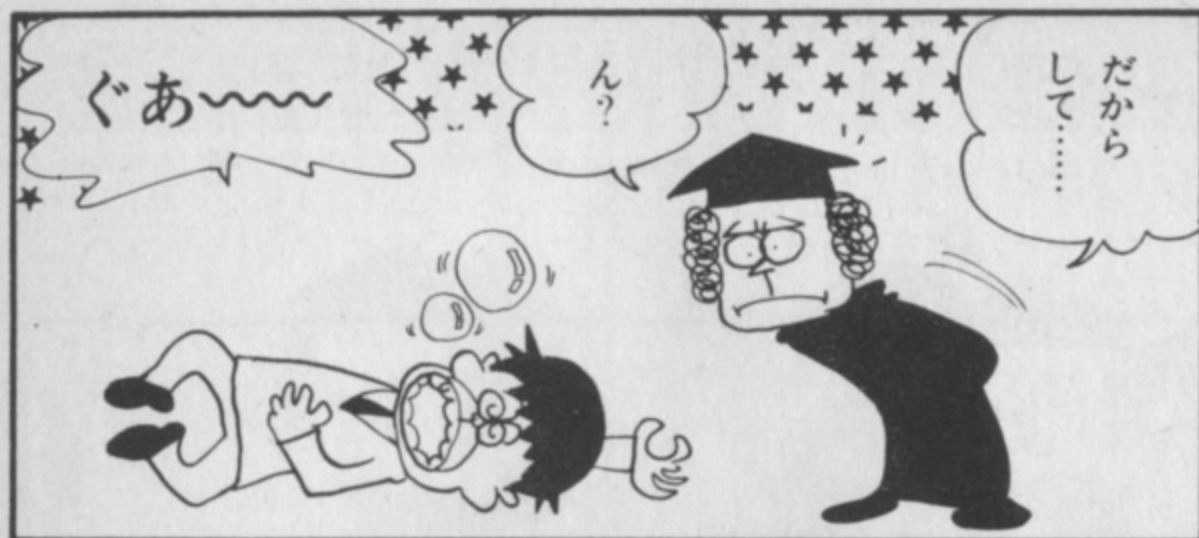


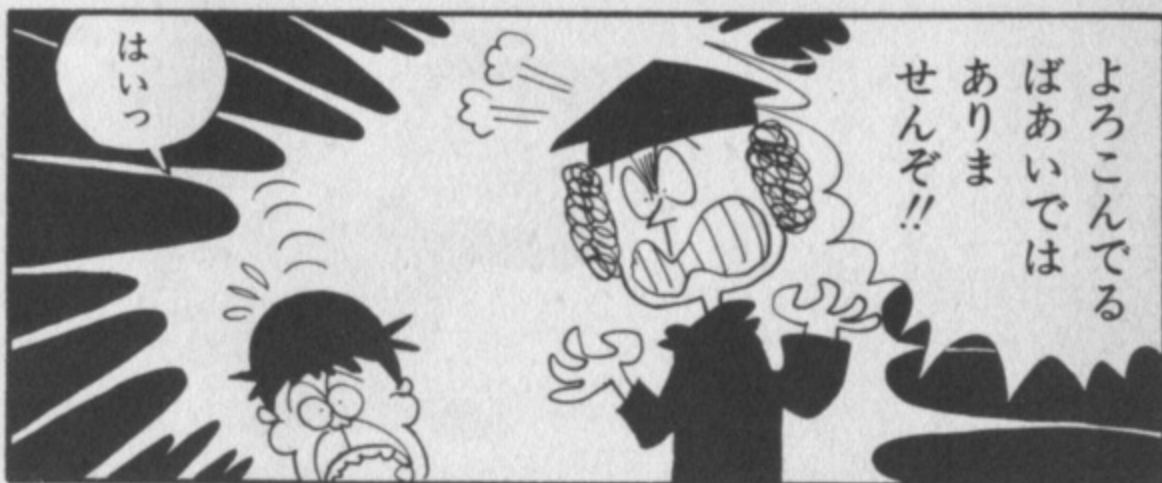






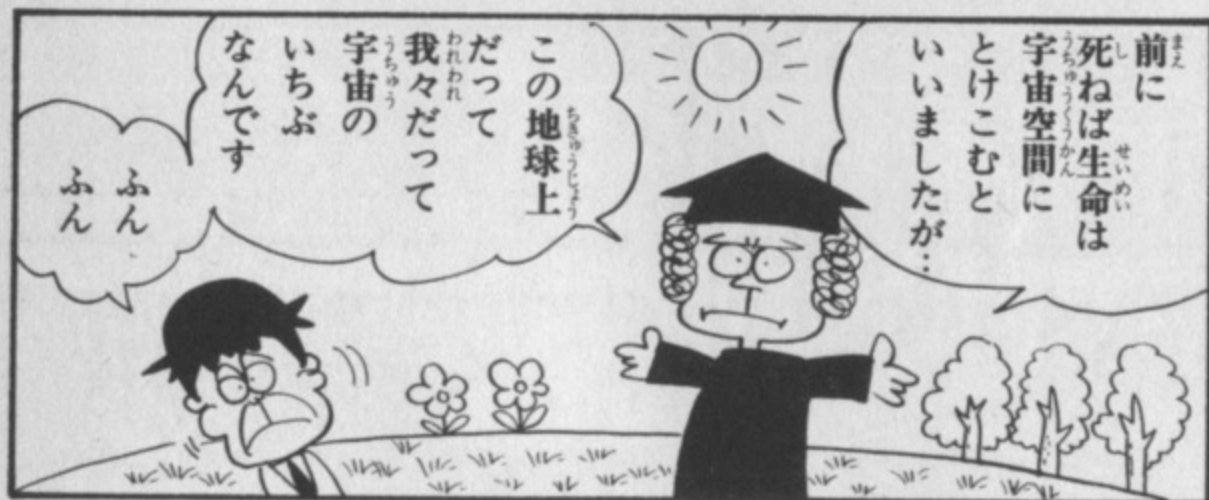


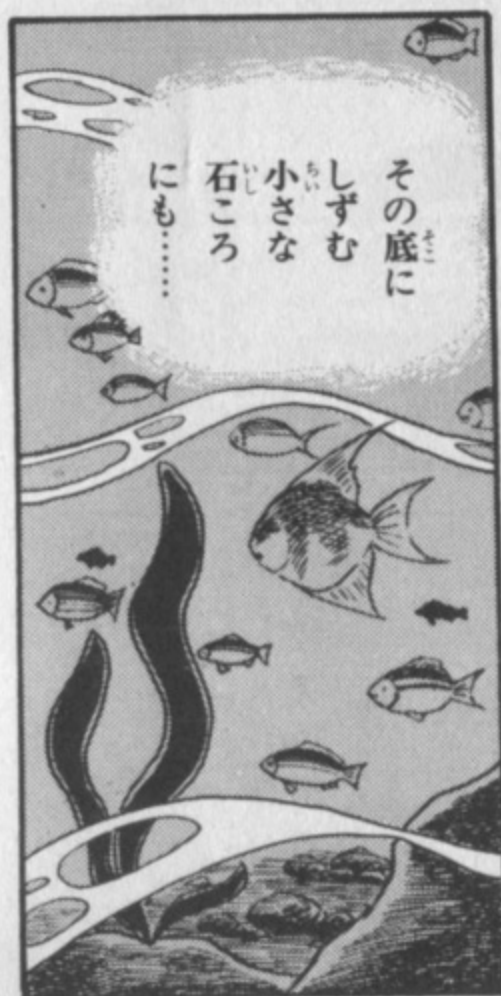
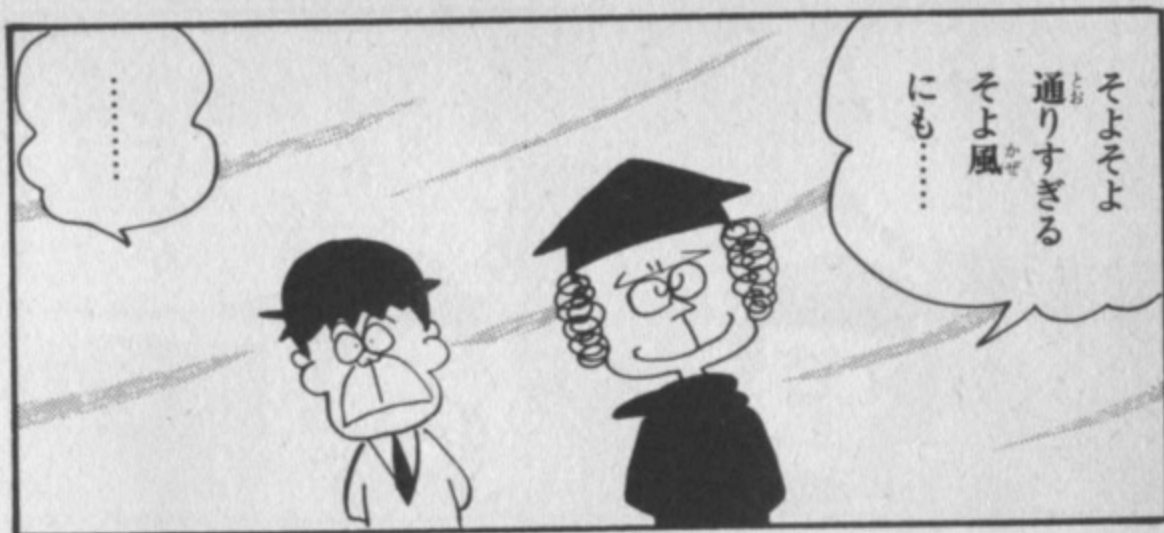


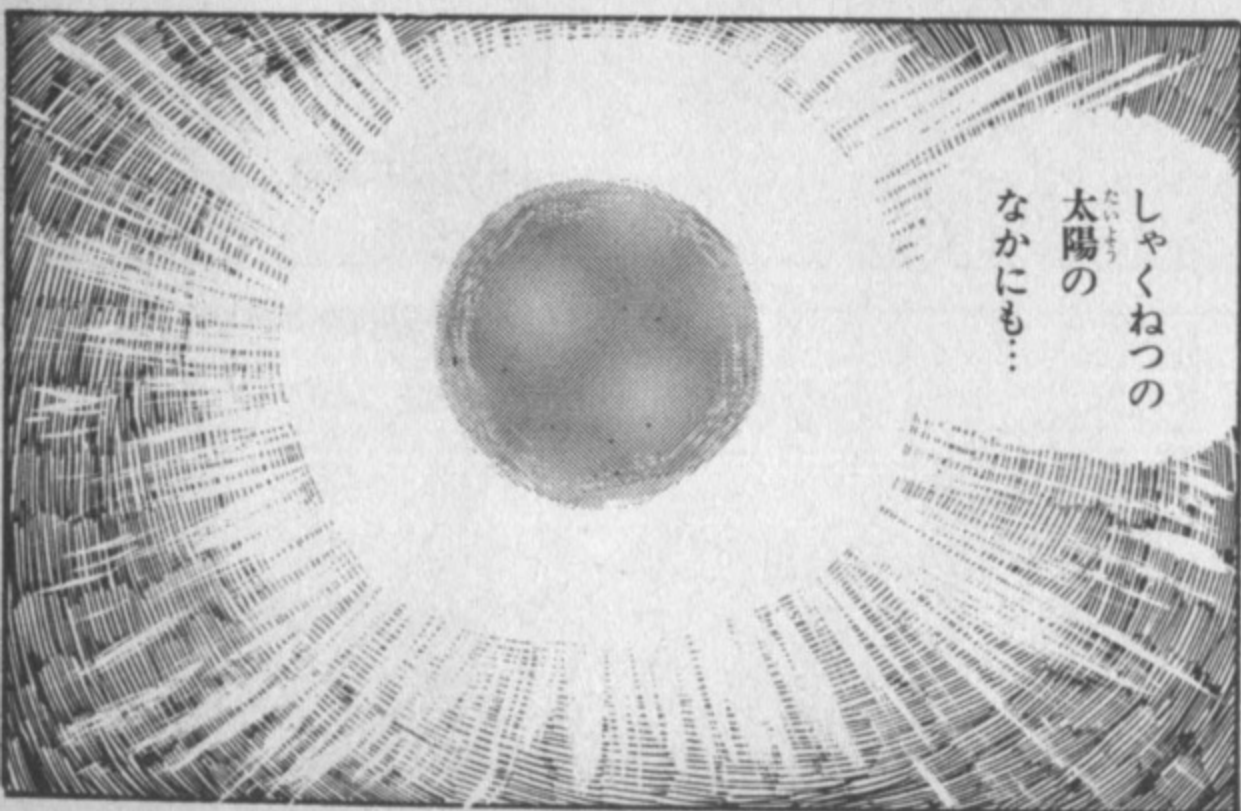


















第 5 章

有情と非情





第5章 有情と非情





第5章 有情と非情











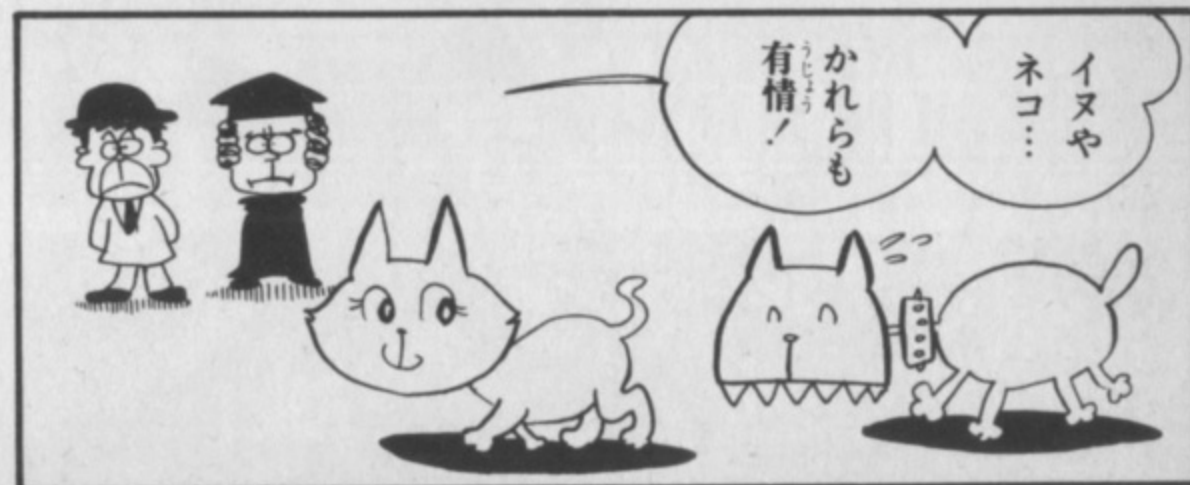


第5章 有情と非情







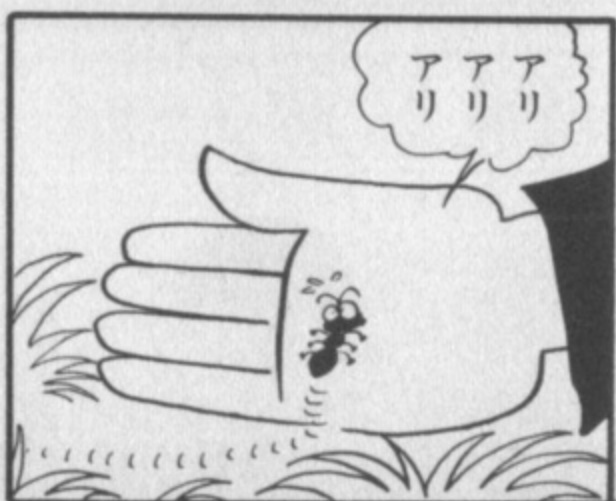
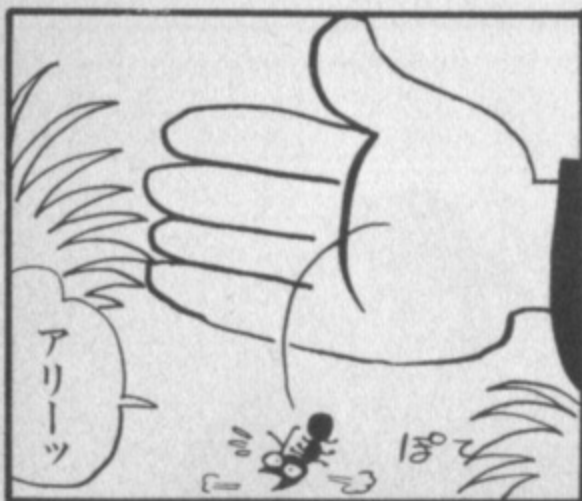
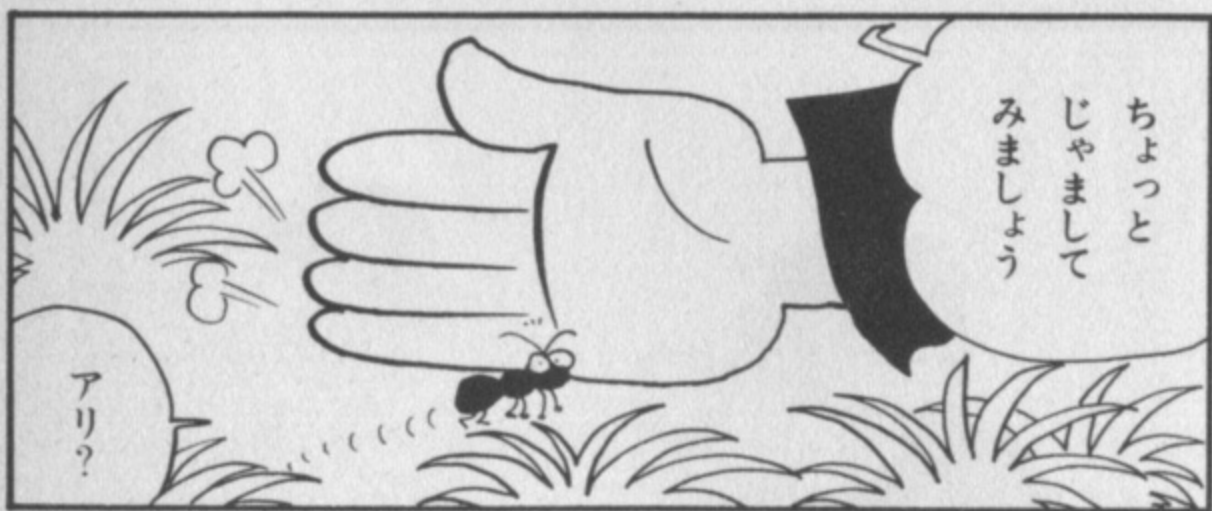


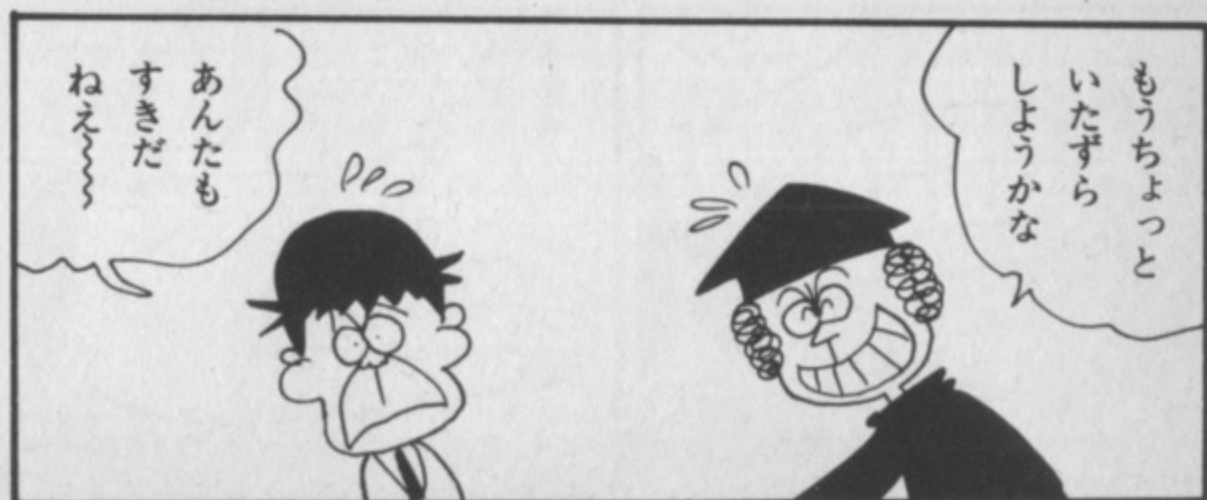
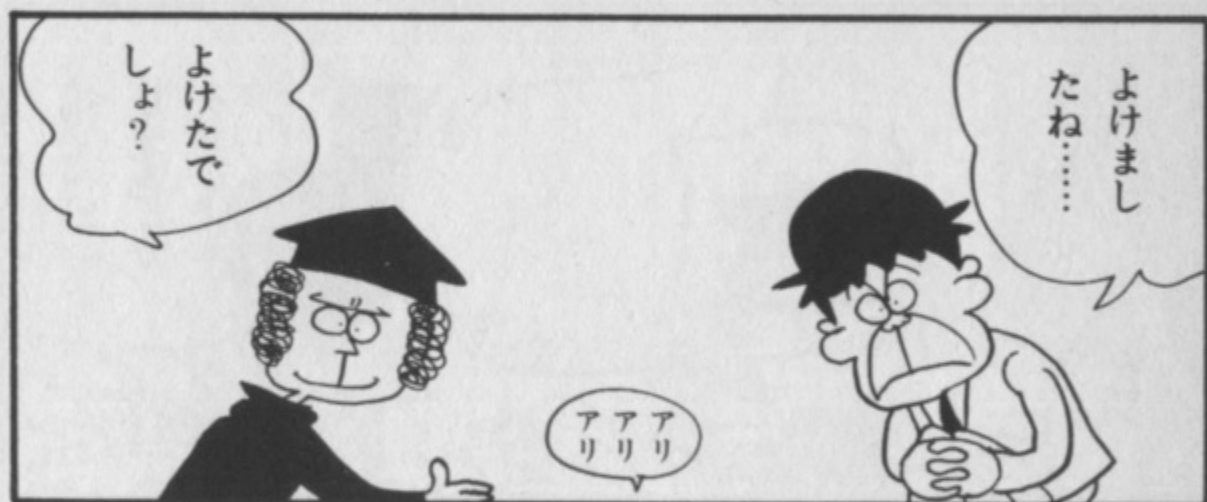
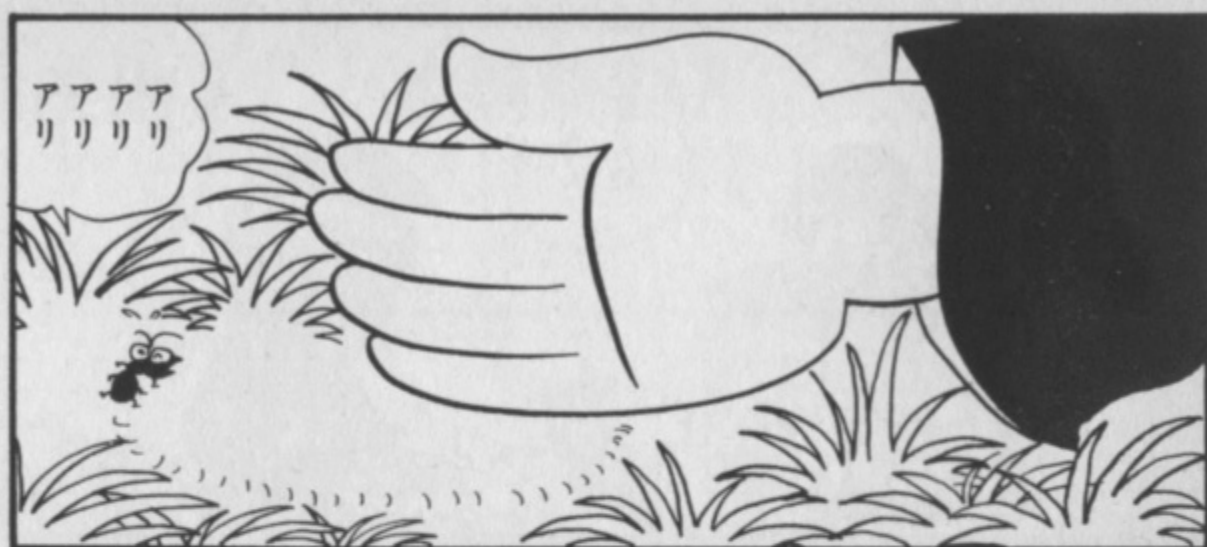
第5章 有情と非情



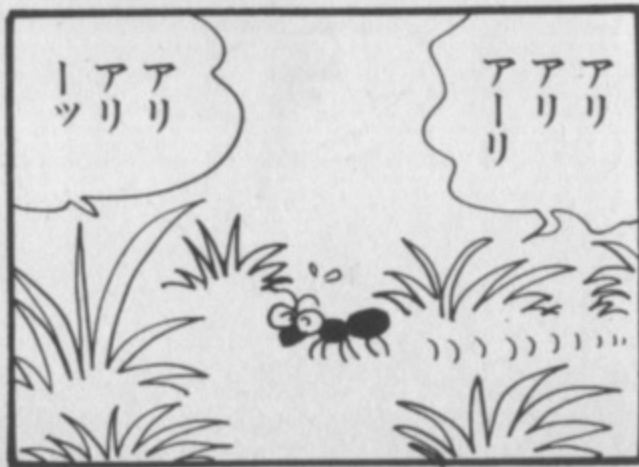
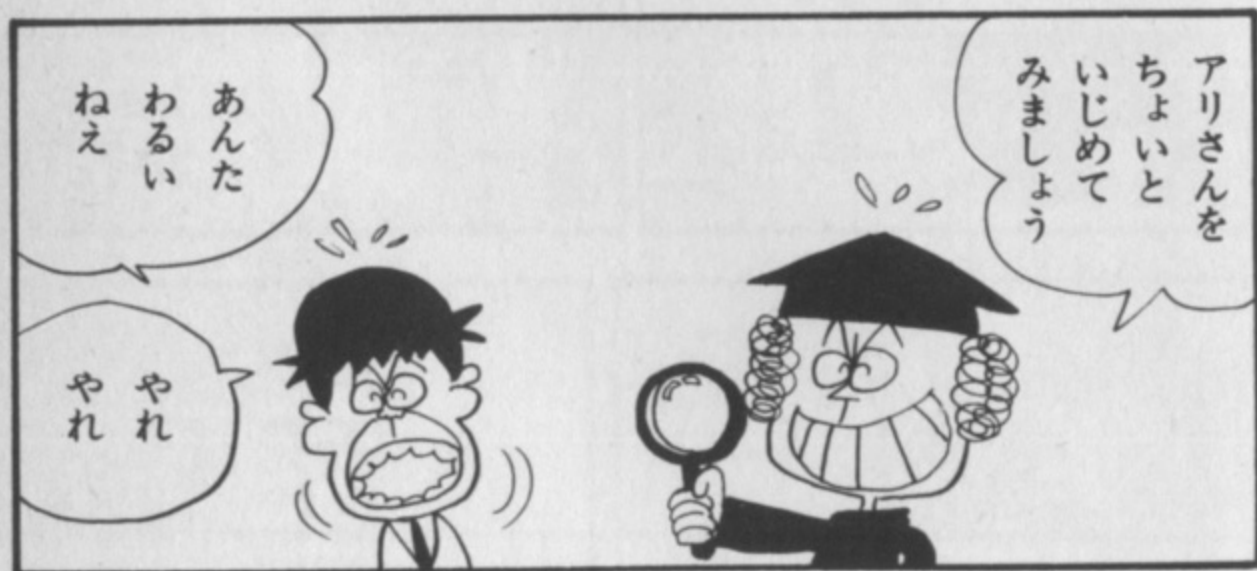
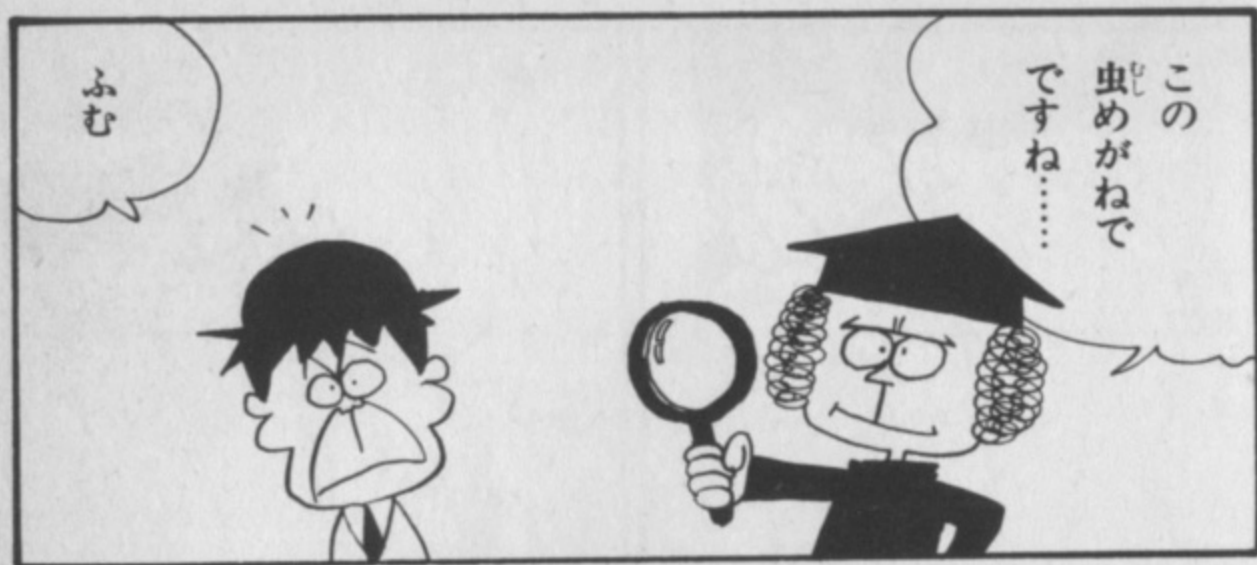


第5章 有情と非情





第5章 有情と非情



第5章 有情と非情





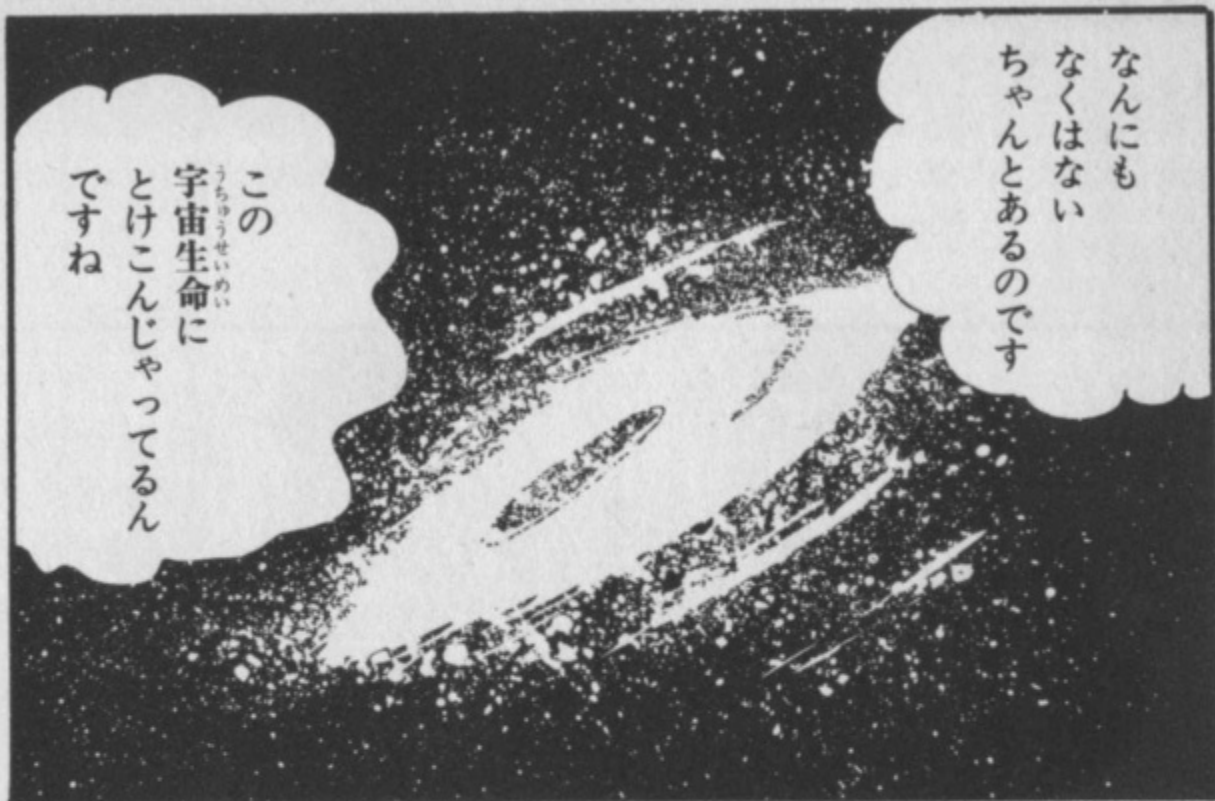




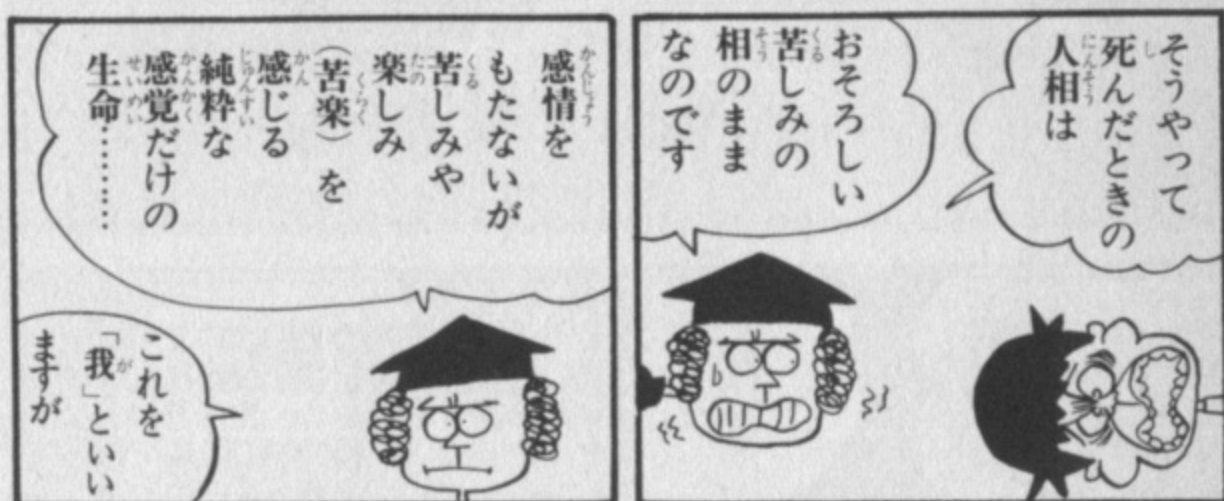
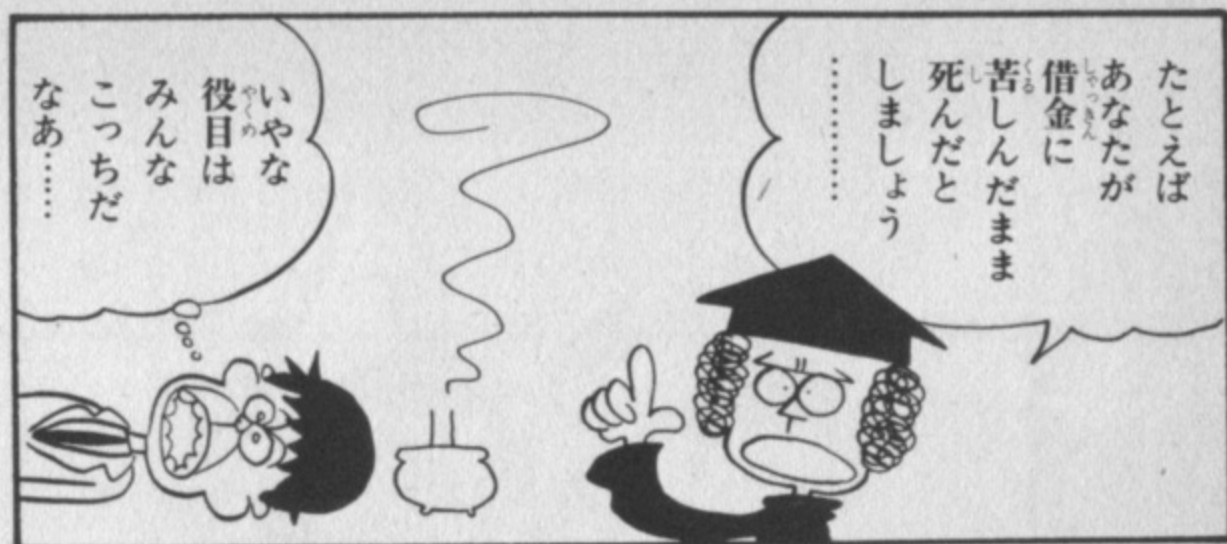
空_{くう}

自分_{じぶん}じゃ
わからないから
これで
いいんですっ

なんにも
ないじゃ
ありま
せんか!!







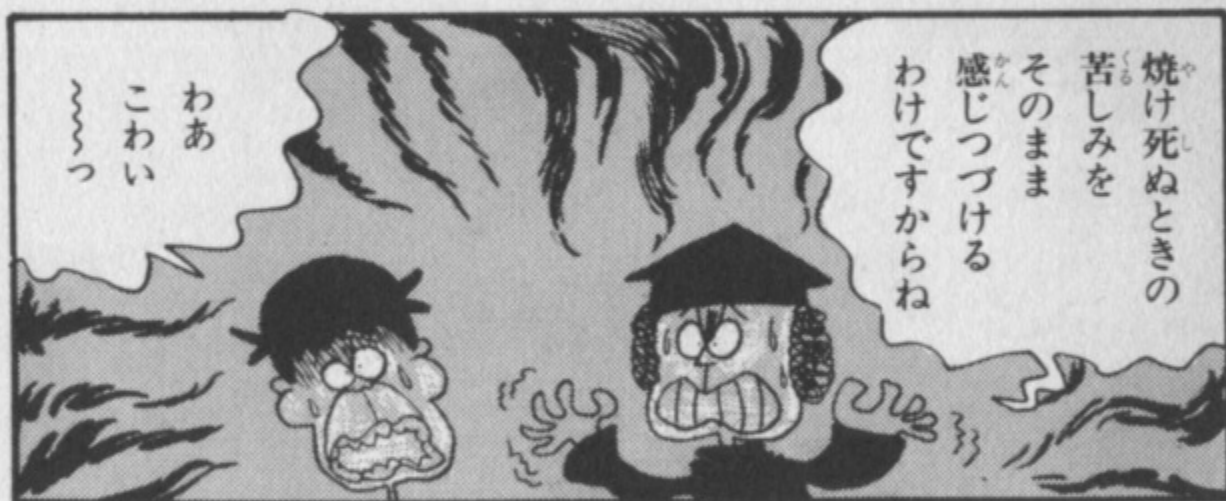
第5章 有情と非情





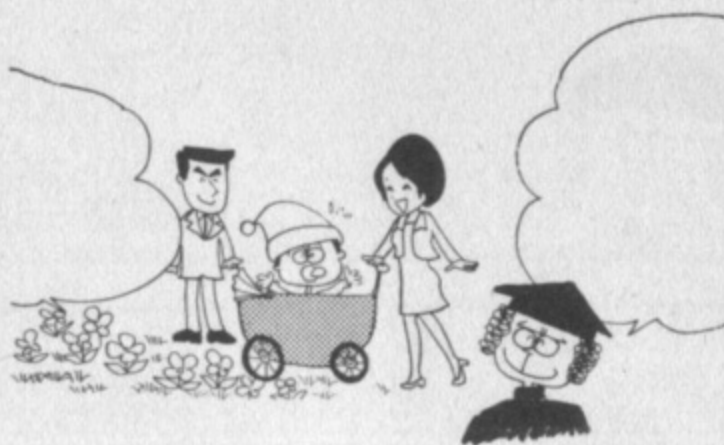
第5章 有情と非情

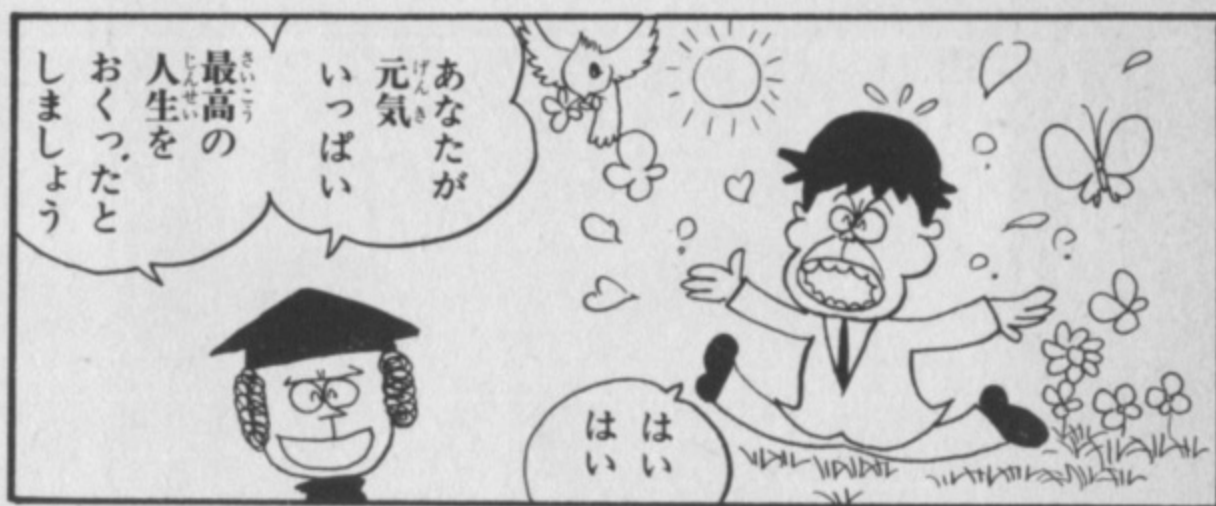


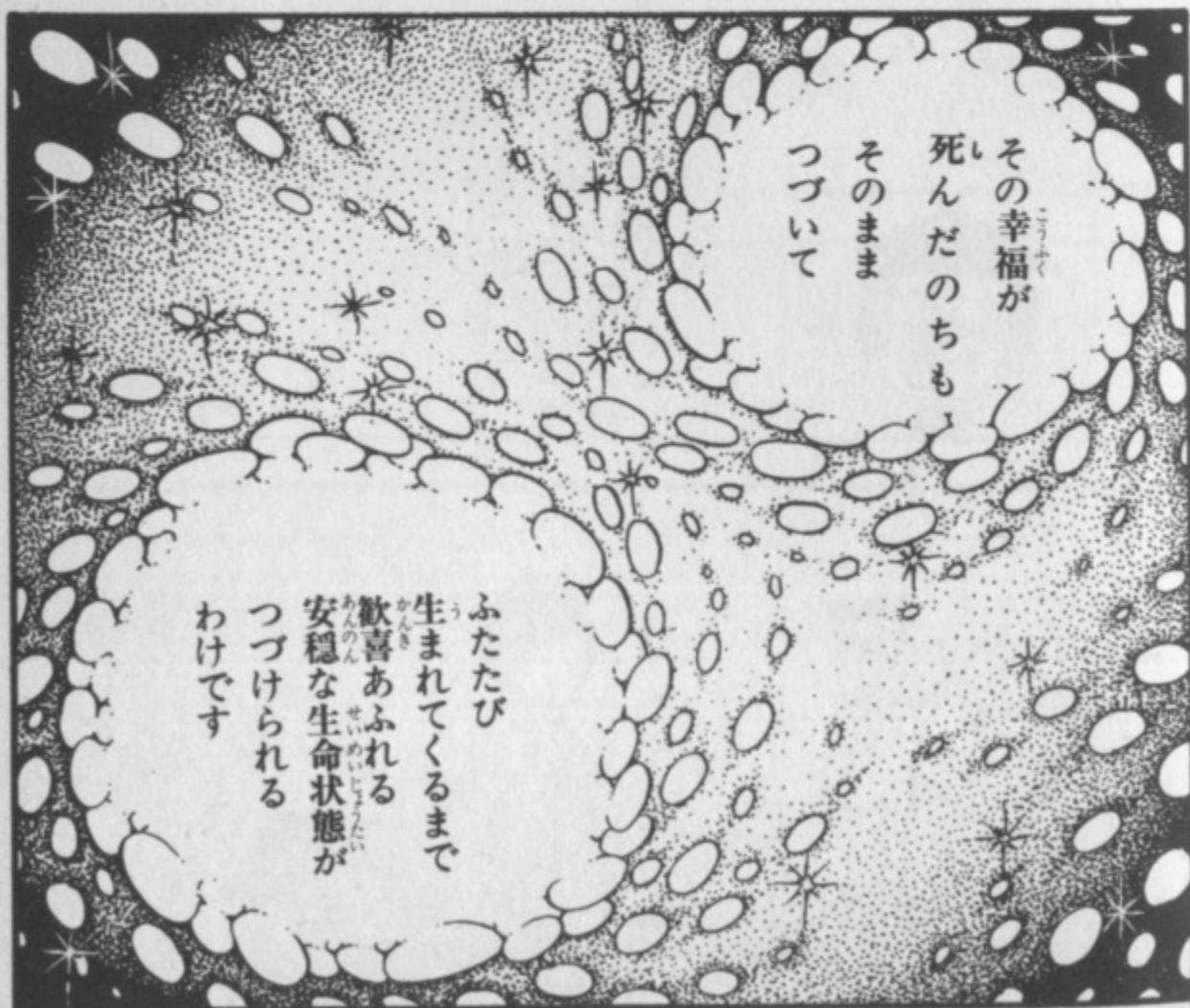


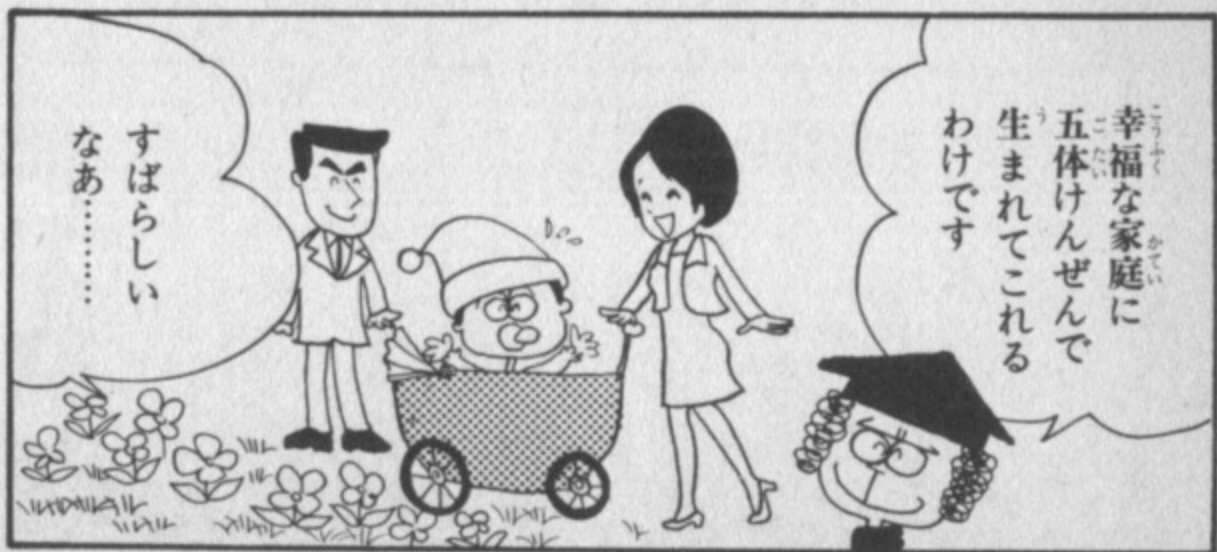
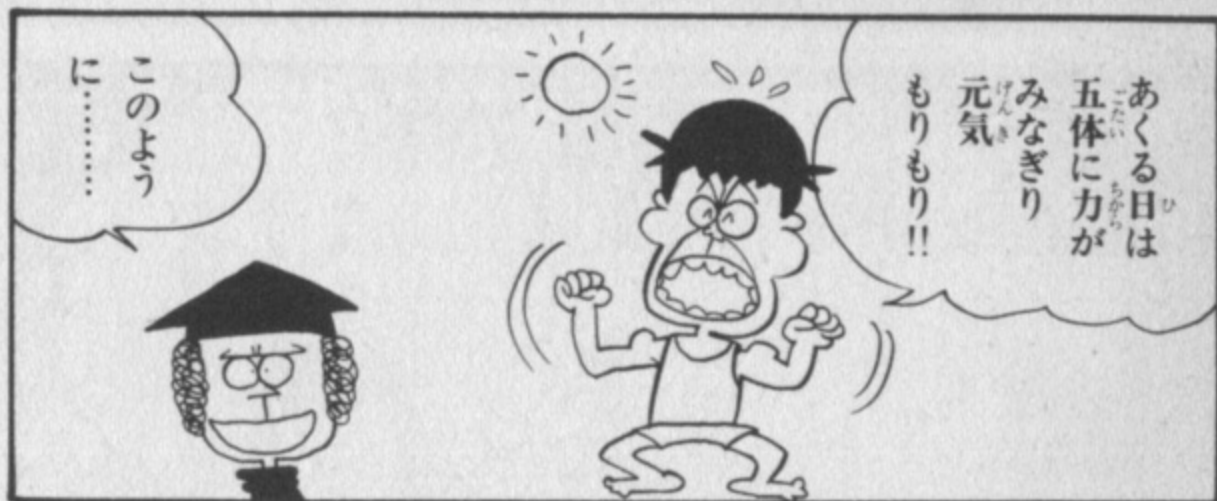
第6章

成仏とは

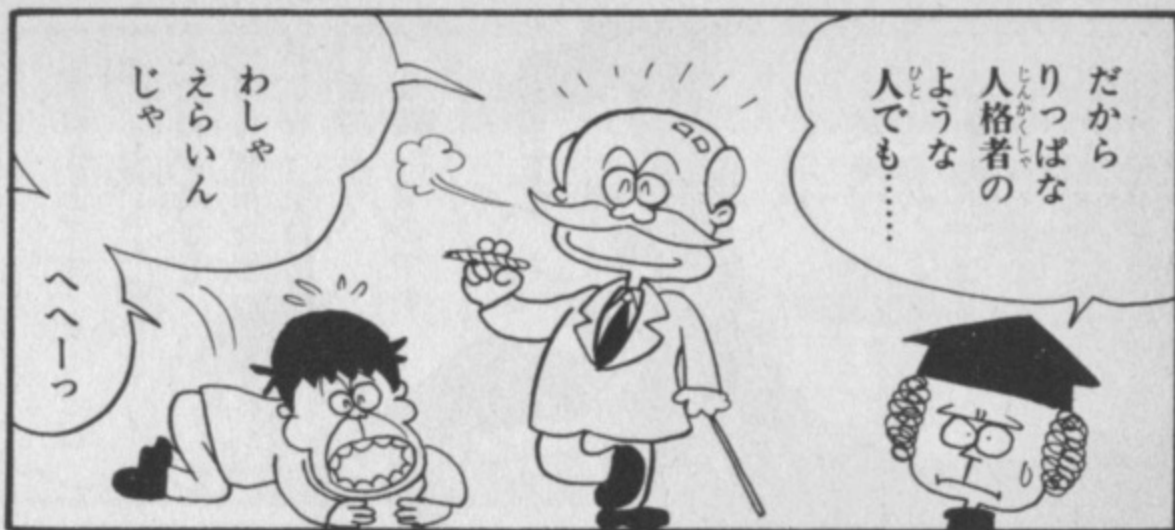






















地獄と仏とは
いづれの所に
候ぞと（中略）
委細にたづね
候へば我等が
五尺の身の内に
候とみへて候

（御書全集一四九一ページ）

そこのところ

まえにも

よんで

くれまし

たね

意味が
よく
わかん
なかつ
たけど

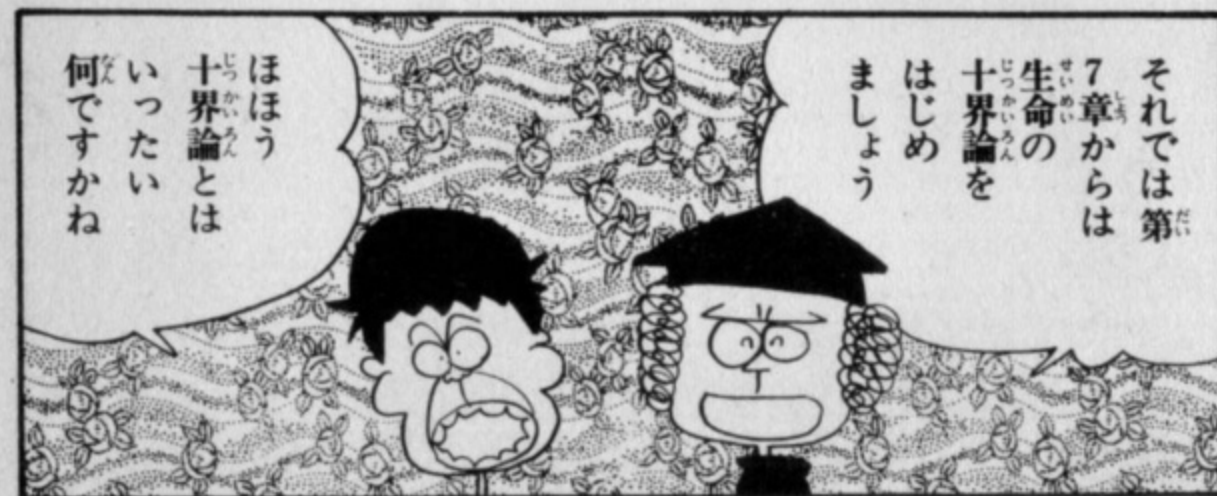
つまり
私たちの
生命のなかには
仏の
生命も
あるけど

地獄や
畜生の
生命も
あるんです

はあ……

あんたなんか
地獄の
生命の方
に
ちかいんです

なんだ
なんだ
なんだ



第 7 章

十界論



はじめに
十界の
名前をあげて
おきましょう

下から順に
上へいくほど
良い生命状態を
さしています

かい界 かい界 かい界 かい界 かい界 かい界 かい界 かい界 かい界 かい界

さつ薩 かく覚 もん聞 ら羅 しやう生 き鬼 ごく獄

ぶつ仏 ほ苦 えん縁 しやう声 てん天 にん人 しゅ修 ちく畜 が餓 じ地

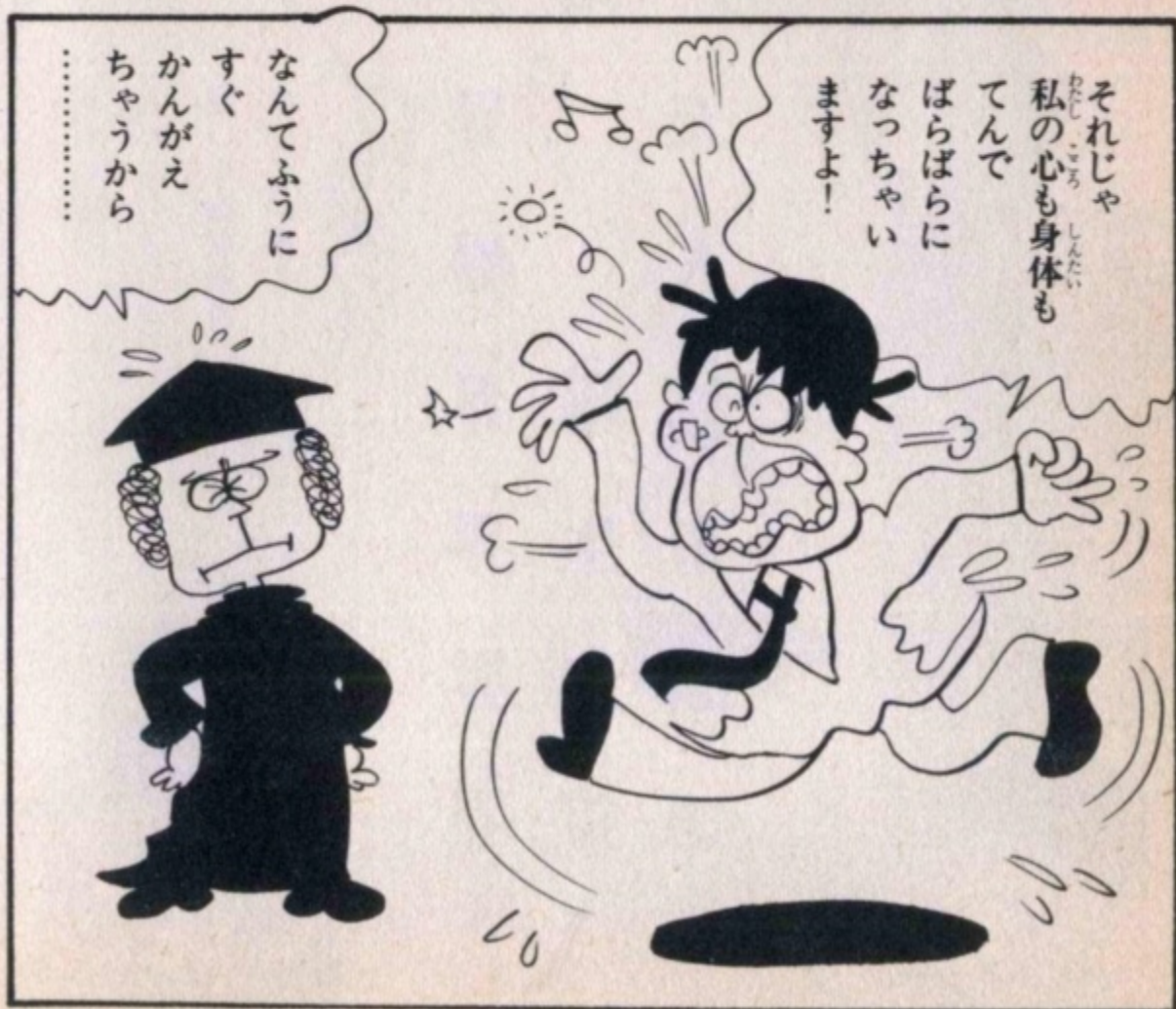
ひいふうみい……

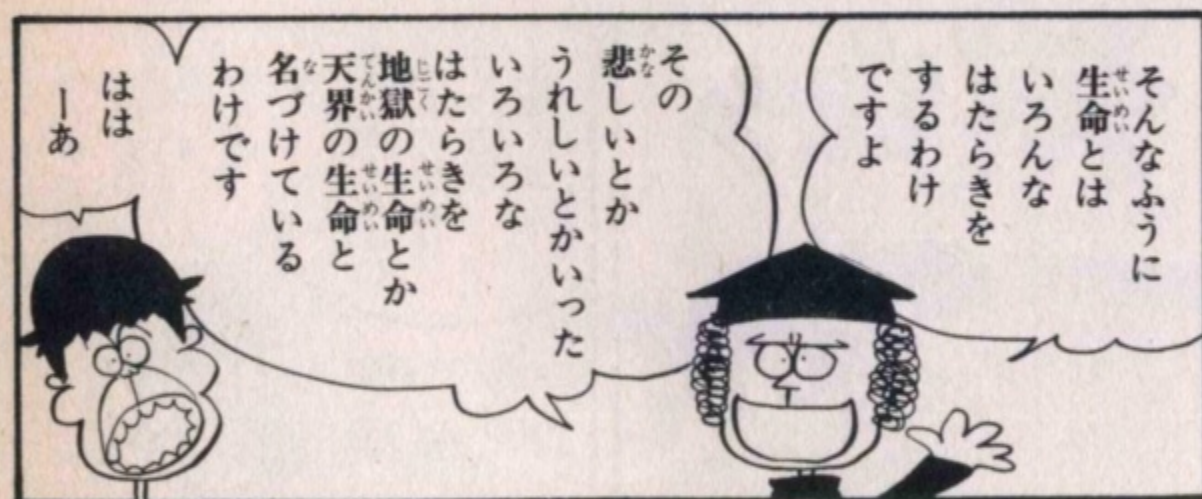
全部で

十界……

ずいぶん
たくさん
あるん
ですねえ

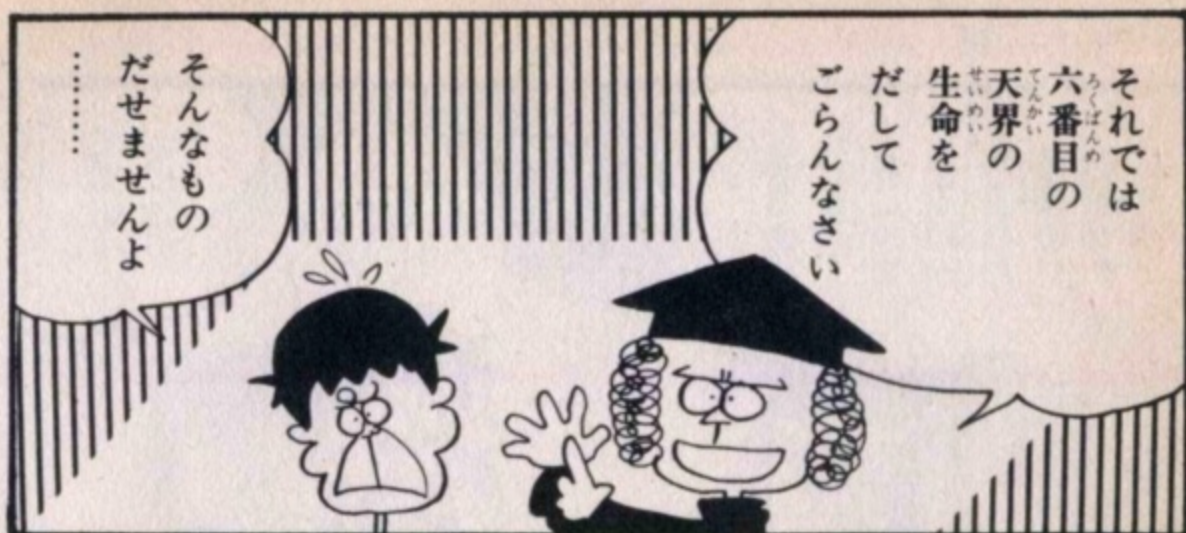


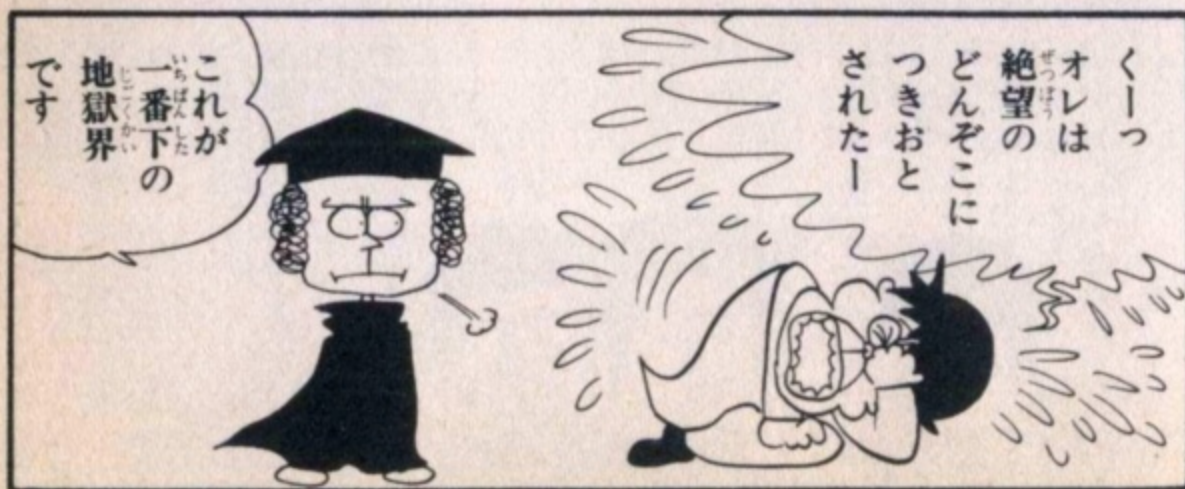
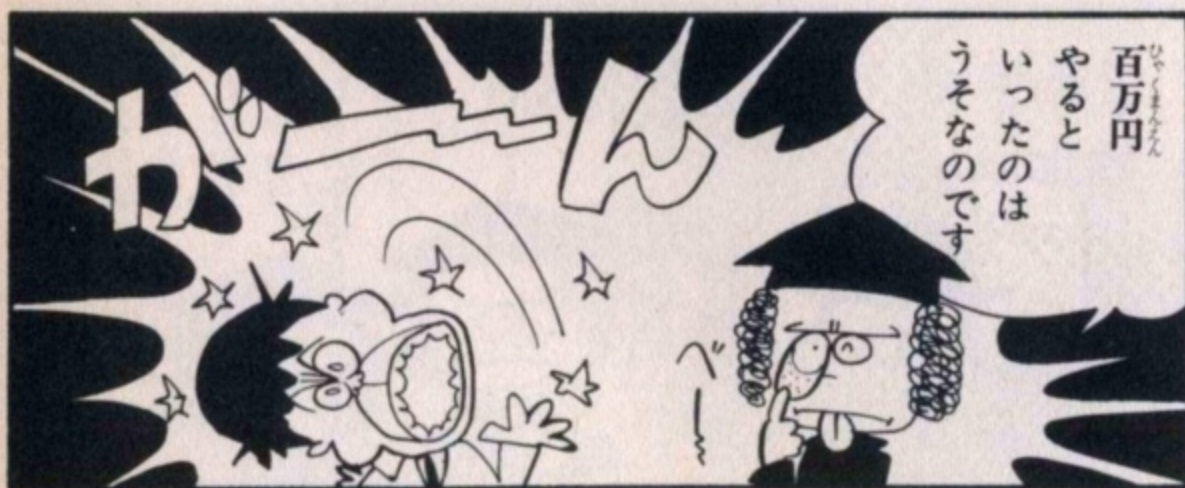


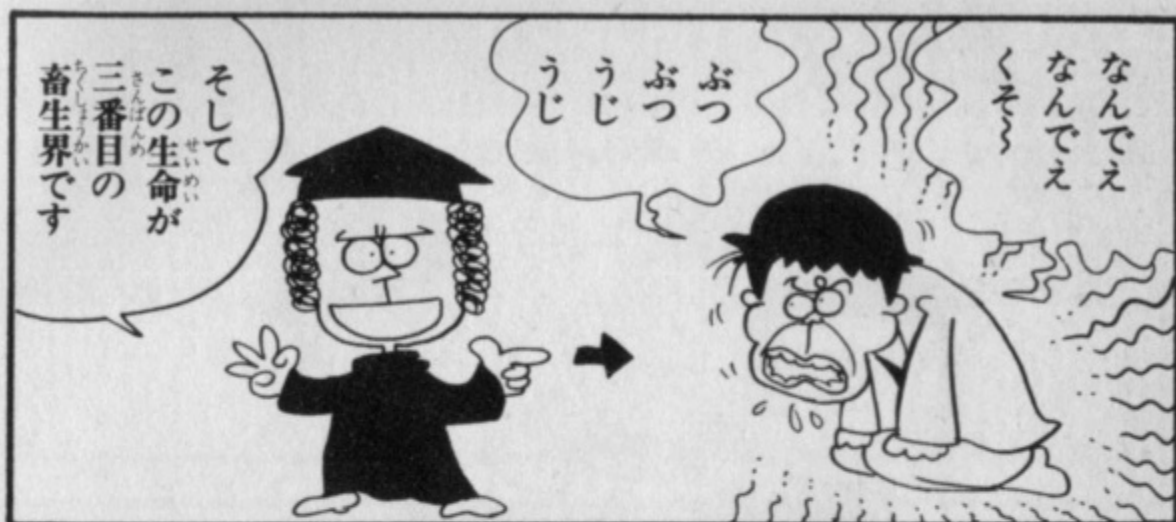












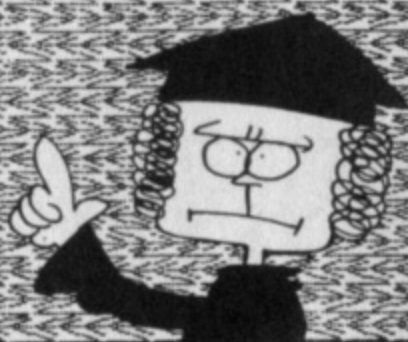


あなたは
これで
ですな

- 一、地獄界じごくかい
- 二、餓鬼界がきかい
- 三、畜生界ちくじょうかい
- 四、修羅界しゆらかい
- 五、人界にんかい
- 六、天界てんかい

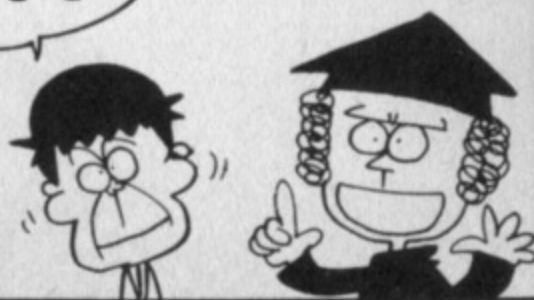
の六つを
もう
経験
したわけです

あつ
そーか



これら六つの
生命は
我々が生活して
ふつう
もっともよく
あらわれてくる
生命です

なるほど
なるほど

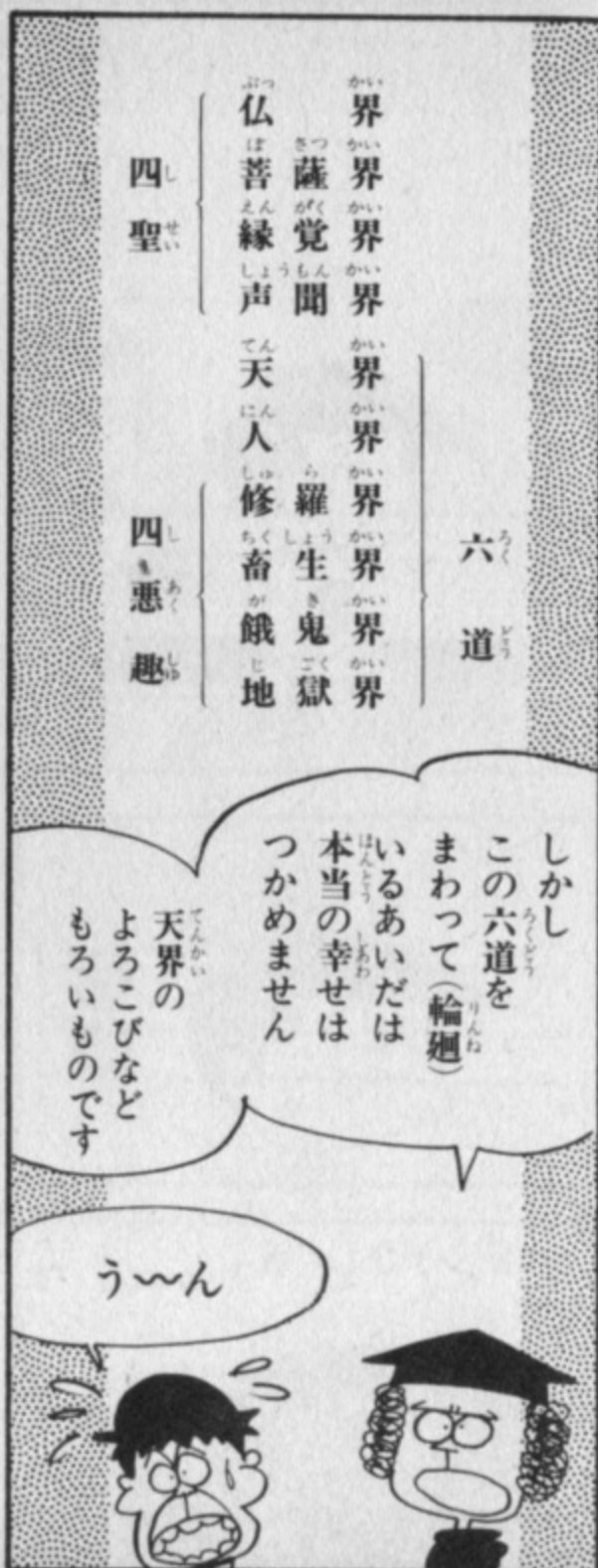


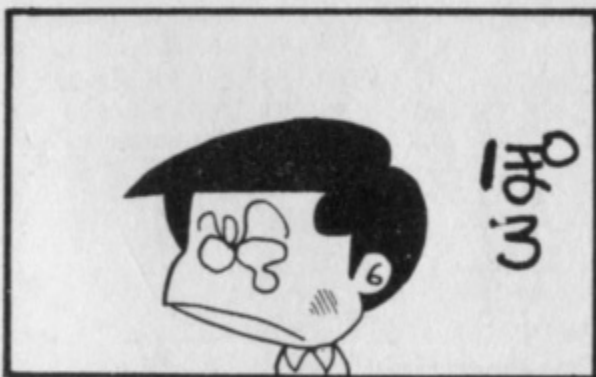
ふつうの人は
この六つの道を
ぐるぐると
まわっているのだ

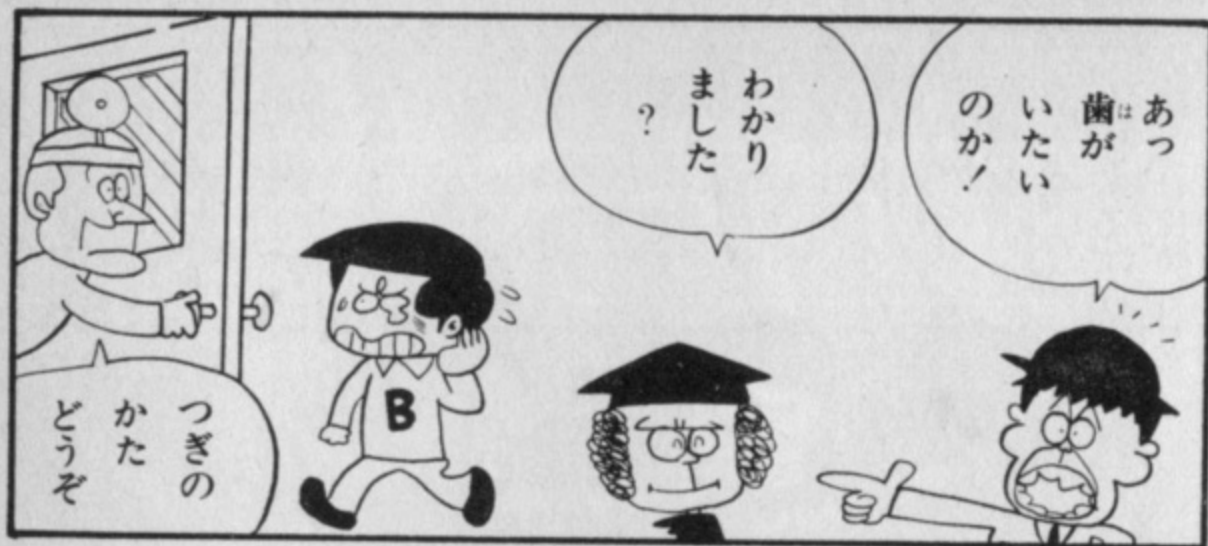
これを
六道
輪廻と
いいいます

ロクドー
リンネ
ねえ...

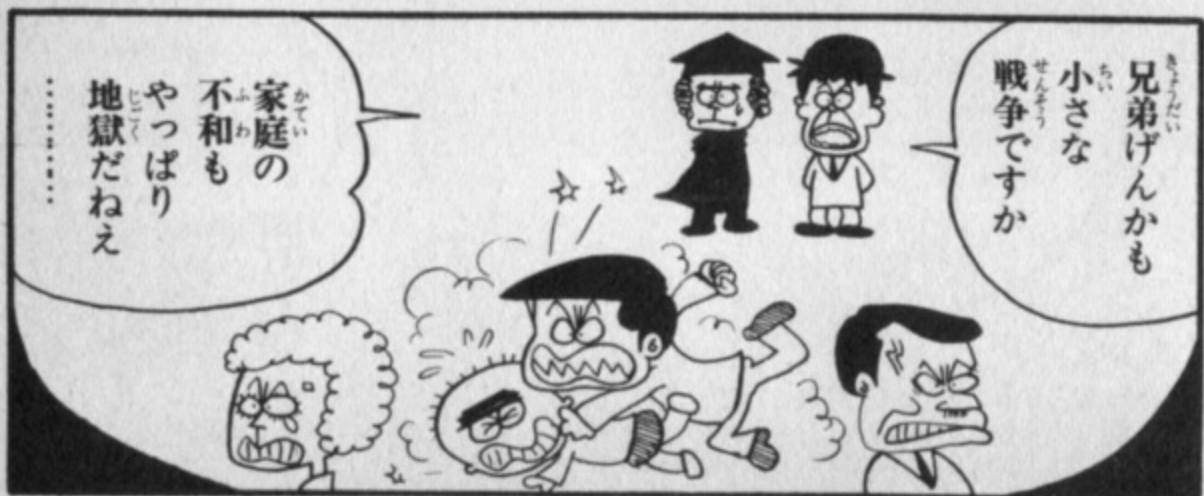
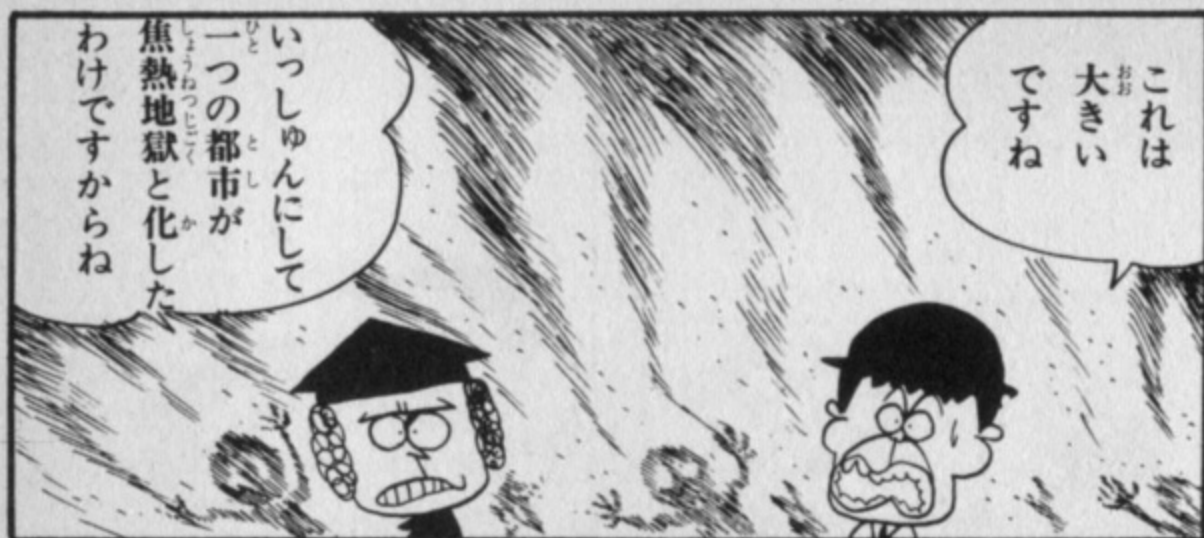






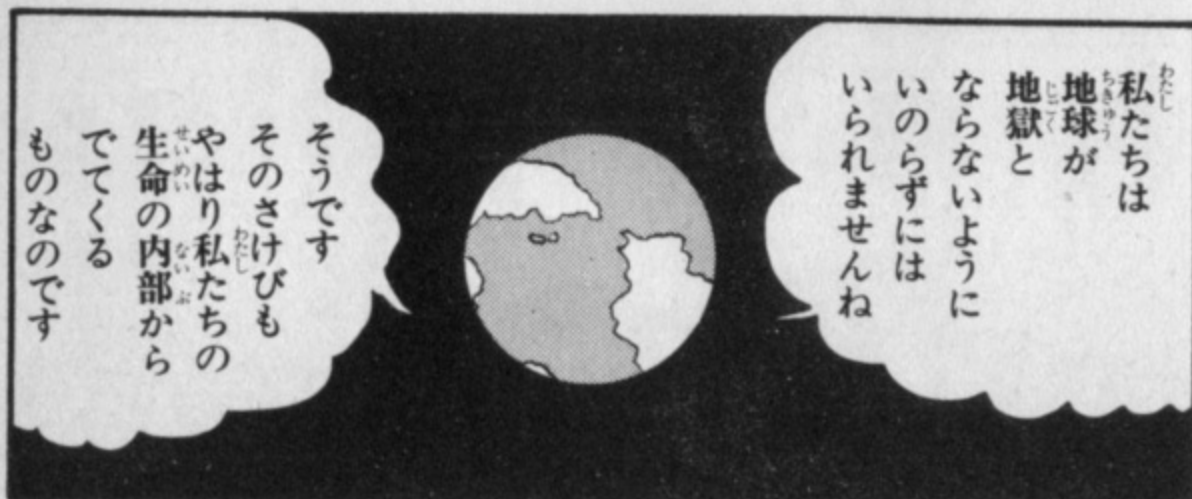
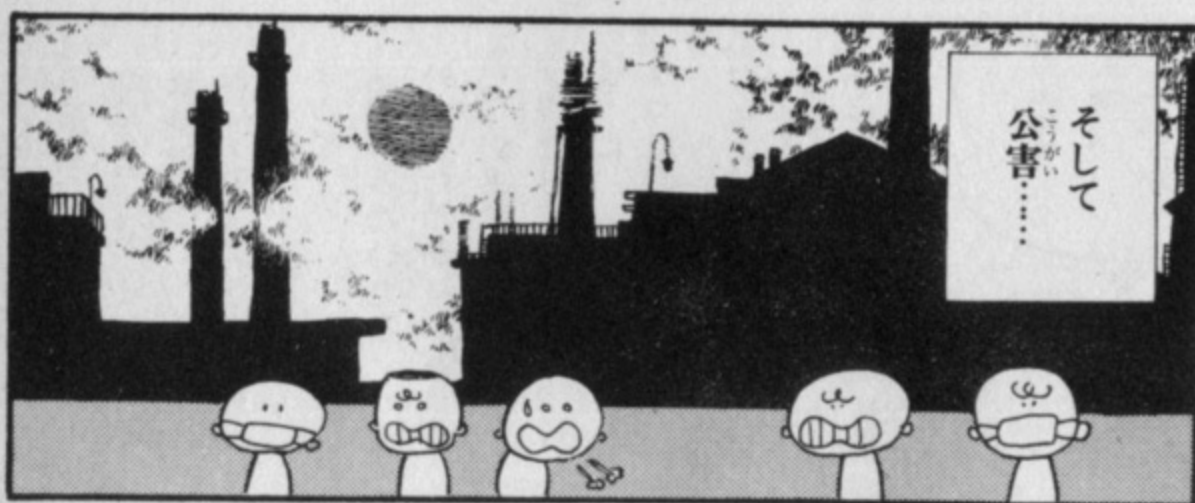
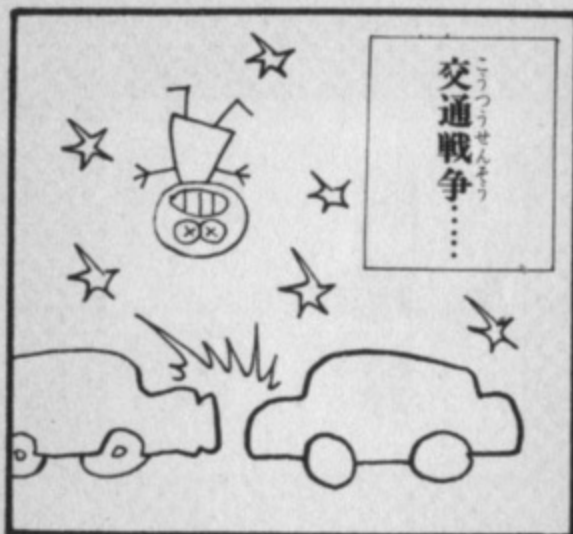






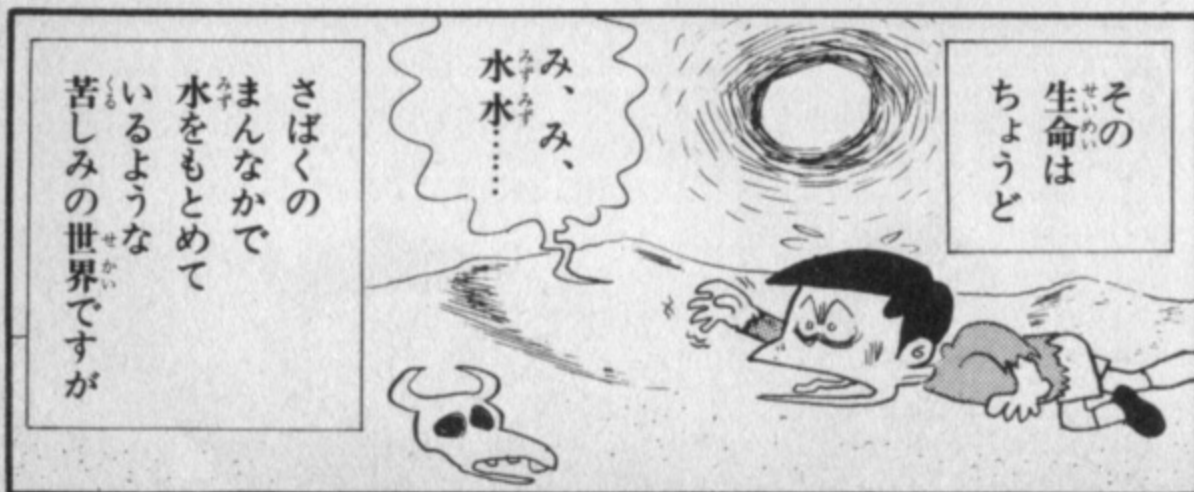


第7章 十界論

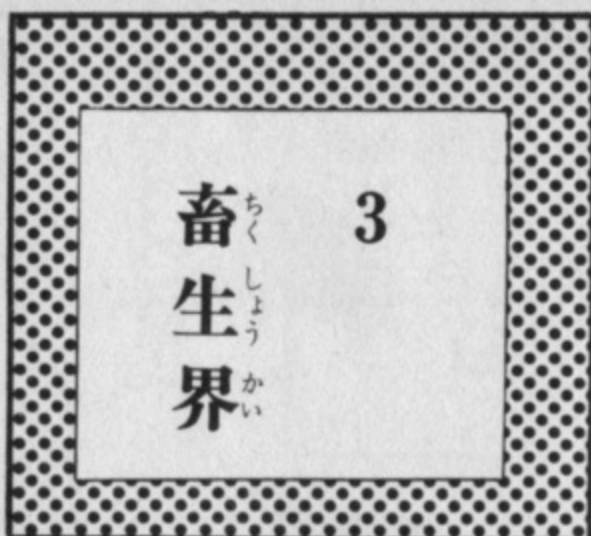
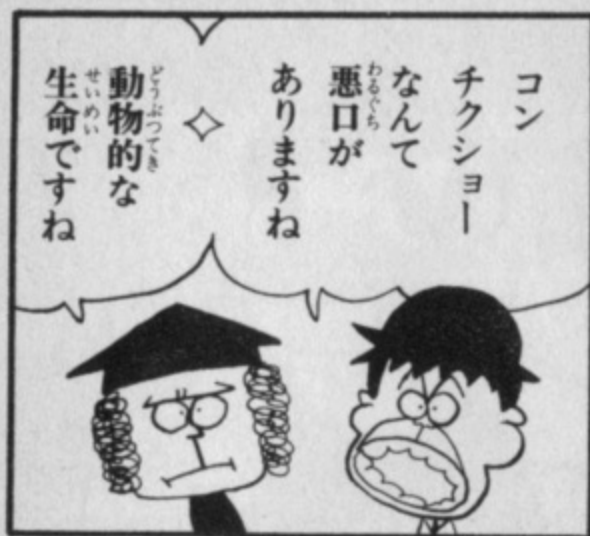


2 餓鬼界



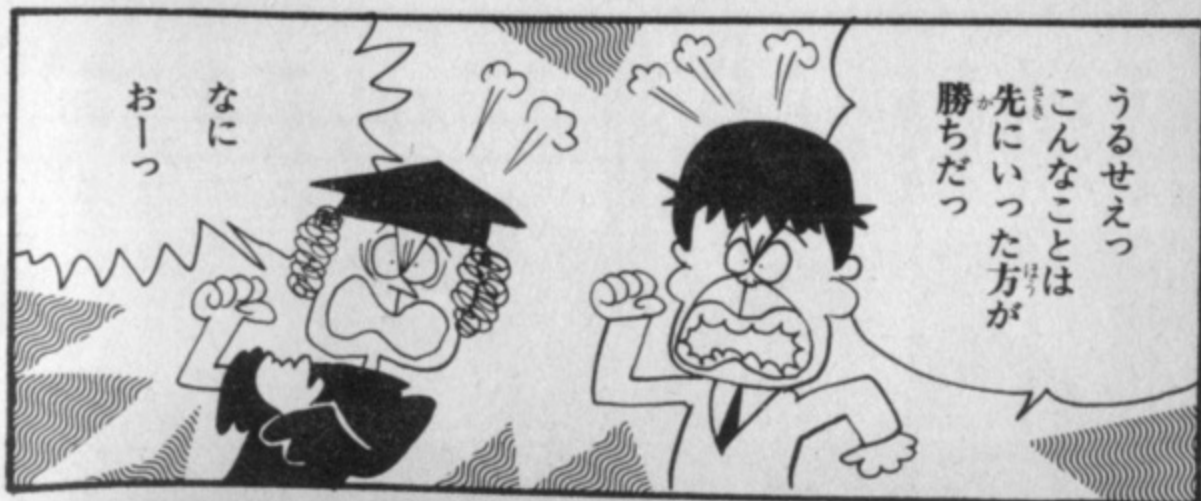




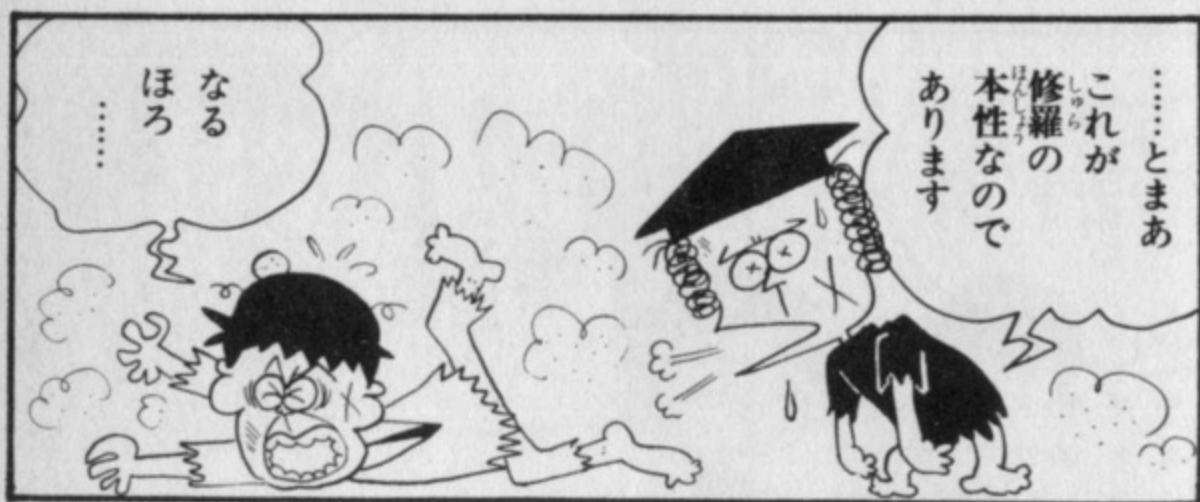
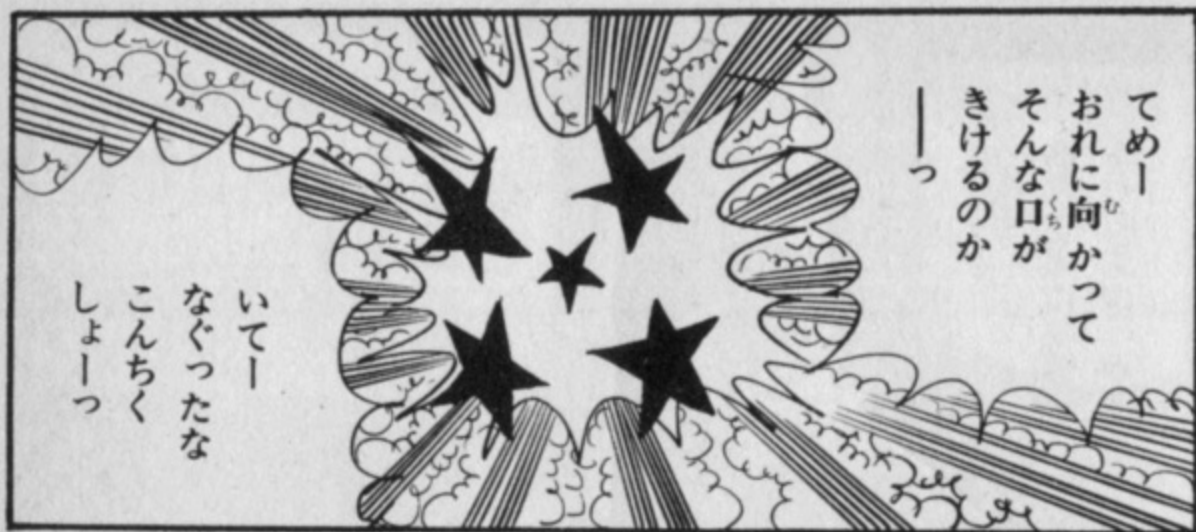






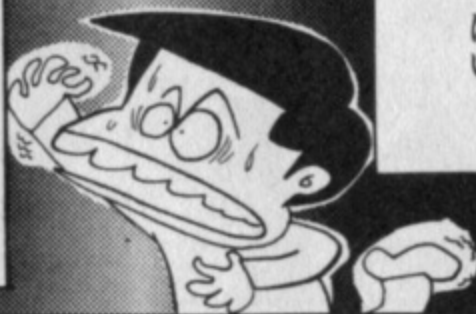


第7章 十界論



地獄も
餓鬼も
畜生も
みんな
自分の本能の
あがきだけで
せいっぱい
でしょ

とても
他の生命に攻撃を
かけるようがない



ところが
修羅になると
人よりえらく
自分を見せたいとか

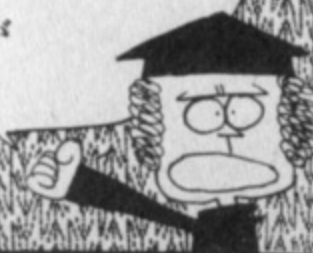
人より強く
なりたいという
エゴイズムが
めばえて
います

なるほど
少しは
強いわけ
ですね



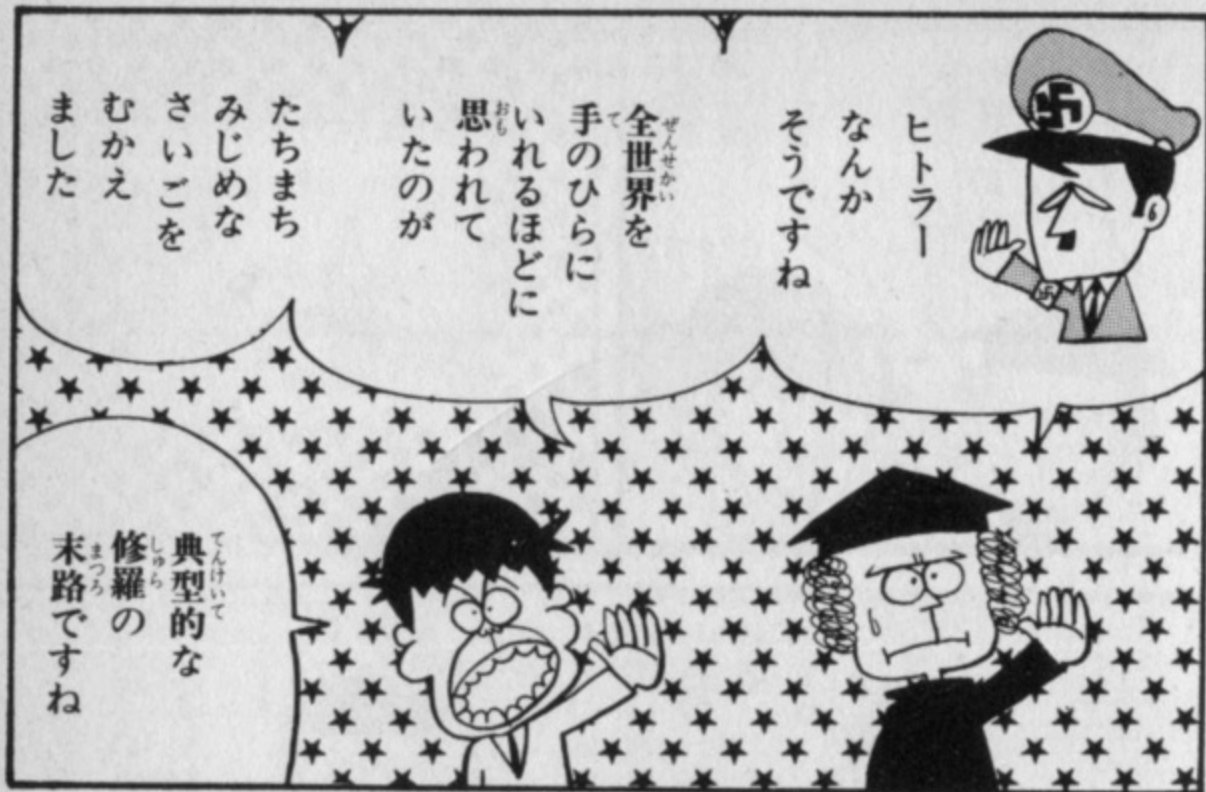
ひとより勝ちたいとか
ひとをバカにする
エゴの心が
他人に対して
やきもちをやいたり
怒ったり憎んだり
みえをはったり
させるのですね

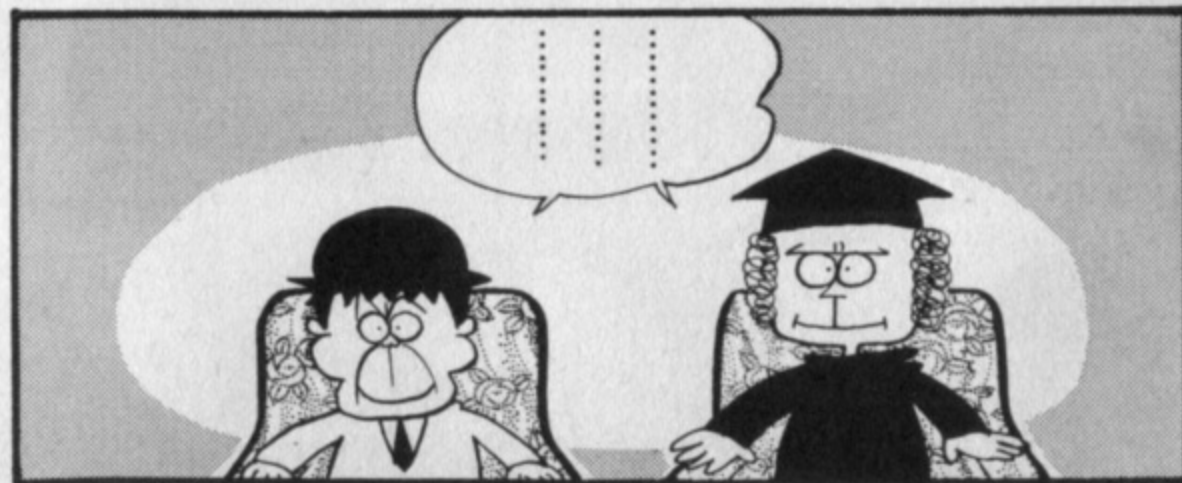
狂気とは
いえ
生命に
エネルギーが
あるのです





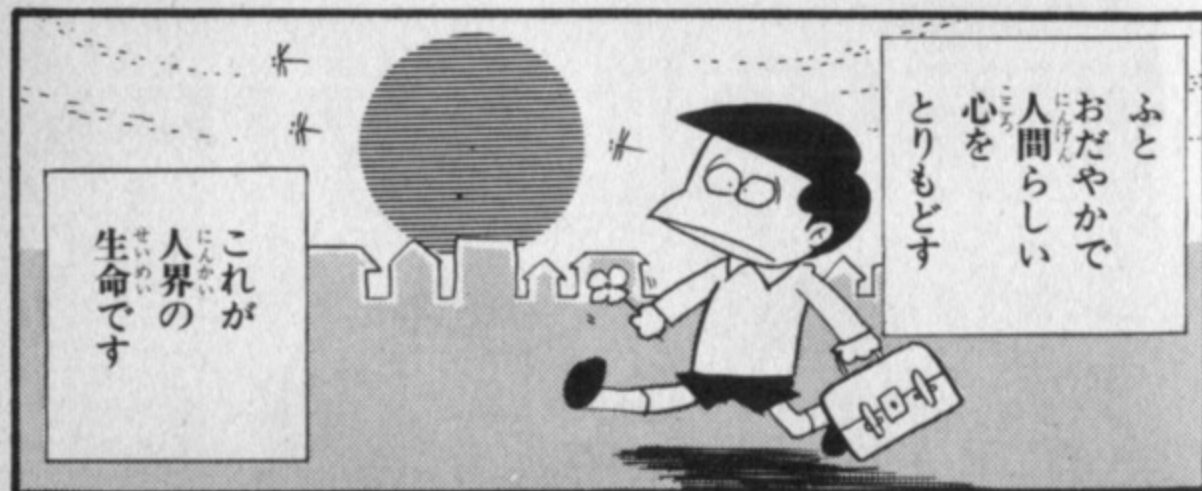
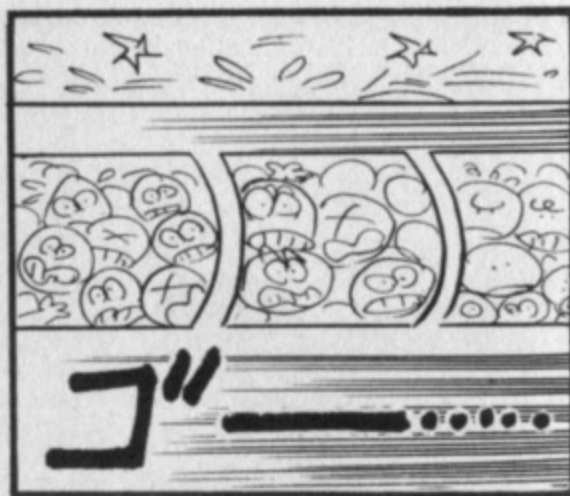




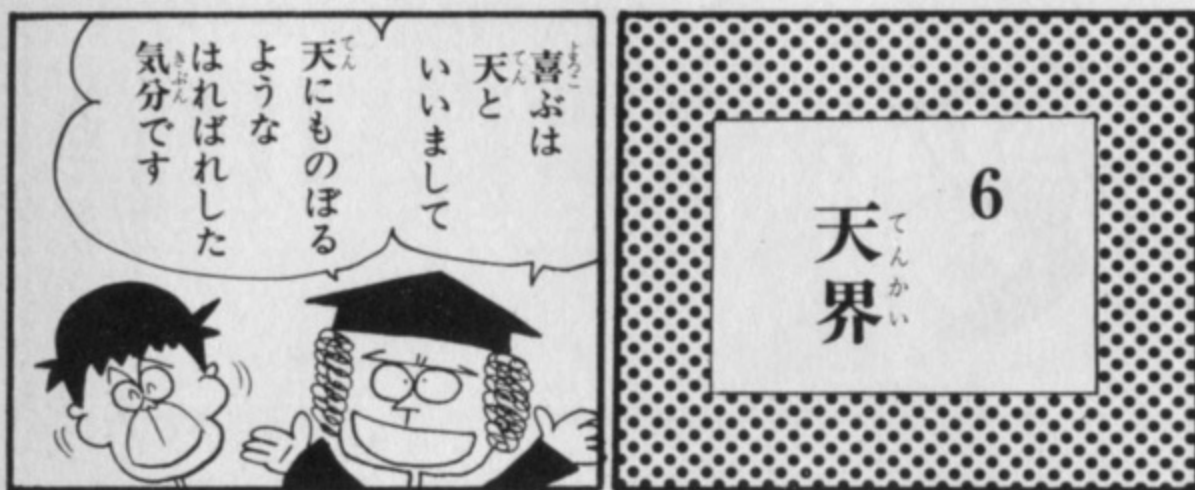
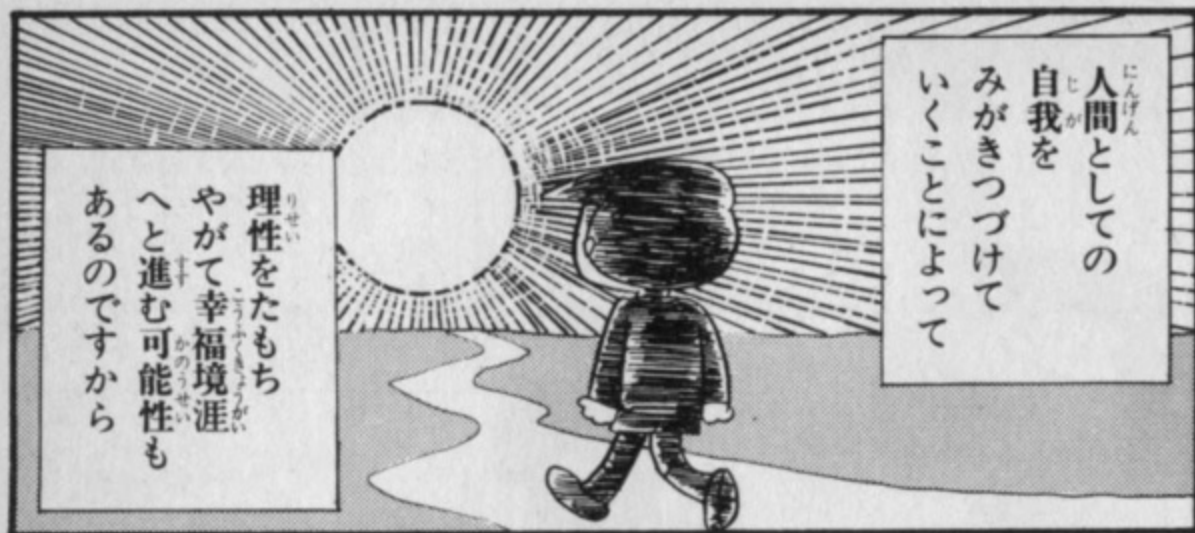


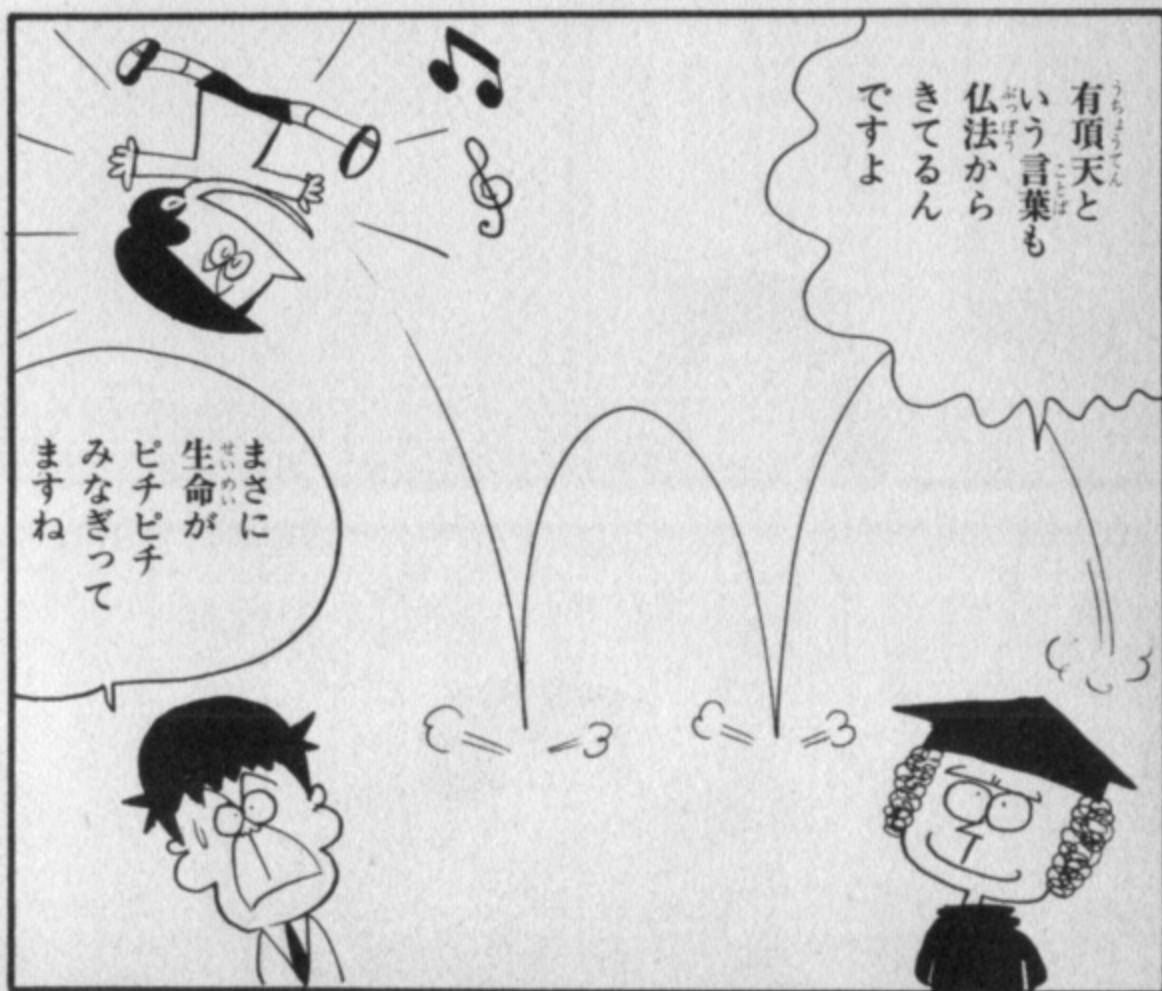


まんいん電車に
もまれて
やっと家の近くまで
帰ってきたとき.....

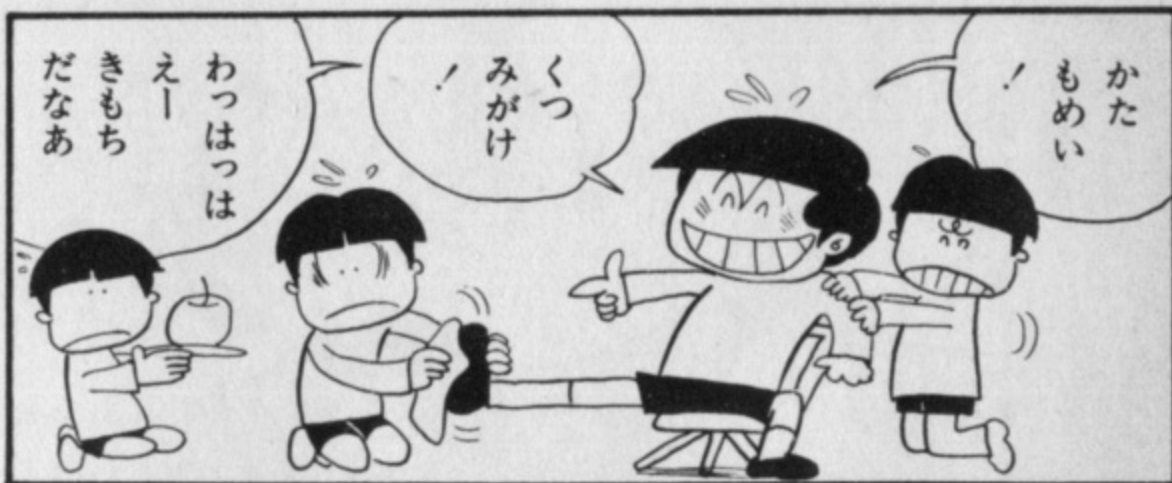












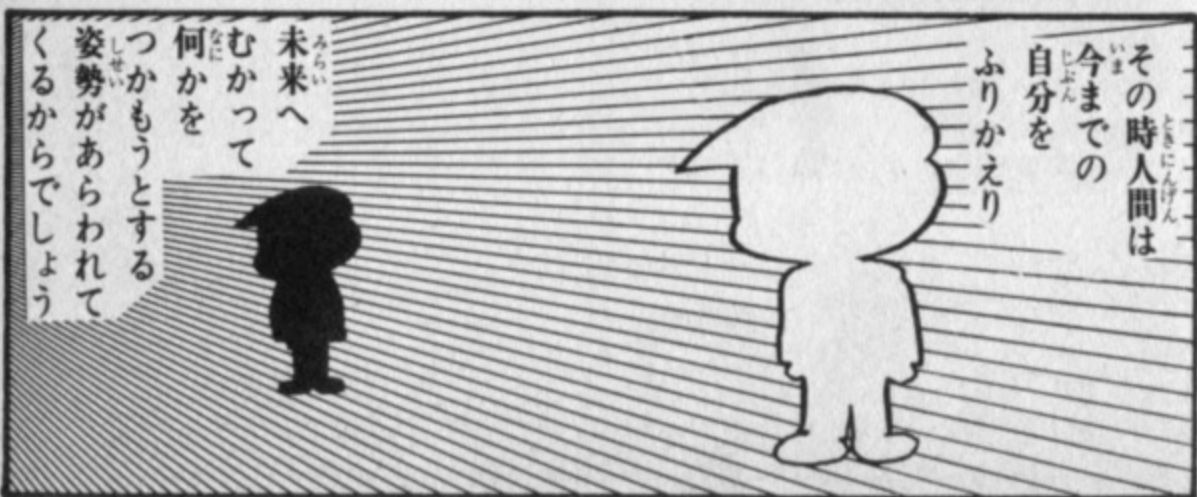












本を読んで
人生の
生き方を
つかもうと
努力を
はじめます



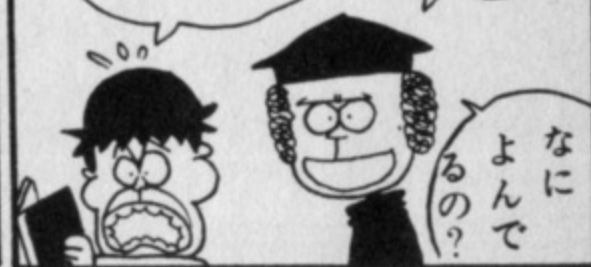
心を強く
ゆさぶるような
文章との
出会い……

感激の波が
自分の人生をも
変えていく
気持ちになるでしょう



それが
声聞界の
生命
です

わーっ
すごい
うーん
すごい！



なに
よんで
るの？

このマンガ
とっても
おもしろ
い！！

そんなの
だめっ



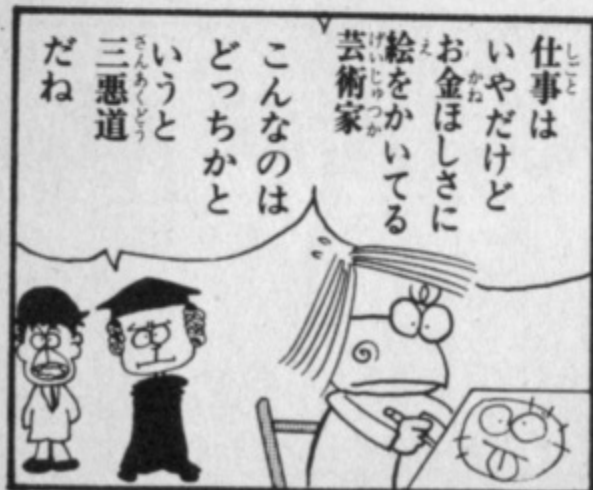
科学者なんか
必死で研究に
とりくんで
いる……



私たちが
音楽を聞いて
感動する……

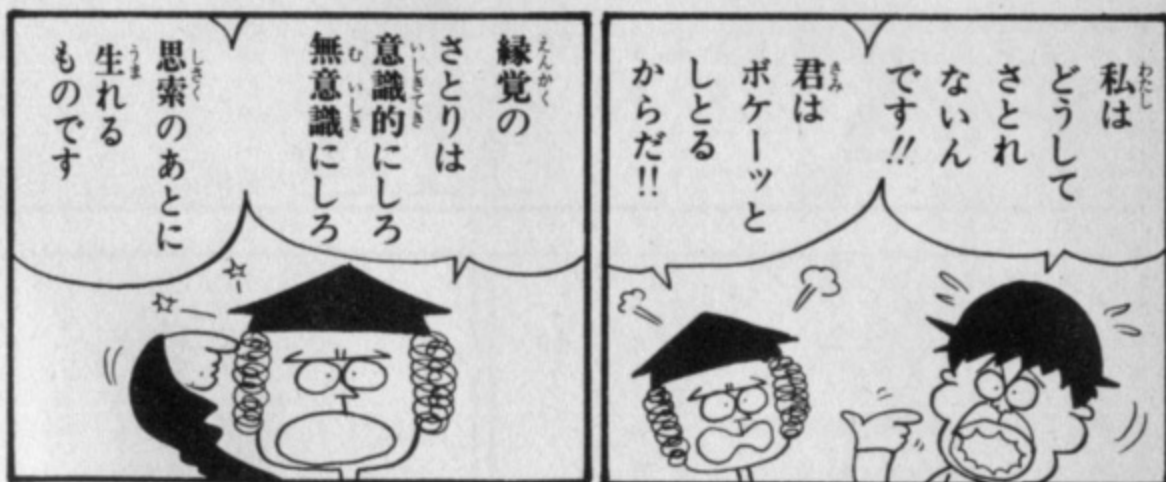
すばら
しい！！

















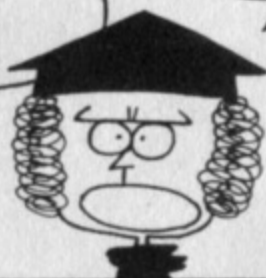




9
菩薩界

六道輪廻を
すぎ……

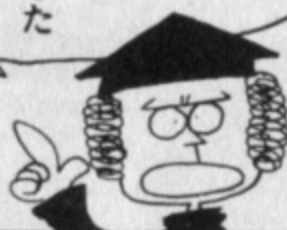
二乗の
生命まで
行ってみたけど……



まだ
真実の
幸福は
つかめ
ない

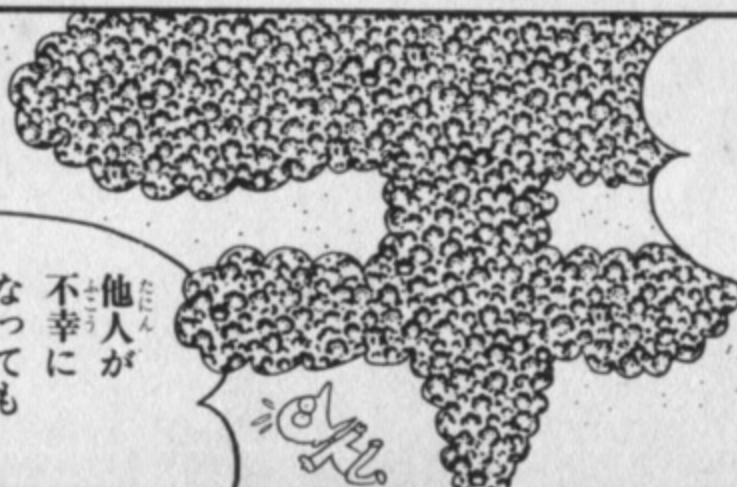
なぜ
でしょ？

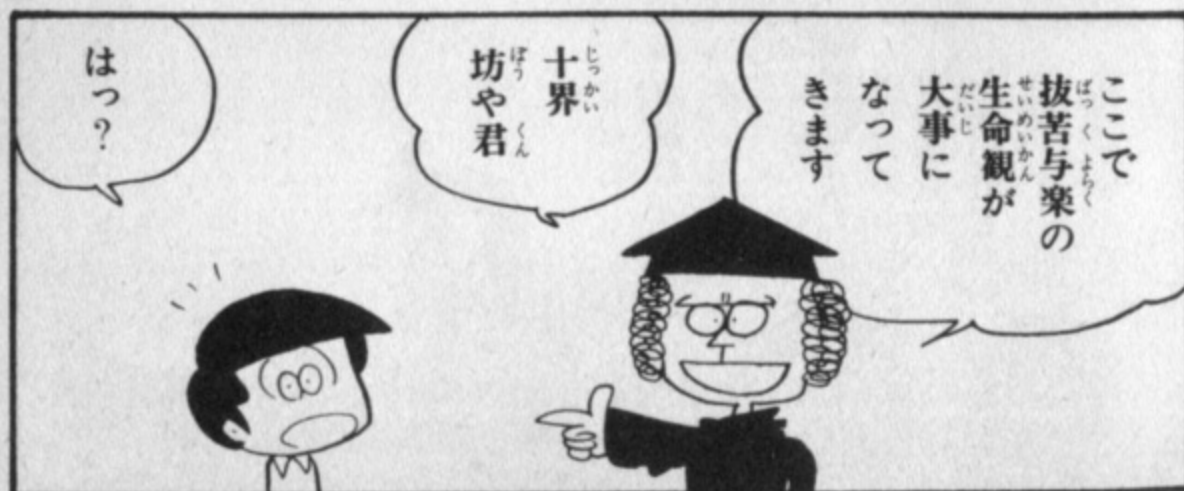
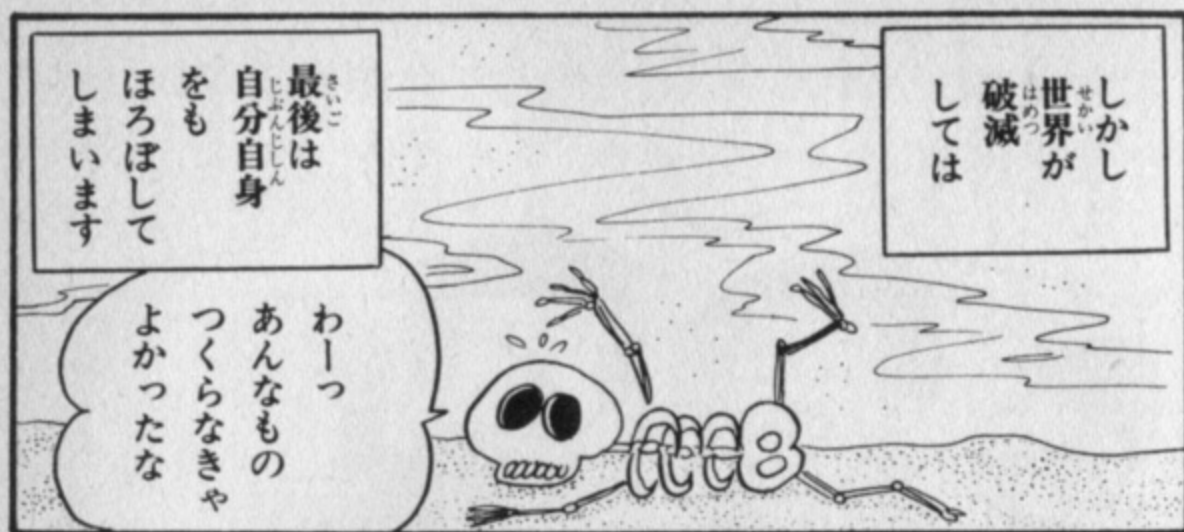
それは
今まで
自分の
幸福だけを
おいかけてきた
からです



とくに
二乗は
自分だけの
いきがいを
追求して

他人が
不幸に
なっても
平気でした









こういう
話も
あります

とし
年よりのお母さん
が不自由な目
でぬいものを
しているのを
見た少年が…



世のなかには
お母さんとお
なじように
夜おそくまで
はりしごとを
している人が
たくさん
いるのだ…

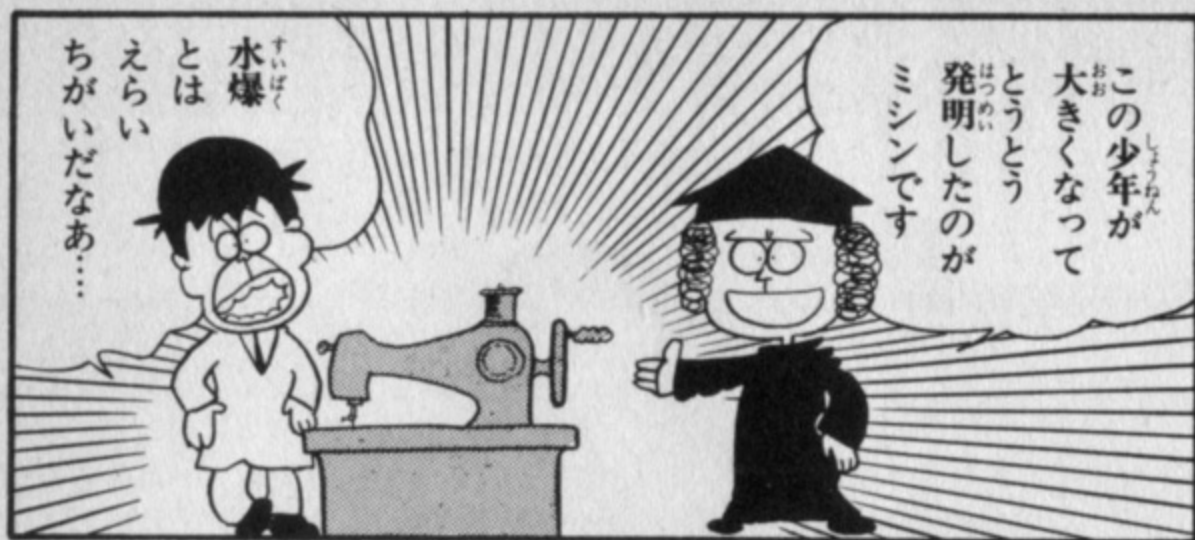
なんとかして
そんな人びとに
楽を
させて
あげたい……



この時の
少年の心は
すでに
お母さん
だけでなく
無限の人びとの
苦しみと一体に
なつて
「同苦」
している

えらい
やつちゃ
なあ……





人命救助も
菩薩の
行動……

慈善
事業も
菩薩の
生命の
はたらき
です

不幸な人を
救おう



それが
幸福への
道です
か？

さんねん
ながら……

今まで
のべたのは
進化の
菩薩と
いって
最高の
菩薩では
ないのです

あなたが
いくら
人に
お金を
あげても

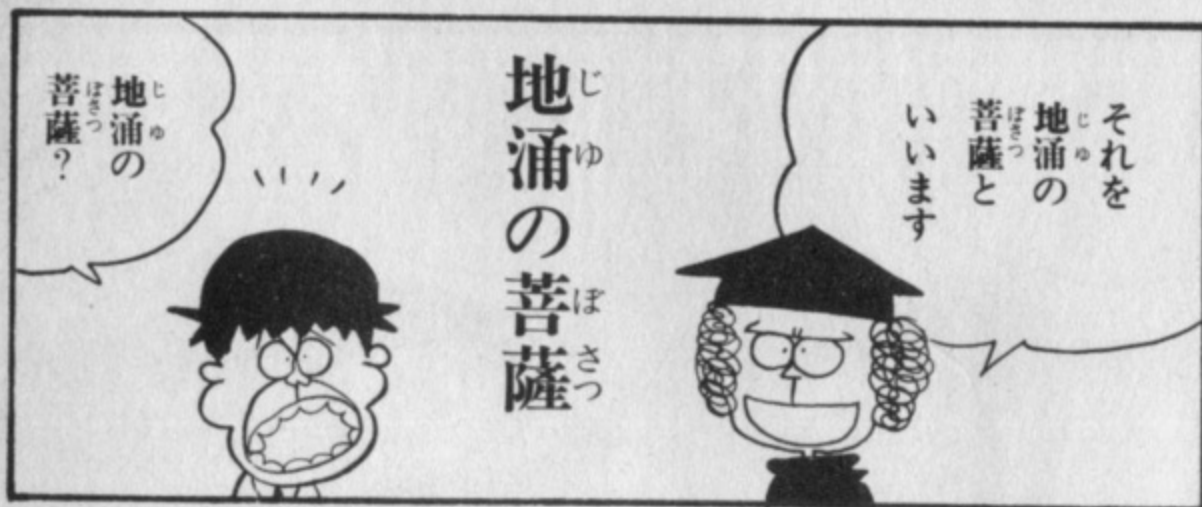
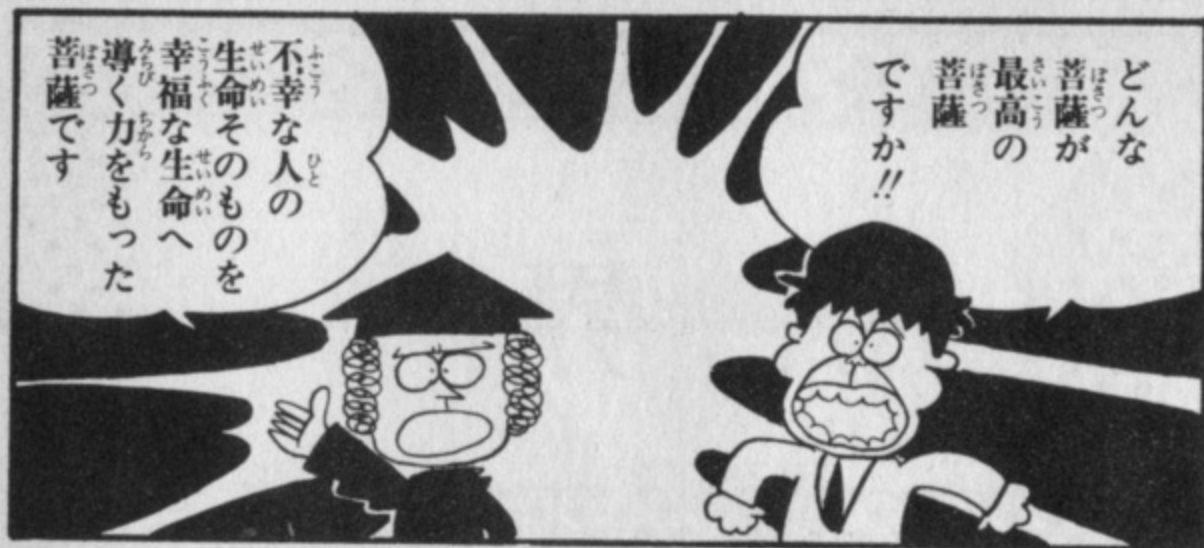
もらった
人が
必ずしも
幸福に

なれるとは
限りませんし

あなたは
びんぼうに
なるばかり
です

なんだ
なんだ

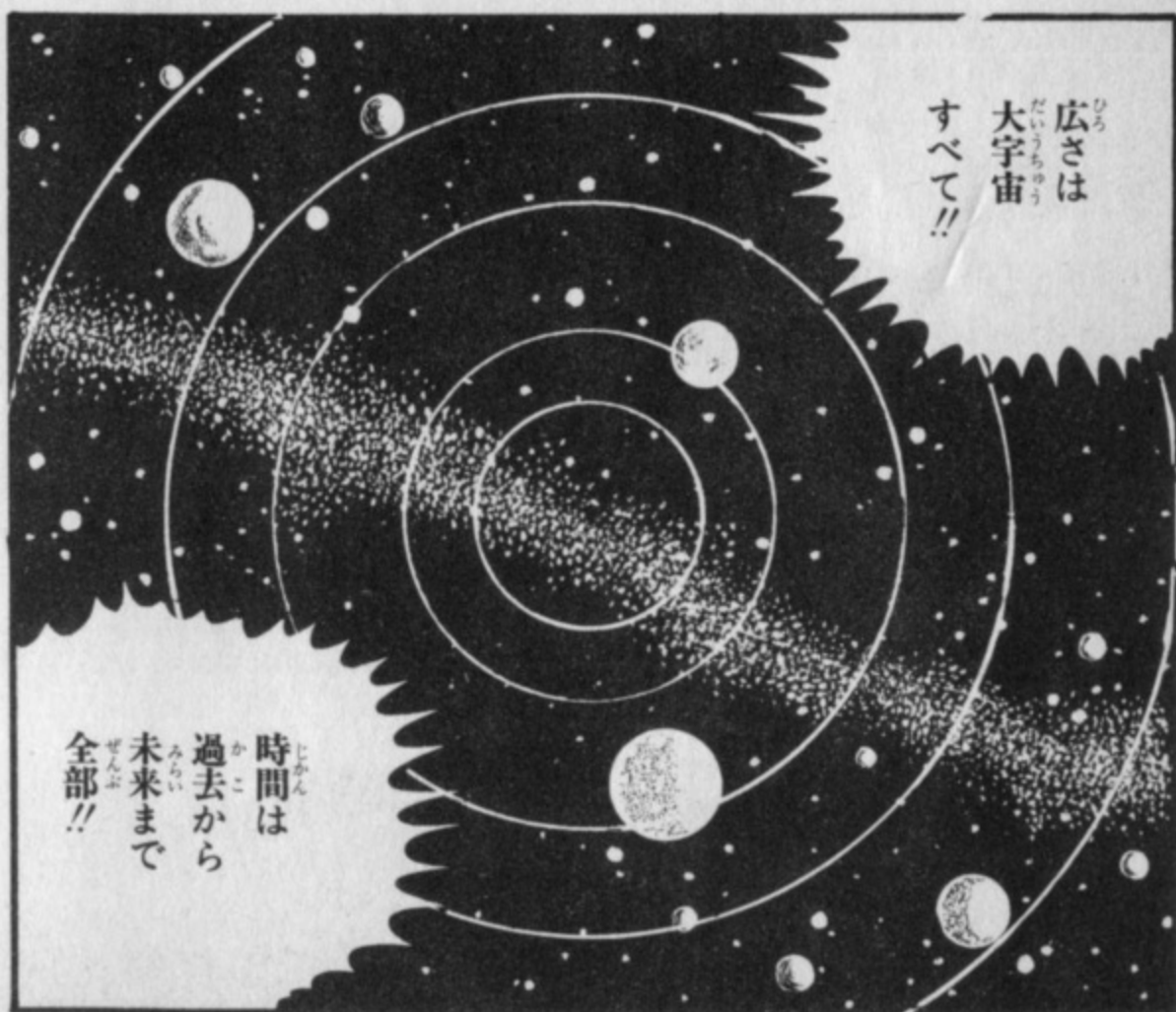




10 かい ぶつ 界 仏







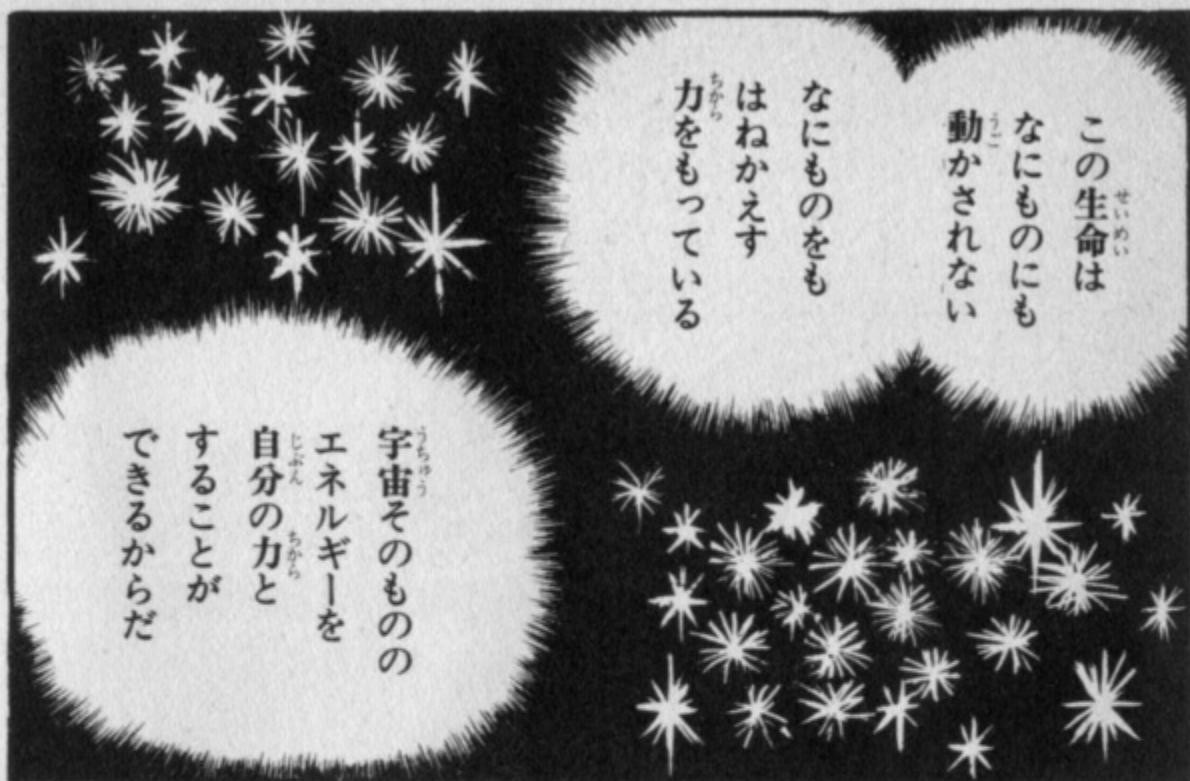
自分自身じぶんじしんの
生命せいめいは
この宇宙うちゅうの
はじまりから
ずっと
あった！

そして
これから
宇宙うちゅうとともに
あり
つづける……

三世さんぜ
十方じゅうほう

それがすべて
自分自身じぶんじしんの
生命せいめいだ

自己じこの
生命せいめいは
永遠えいえんの広がり
永久えいきゅうの時間じかんを
そのなかに
もっている……



この生命は
なにものにも
動かされない

なにものをも
はねかえす
力をもっている

宇宙そのものの
エネルギーを
自分の力と
することが
できるからだ



その
絶対的幸福は
決して
くずれる事はない

つねに
最高の境界へと
自分を
導くことができる

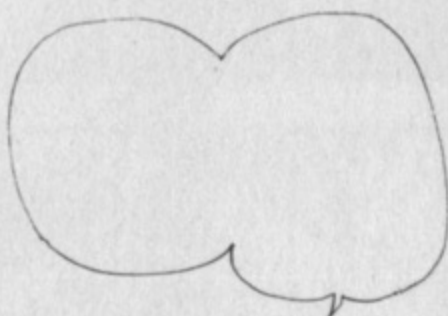
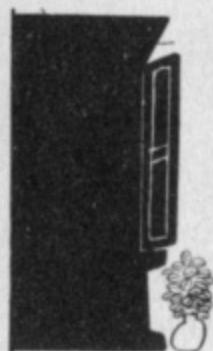
ということとは
全宇宙の生命をも
幸福にできる
力をもつ

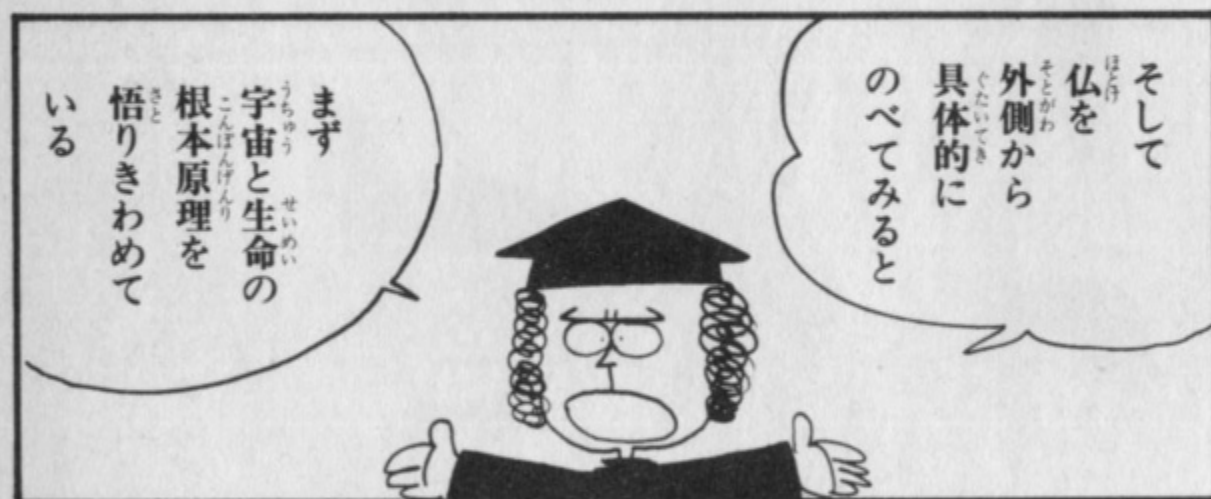
その
ちから
力を……
その
せいめい
生命エネルギーを
つかんだもの……

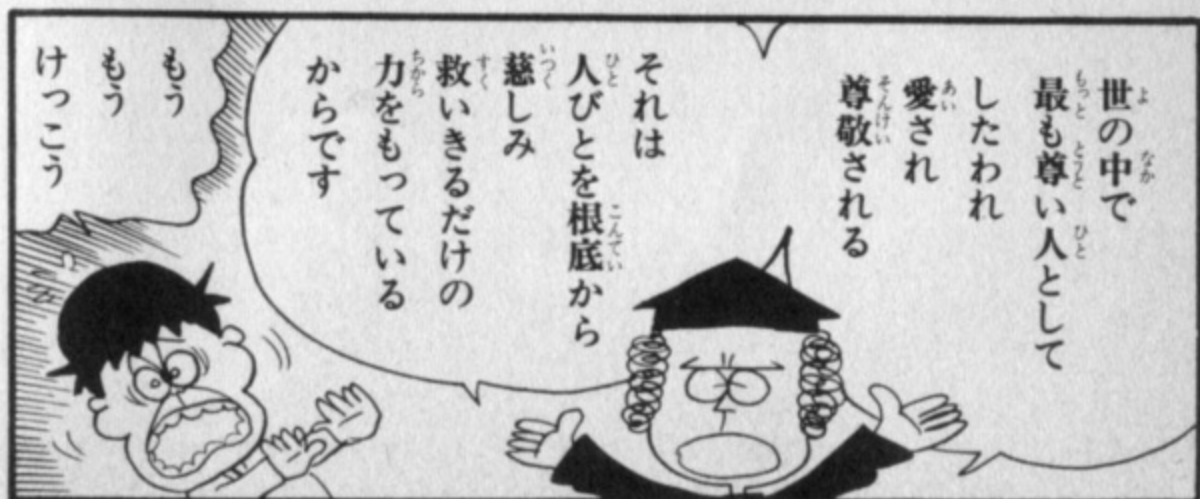
それが
ほとけ
仏だ!!

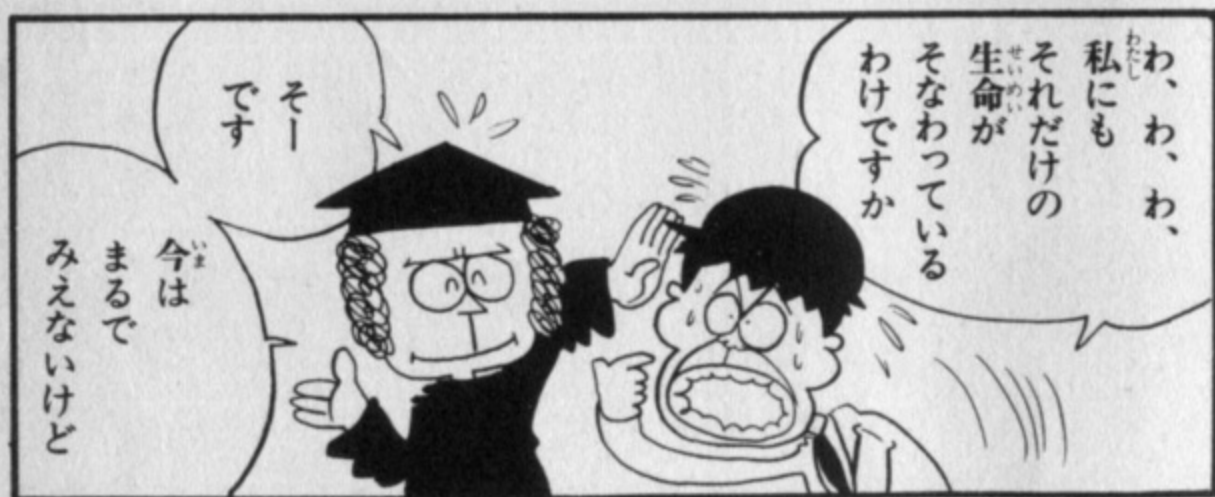
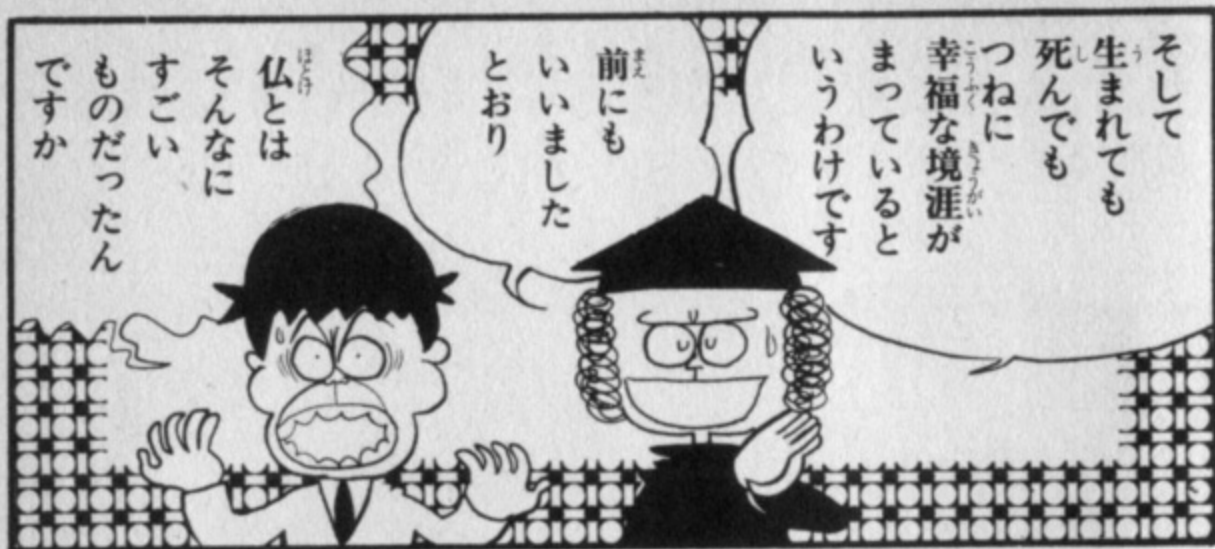
終章

生命の仏

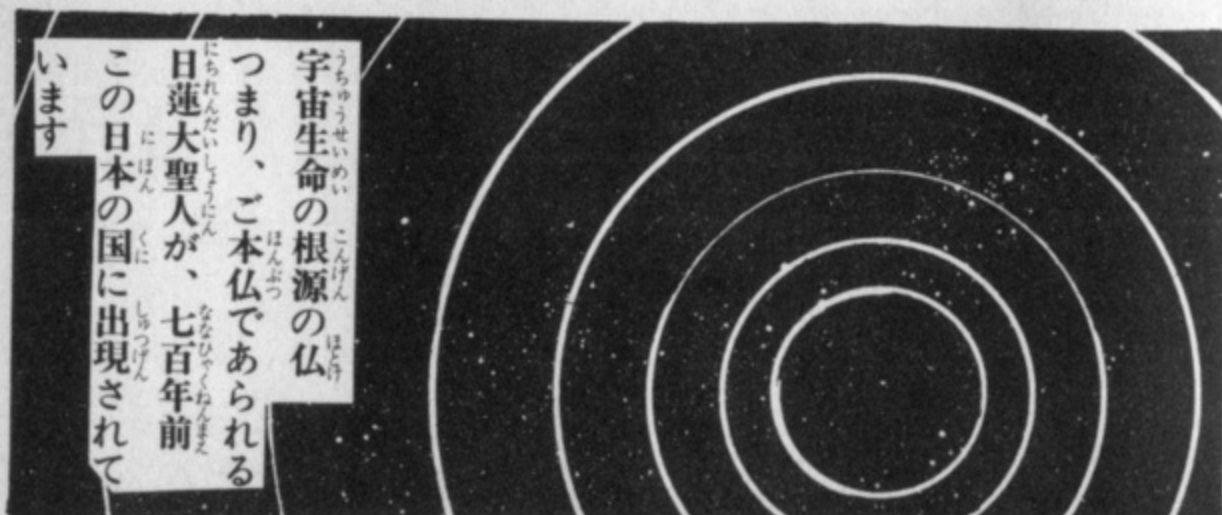






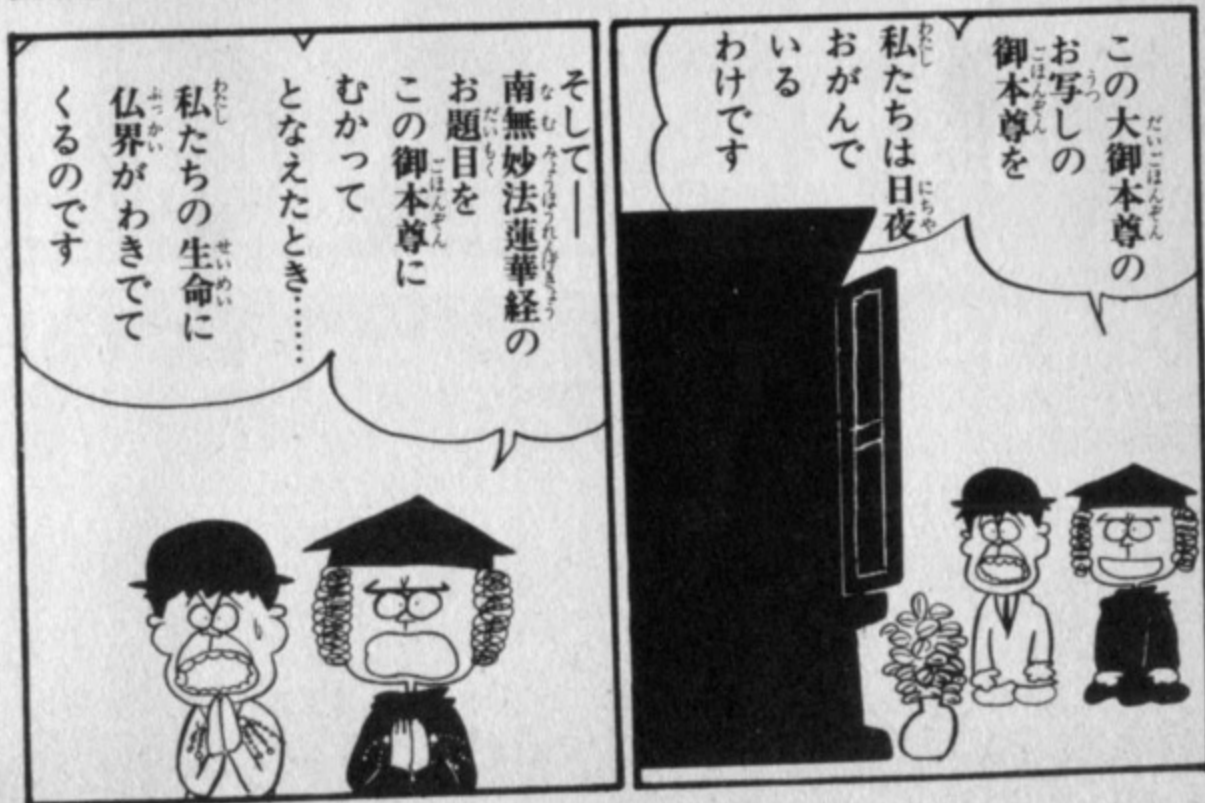








そして大宇宙に
みなぎる仏の生命を
南無妙法蓮華經の
御本尊として
あらわされ未来永遠の
すべての人のために
のこしてくださった
のです
この大御本尊は
げんざい大石寺の
正本堂に
御安置されています



この大御本尊の
お写しの
御本尊を

私たちは日夜
おがんで
いる
わけです

そして—
南無妙法蓮華經の
お題目を
この御本尊に
むかつて
となえたとき……
私たちの生命に
仏界がわきでて
くるのです







人を最高の
幸福へと
みちびくと
いうことは

まえにならった
因果の理法に
てらしあわせて
かんがえてみると…

自分自身に
またその
しあわせが
かえつてくると
いうことですね
!!

その
とおり
です
!!

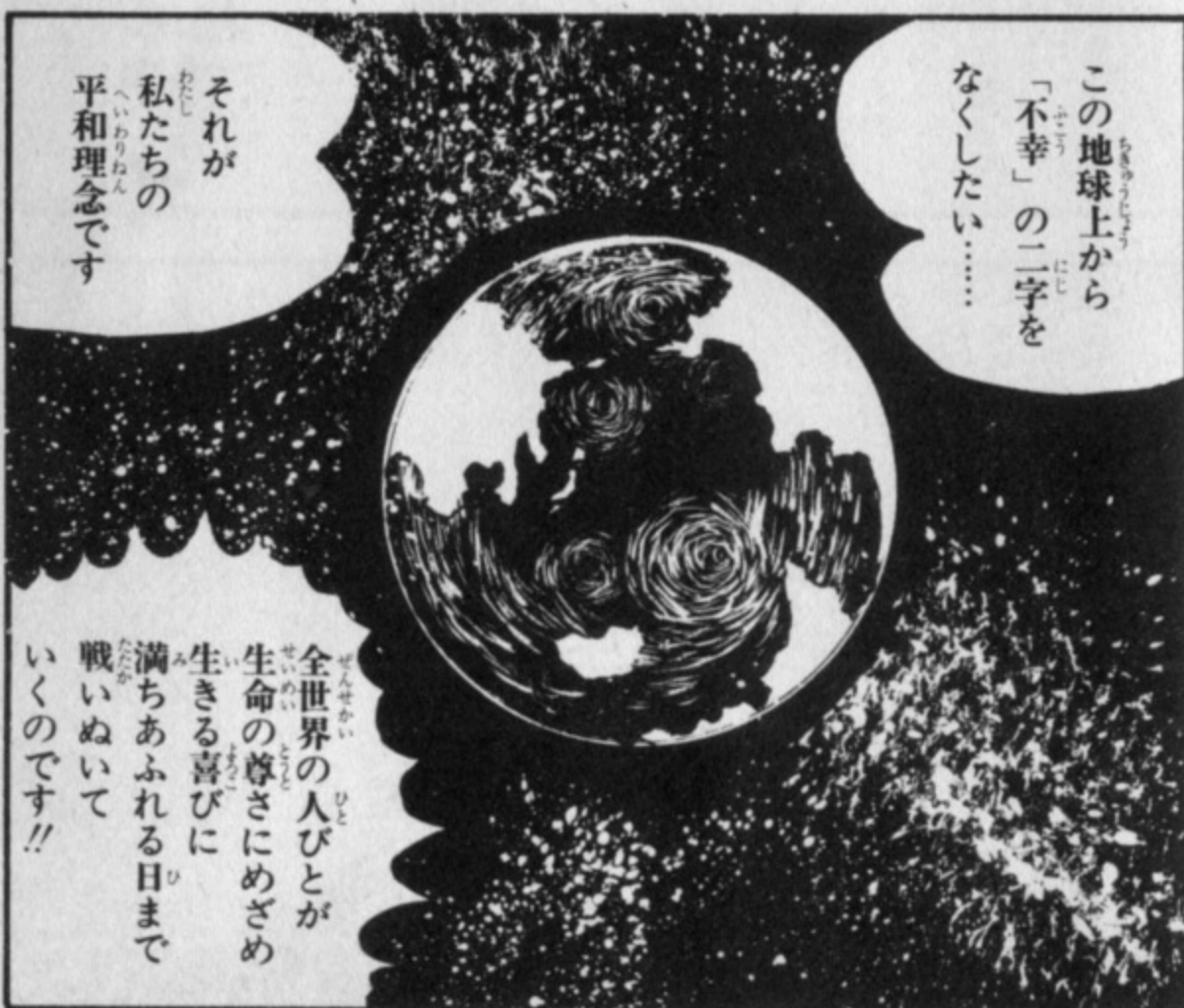
一生涯
この大仏法を
たもちつづけ…

自己の生命を
みがいて
みがいて
みがきぬき

地涌の菩薩として
りっぱに
かつやく
していく

このすばらしい
人生、
かがやかしい
生き方

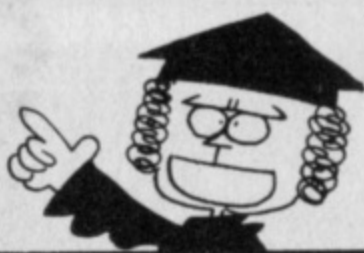
それが人間革命
広宣流布への
道なのです!!



あつ
むこうに
じっかいほう
十界坊やが
いくよ



未来からの
使者の
使命に燃えて
坊やは
第一歩を
ふみだした!

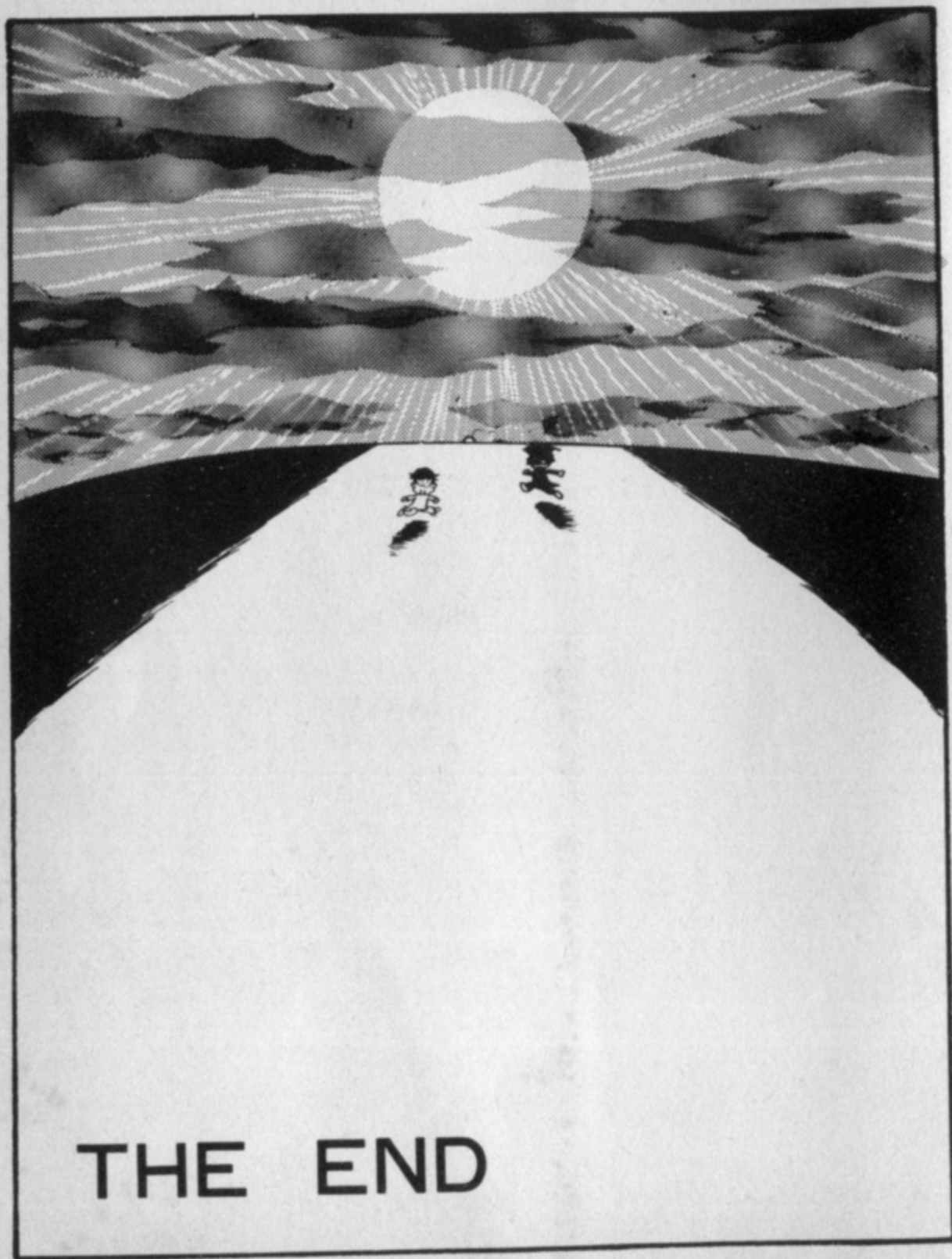


ほくたち
おとなも
まけては
いられないっ



おーい
坊や
まって
くれーっ





THE END